

令和3年度志木市国民健康保険  
レセプト疾病構造分析事業報告書  
(令和2年度分)

令和4年3月

志木市国民健康保険



# 目次

第1章 事業の概要.....	1
1. 事業の目的.....	1
2. 実施方法.....	1
3. 集計・分析の対象.....	1
第2章 医療費の状況.....	2
1. 国民健康保険被保険者数の構成.....	2
第3章 医療費の構造分析.....	3
1. 令和2年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合.....	3
2. 令和2年度の医療費, レセプト件数の状況.....	6
3. レセプト件数が36件以上(平均3件/月)の人数.....	7
4. 頻回受診者の疾病構造.....	8
5. 長期入院患者の疾病構造.....	10
第4章 国保医療費の疾病構造.....	12
1. 疾病分類別の総医療費と受療割合(入院, 入院外を含む全体の医療費).....	12
2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合.....	18
3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合.....	22
第5章 国保医療費の上位疾患の構造.....	27
1. 国保医療費の入院の上位疾患.....	27
2. 国保医療費の入院外の上位疾患.....	28
第6章 注目疾患別に見た診療の状況.....	30
1. 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院医療費.....	30
2. 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院外医療費.....	31
3. うつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院医療費.....	34
4. うつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外医療費.....	35

5.	関節疾患に対する入院医療費.....	37
6.	関節疾患に対する入院外医療費.....	38
7.	風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費.....	40
8.	風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費.....	41
9.	新生物に対する入院・入院外医療費.....	43
10.	注目する精神および行動の障害に対する入院・入院外医療費.....	45
11.	COVID-19 に対する入院・入院外医療費.....	47
第7章 地区別の医療費の構造分析.....		48
1.	令和2年度の性別・地区別一人当たりの医療費と受療割合.....	48
2.	令和2年度の地区別・年齢群別一人当たりの医療費と受療割合.....	50
第8章 地区別の国保医療費の疾病構造.....		52
1.	疾病分類別の地区別総医療費と受療割合(入院, 入院外を含む全体の医療費).....	52
2.	疾病分類別の地区別・年齢階級別の総医療費と受療割合(入院, 入院外を含む全体の医療費).....	57
第9章 特定健康診査の受診状況.....		64
1.	特定健診の受診状況.....	64
2.	令和元年度と令和2年度の保健指導レベルの関係.....	64
3.	メタボリックシンドローム(以下, メタボ)の状況.....	65
4.	測定項目の状況.....	66
第10章 まとめ.....		100
1.	国保医療費のまとめ.....	100
2.	特定健診のまとめ.....	101
3.	今後の方向性.....	102

## 第1章 事業の概要

### 1. 事業の目的

志木市国民健康保険被保険者のレセプトデータ及び特定健康診査の結果を分析し、医療費の動向、市民の疾病の構造、受療行動について調査する。本データに基づき、本市の疾病の課題に対する具体的な方策等を検討することを目的とする。

### 2. 実施方法

令和2年4月～令和3年3月診療分の国民健康保険医科のレセプトデータを集計した。レセプトデータはICD10の傷病名コードに記載される5,515傷病名を対象とし、本データに基づき、糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、悪性新生物、腫瘍、精神および行動の障害、睡眠障害・不眠症、変形性膝関節症、心疾患、脳血管疾患、脳出血、脳梗塞、骨粗しょう症、腎不全、アルツハイマー病、急性上気道感染症、肺炎等について解析を行った。さらに、ICD10の大分類に基づき解析を行った。

### 3. 集計・分析の対象

#### 3.1. レセプトデータ

表1-1に志木市国民健康保険の令和2年4月～令和3年3月診療分の医科レセプトデータ数を示した。令和2年度の全レセプトデータ件数は103,899件であった。

表 1-1 令和2年度の志木市国民健康保険のレセプトデータ件数

	レセプト件数[件]
4月	7,784
5月	7,238
6月	8,706
7月	8,744
8月	8,437
9月	8,766
10月	9,598
11月	8,743
12月	9,524
1月	8,069
2月	8,621
3月	9,669
合計	103,899

## 第2章 医療費の状況

### 1. 国民健康保険被保険者数の構成

志木市国民健康保険の令和2年度の被保険者数の人数を図2-1に示す。表2-1にはその構成比を性別に示した。年齢区分は5歳とした。構成比について20歳未満は8.6%、20～59歳は44.2%、60～74歳は47.2%であった。65歳以上は40.2%であった。

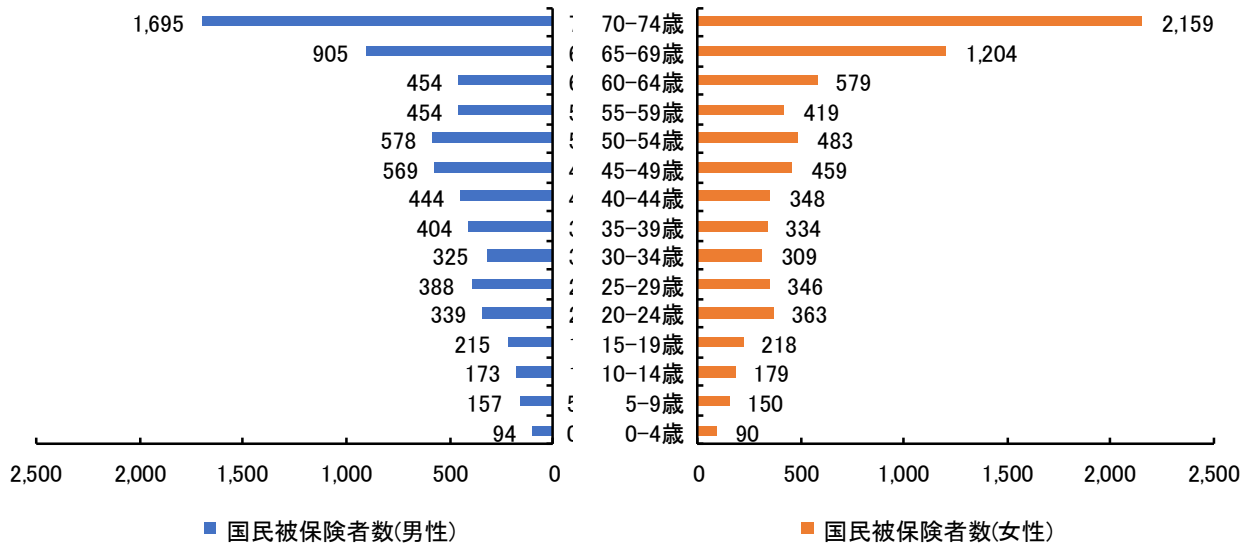


図2-1 志木市の年齢区分別の国民健康保険被保険者数

表2-1 志木市の年齢階級別の国民健康保険被保険者の構成比

男性		年齢区分 [歳]	女性	
人数[人]	構成比[%]		人数[人]	構成比[%]
94	1.3	0-4	90	1.2
157	2.2	5-9	150	2
173	2.4	10-14	179	2.3
215	3	15-19	218	2.9
339	4.7	20-24	363	4.8
388	5.4	25-29	346	4.5
325	4.5	30-34	309	4
404	5.6	35-39	334	4.4
444	6.2	40-44	348	4.6
569	7.9	45-49	459	6
578	8	50-54	483	6.3
454	6.3	55-59	419	5.5
454	6.3	60-64	579	7.6
905	12.6	65-69	1,204	15.8
1,695	23.6	70-74	2,159	28.3
7,194	48.5	計	7,640	51.5
2,600	36.1	65歳以上	3,363	44

### 第3章 医療費の構造分析

#### 1. 令和2年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合

医療費の分析において、74歳は誕生日を迎えることで75歳の後期高齢者医療制度に移行するため、医療費解析は令和3年3月31日時点において74歳までの人を対象に行った。表3-1に性別、年齢階級別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合を示した。すべてのデータは医療機関にかかっていない0点(医療費)、0日(診療日数)、0件(レセプト件数)の人を含めずに解析した。医療費、レセプト件数の合計を受療人数(医療機関を受療した人数)で除した値である平均値を示した。受療割合は、入院および入院外の受診者を当該年齢階級の人数で除し、100を乗じたものである。

図3-1に男性、図3-2に女性の年齢階級別の一人当たりの総医療費と入院外医療費を示した。図3-1、3-2より、男女ともに総医療費、入院外医療費は年齢とともに増加するカーブであった。加えて、男女ともに40-44歳のタイミングで総医療費が大きく増加することがわかった。

図3-3に性別、年齢階級別の一人当たりのレセプト件数を示した。図3-3より、レセプト件数は子どもと高齢者が多く、男女ともに20-24歳が少ない傾向にあった。レセプト件数が12件を超えるのは男性で55-59歳、女性で50-54歳であり、50歳代から1ヶ月に1回は医療機関に受診していることが推定できる。

表 3-1 年齢階級別の一人当たりの総医療費, レセプト件数, 受療割合

		総医療費[円]	レセプト件数 [件]	入院			入院外		
				診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]
男性	0-4歳	56,579	8.7	0	0	0	6.5	56,579	72.3
	5-9歳	43,449	7.5	0	0	0	5.7	43,449	70.1
	10-14歳	38,153	6.1	0	0	0	4.6	38,153	73.4
	15-19歳	35,790	5.7	0	0	0	4.3	35,790	58.1
	20-24歳	33,677	4.8	0	0	0	3.8	33,677	36.9
	25-29歳	74,426	5.8	15.3	529,223	1.0	4.6	60,043	36.6
	30-34歳	80,286	5.9	0	0	0	4.3	80,286	42.8
	35-39歳	159,889	7.6	200.5	3,187,917	1.5	5.6	54,818	44.3
	40-44歳	267,441	9.6	110.0	8,113,215	0.9	6.3	119,121	48.9
	45-49歳	188,202	10.8	105.7	1,896,996	1.9	6.9	116,621	49.4
	50-54歳	212,924	11.3	96.0	2,149,362	1.7	7.0	147,646	56.4
	55-59歳	283,879	13.8	99.7	1,863,202	2.4	8.2	210,115	60.4
	60-64歳	369,268	16.0	92.5	2,211,568	4.0	9.2	240,695	66.3
	65-69歳	256,886	14.4	70.8	1,479,976	4.0	9.7	184,119	78.6
70-74歳	357,821	17.3	62.8	1,871,853	4.7	11.0	255,926	84.4	
女性	0-4歳	46,709	7.8	0	0	0	5.9	46,709	72.2
	5-9歳	43,366	7.7	0	0	0	6.0	43,366	70.0
	10-14歳	42,210	7.4	0	0	0	5.7	42,210	72.1
	15-19歳	51,550	6.1	46.5	1,066,290	0.9	4.8	35,870	62.4
	20-24歳	32,188	4.8	4.0	47,662	1.7	4.0	30,631	44.9
	25-29歳	71,916	7.2	6.2	240,442	2.6	5.1	56,004	39.3
	30-34歳	52,450	7.3	6.1	120,976	2.6	5.5	46,655	54.0
	35-39歳	123,454	8.3	94.5	2,222,303	1.2	6.1	79,625	59.9
	40-44歳	180,288	10.5	54.1	1,080,023	4.0	7.7	111,440	62.4
	45-49歳	135,413	10.4	150.7	2,564,201	1.5	7.7	76,680	65.6
	50-54歳	146,840	12.7	60.8	1,347,002	1.9	8.0	107,829	63.6
	55-59歳	146,075	13.4	86.9	1,800,633	1.7	8.8	102,624	66.8
	60-64歳	161,857	13.3	40.4	979,594	2.4	9.1	131,126	76.2
	65-69歳	186,543	14.6	51.0	1,468,076	1.8	10.3	154,960	83.0
70-74歳	242,044	18.0	83.2	2,031,506	2.9	11.5	175,899	87.6	



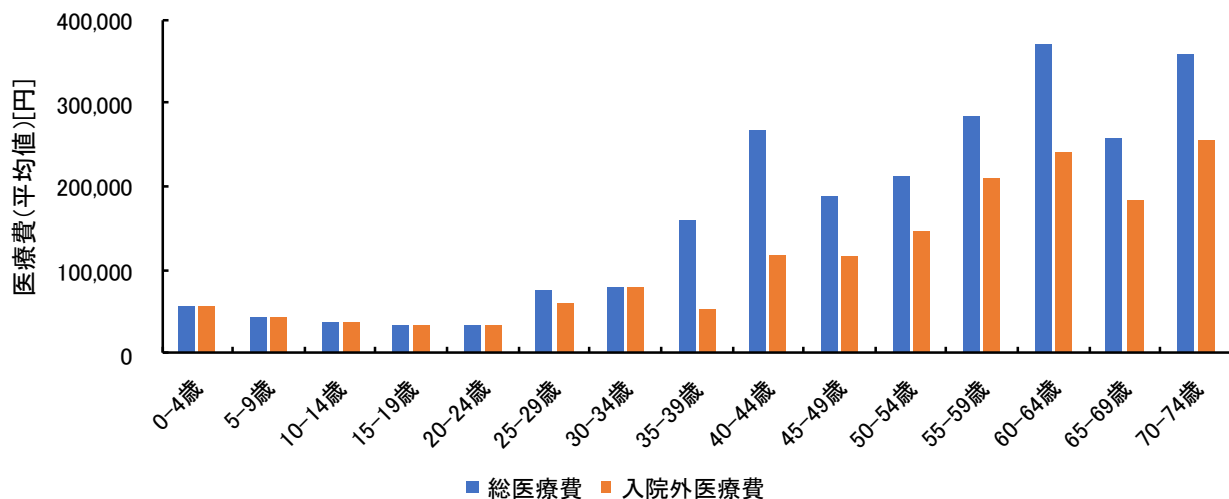


図 3-1 男性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

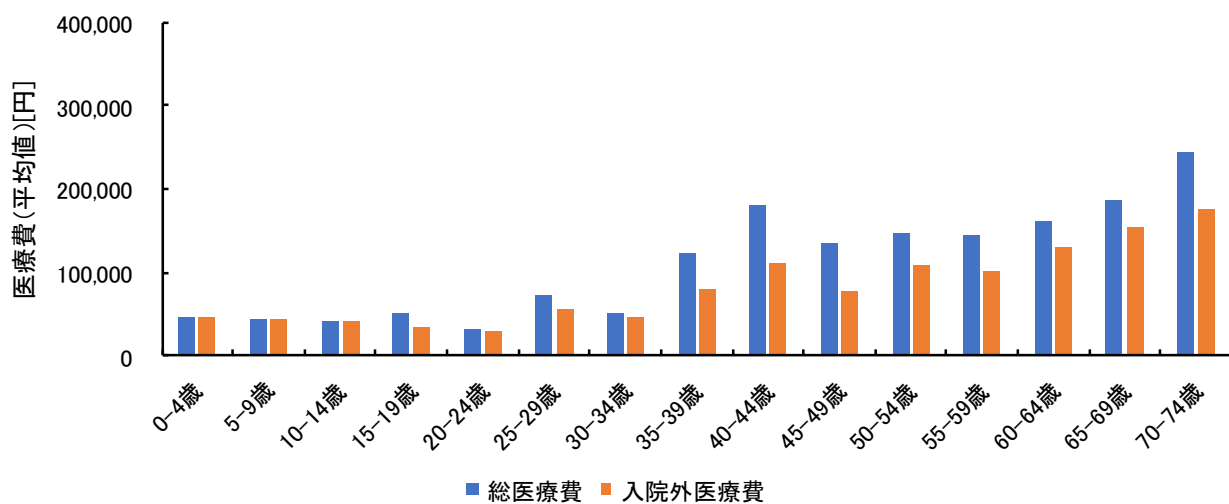


図 3-2 女性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

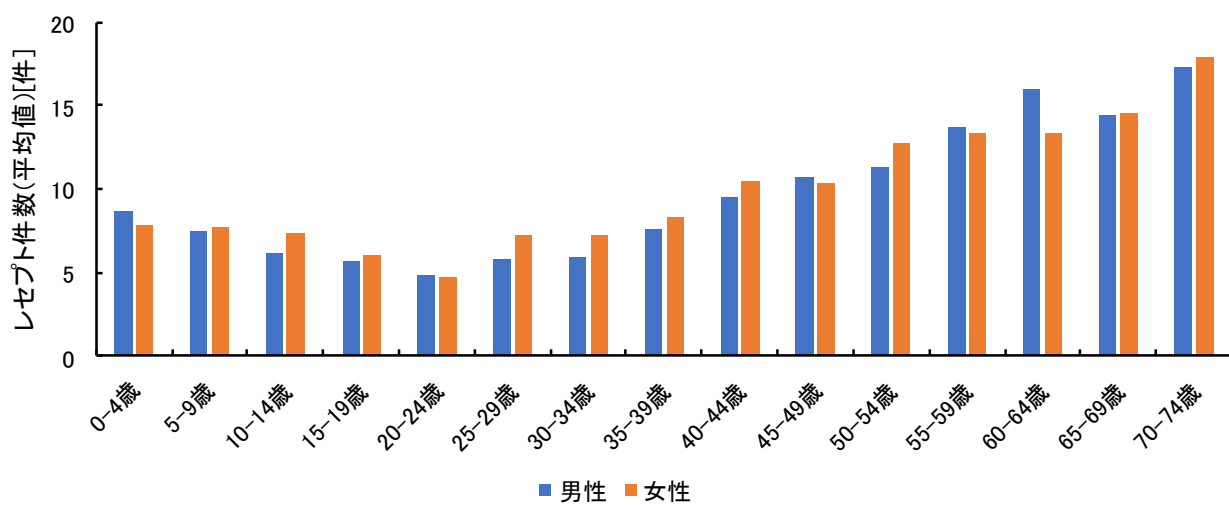


図 3-3 一人当たりの年齢階級別レセプト件数

## 2. 令和2年度の医療費、レセプト件数の状況

表3-2に全体の医療費、レセプト件数について平均値、中央値、最大値等を示した。医療費やレセプト件数は値が極端に大きい人が含まれると、平均値が大きくなる傾向がある。そのため、ここでは中央値も示すこととした。

令和2年度の受療者全体の平均年齢は53歳、中央値は59歳であった。入院と入院外の医療費を合計した総医療費の平均値は204,500円、中央値は57,240円であった。令和元年度からは平均値は7,519円、中央値は1,170円増加していた。入院外診療日数に着目すると最大値に298日とあり、該当対象者は1年間のレセプト件数が36件、傷病名が152個であり、複数の医療機関に頻回に受診していることからこの値が導出された。レセプト件数の最大値は64件(入院外診療日数:75日、傷病名410個)であった。

表3-2 全体の医療費、レセプト件数

	年齢 [歳]	総医療費 [円]	入院診療日数 [日]	入院点数 [円]	入院外診療日数 [日]	入院外点数 [円]	レセプト件数 [件]
平均値	53	204,500	71	1,741,528	13	146,495	9
標準偏差	20	744,462	109	2,358,094	19	496,849	7
中央値	59	57,240	18	742,380	8	55,950	7
最大値	76	24,503,530	367	23,805,590	298	11,629,290	64
25パーセントタイル	39	22,430	5	204,340	4	22,035	3
75パーセントタイル	71	124,520	78	2,403,880	15	117,770	12

### 3. レセプト件数が 36 件以上(平均 3 件/月)の人数

表 3-3 に令和 2 年度のレセプト件数が 36 件以上の年齢階級別の人数を示した。レセプト件数は医療機関を受診することにより月に 1 件提出される。つまり、月に 2 ヶ所の医療機関を受診すると 2 件提出される。1 ヶ月に多くの医療機関を受診する、あるいは特定の医療機関を複数日受診することは様々な問題が考えられる。

一般的に重複受診は同一月内に同一診療科を 3 ヶ所以上受診することをいう。頻回受診は同一月内に医療機関へ 15 日以上通院することをいう。同じ疾患で複数の医療機関を受診することは、治療効率の低下、検査の重複、調剤(投薬)の重複が考えられ、医療費の高騰を誘発するだけでなく、副作用のリスクも高まることが推察される。そのため、対策が求められる。

表 3-3 より、重複受診は男性は 55-59 歳、女性は 50-54 歳から増加し、男女ともに 70-74 歳から急激に増加していた。

表 3-3 年齢階級別のレセプト件数 36 件/年以上の人数

	男性[人]	女性[人]	合計[人]
0-4歳	0	0	0
5-9歳	0	0	0
10-14歳	0	0	0
15-19歳	0	0	0
20-24歳	0	0	0
25-29歳	1	0	1
30-34歳	0	0	0
35-39歳	0	0	0
40-44歳	0	0	0
45-49歳	0	1	1
50-54歳	0	4	4
55-59歳	3	5	8
60-64歳	4	3	7
65-69歳	6	7	13
70-74歳	15	21	36

#### 4. 頻回受診者の疾病構造

頻回受診者(予備群を含む)は、入院外診療日数が年間 120 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 80 名(平均年齢 65.5 歳)であった。男性 55 名(平均年齢 64.2 歳)、女性 25 名(平均年齢 68.4 歳)であった。総医療費は 271,329,340 円、レセプト件数は 1,898 件であった。

表 3-4 に ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。表 3-4 より、該当人数では第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患(76 名)、第 11 章の消化器系の疾患(75 名)、第 9 章の循環器系の疾患(74 名)が多いことがわかった。一人当たりの医療費では、第 5 章の精神及び行動の障害、第 8 章の耳及び乳様突起の疾患、第 15 章の妊娠、分娩及び産じょく、第 16 章の周産期に発生した病態を除く章では 300 万円を超えていることがわかった。特に、第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第 14 章の腎尿路性器系の疾患は 400 万円を超えていた。

表 3-5 に第 5 章の精神及び行動の障害に該当する傷病名の人数を示した。表 3-5 より、統合失調症、気分[感情]障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害の該当人数が多いことがわかった。

図 3-4 に注目する疾病に該当する人数を示した。図 3-4 より、高血圧、腎不全、糖尿病、脂質異常症などの慢性疾患の該当人数が多いことがわかった。

以上より、頻回受診者の特性として、腎不全や慢性疾患に加えて消化器系の疾患の受診者が多いことがわかった。

表 3-4 頻回受診者の疾病分類別の該当人数と一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	35	3,870,136
第2章 新生物	18	3,098,034
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	48	4,763,034
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	76	3,549,462
第5章 精神及び行動の障害	24	1,969,247
第6章 神経系の疾患	54	3,279,330
第7章 眼及び付属器の疾患	45	3,399,880
第8章 耳及び乳様突起の疾患	10	2,670,415
第9章 循環器系の疾患	74	3,614,983
第10章 呼吸器系の疾患	48	3,418,381
第11章 消化器系の疾患	75	3,462,015
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	58	3,823,724
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	72	3,379,580
第14章 腎尿路性器系の疾患	60	4,320,823
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	8	3,711,273
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	55	3,655,461
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	45	3,986,333

表 3-5 頻回受診者の精神及び行動の障害の傷病名における該当人数

傷病名	該当人数[人]
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	7
気分[感情]障害	12
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	19
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1

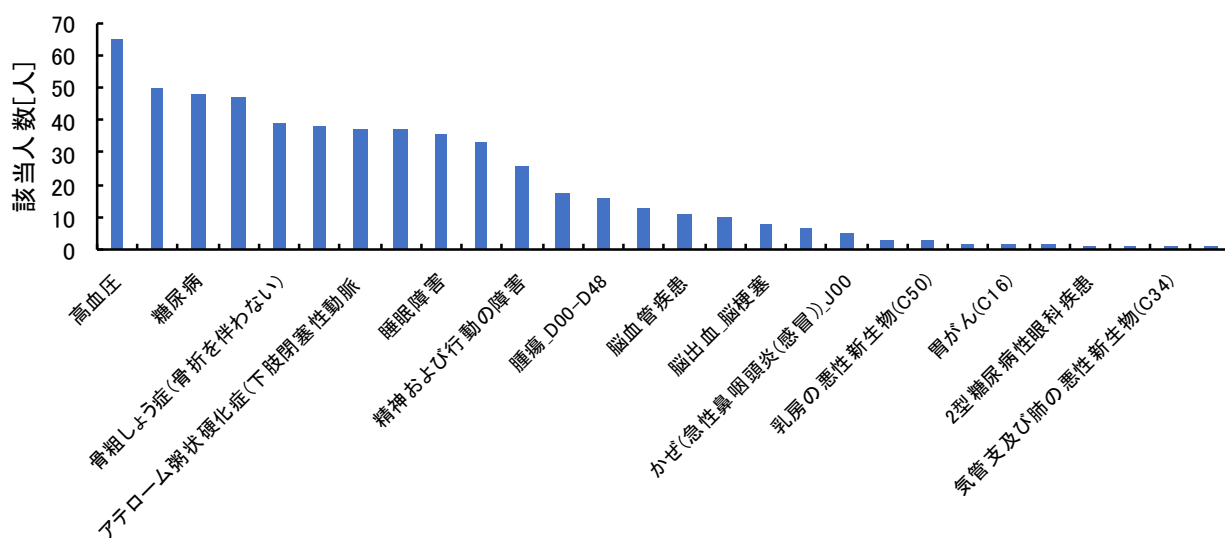


図 3-4 頻回受診者の注目する疾患における該当人数

## 5. 長期入院患者の疾病構造

長期入院患者は、入院期間が250日を超えるものとした。その結果、該当したのは39名(平均年齢60.4歳)であった。男性24名(平均年齢58.9歳)、女性15名(平均年齢62.9歳)であった。総医療費は217,104,110円、レセプト件数は473件であった。

表3-6にICD10の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。表3-6より、該当人数では第5章の精神及び行動の障害(33名)、第6章の神経系の疾患(33名)、第11章の消化器系の疾患(30名)が多いことがわかった。一人当たりの医療費では、第15章の妊娠、分娩及び産じょく、第16章の周産期に発生した病態、第17章の先天奇形、変形及び染色体異常を除いた章では500万円を超えていることがわかった。

表3-7に第5章の精神及び行動の障害に該当する傷病名の人数を示した。表3-7より、統合失調症、気分[感情]障害の該当人数が多いことがわかった。

図3-5に注目する疾病に該当する人数を示した。図3-5より、精神及び行動の障害、睡眠障害などの精神疾患、高血圧、糖尿病などの慢性疾患の受診者が多いことがわかった。

表3-6 長期入院者の疾病分類別の該当人数と一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	11	6,989,804
第2章 新生物	3	6,505,050
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	9	6,000,076
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	21	6,313,271
第5章 精神及び行動の障害	33	5,156,232
第6章 神経系の疾患	33	5,457,928
第7章 眼及び付属器の疾患	6	5,254,058
第8章 耳及び乳様突起の疾患	3	8,138,993
第9章 循環器系の疾患	20	5,918,118
第10章 呼吸器系の疾患	17	6,714,447
第11章 消化器系の疾患	30	5,449,084
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	18	5,915,069
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	19	6,012,325
第14章 腎尿路性器系の疾患	8	6,302,011
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	22	6,331,013
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	10	5,147,307

表 3-7 長期入院者の精神及び行動の障害の傷病名における該当人数

傷病名	該当人数[人]
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	23
気分[感情]障害	10
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	5
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	4

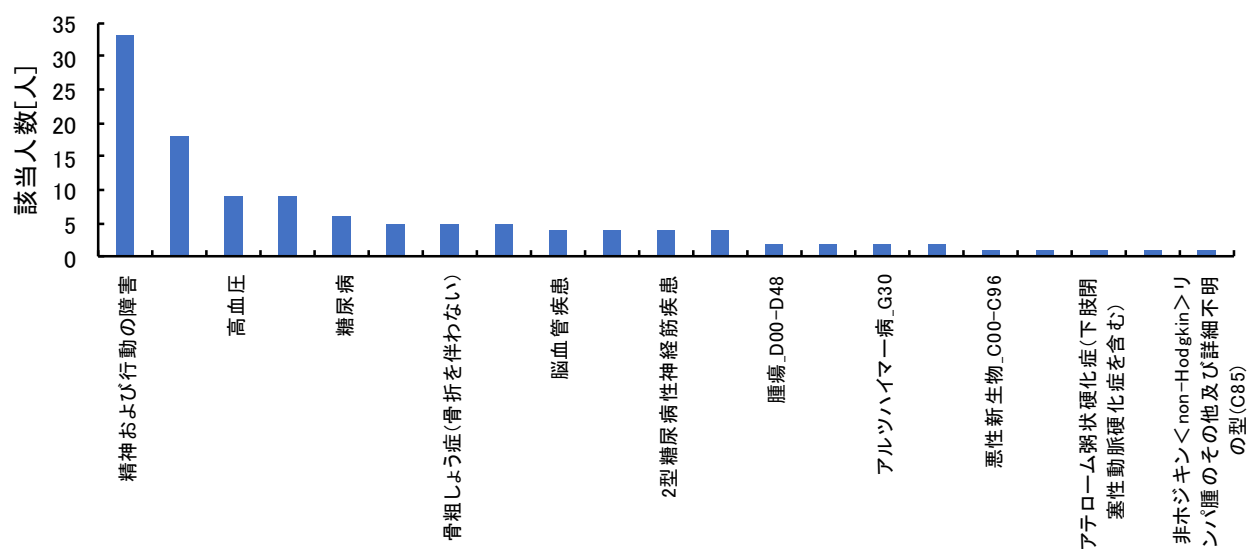


図 3-5 長期入院者の注目する疾患における該当人数

## 第4章 国保医療費の疾病構造

### 1. 疾病分類別の総医療費と受療割合(入院, 入院外を含む全体の医療費)

表 4-1 に疾病分類別の総医療費合計, 総医療費合計を患者数で除した一人当たりの医療費(平均医療費), 患者数を示した。疾病分類別の医療費全体のインパクトを示すために, 総医療費合計を記載した。1年間にそれぞれの分類に対し, 1回でも病名が記載された場合に, 患者としてカウントした。そのため, 患者数は頭数であり, 繰り返し受診したところによる延べ人数ではない。総医療費合計(入院と入院外)はそれぞれの患者の医療費の合計である。(例として, 糖尿病と胃炎の診断を受けると, 第4章と第11章にそれぞれ患者数としてカウントされる)

図 4-1 に疾病分類別の総医療費合計, 図 4-2 に疾病分類別の一人当たりの医療費, 図 4-3 に疾病分類別の患者数を示した。図 4-3 より, 患者数に着目すると, 第11章の消化器の疾患が多く, 次いで第4章の内分泌, 栄養及び代謝疾患, 第9章の循環器系の疾患, 第10章の呼吸器系の疾患のボリュームが大きいことがわかった。ボリュームが大きい分, 総医療費合計も大きくなっていった。図 4-2 より, 一人当たりの医療費に着目すると, 第3章の血液及び造血器並びに免疫機構の障害(鉄欠乏性貧血などの貧血が含まれる), 第2章の新生物(がんが含まれる)の医療費が大きいことがわかった。

表 4-1 疾病分類別の総医療費合計, 一人当たりの総医療費, 患者数

傷病分類名	総医療費合計 [円]	一人当たり医療費 [円]	患者数[人]
第1章 感染症及び寄生虫症	790,721,640	527,148	1,500
第2章 新生物	646,171,720	568,313	1,137
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	754,432,980	705,078	1,070
第4章 内分泌, 栄養及び代謝疾患	1,483,785,190	370,021	4,010
第5章 精神及び行動の障害	712,478,890	471,528	1,511
第6章 神経系の疾患	1,235,560,680	463,625	2,665
第7章 眼及び付属器の疾患	894,313,010	245,825	3,638
第8章 耳及び乳様突起の疾患	223,793,290	276,972	808
第9章 循環器系の疾患	1,443,727,750	367,829	3,925
第10章 呼吸器系の疾患	1,194,889,440	311,656	3,834
第11章 消化器系の疾患	1,665,641,560	377,183	4,416
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	1,115,266,630	406,142	2,746
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,345,506,740	380,948	3,532
第14章 腎尿路性器系の疾患	889,453,650	536,462	1,658
第15章 妊娠, 分娩及び産じょく	6,303,530	161,629	39
第16章 周産期に発生した病態	121,760	40,587	3
第17章 先天奇形, 変形及び染色体異常	75,964,240	546,505	139
第18章 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,228,398,440	469,571	2,616
第19章 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	650,137,440	502,813	1,293



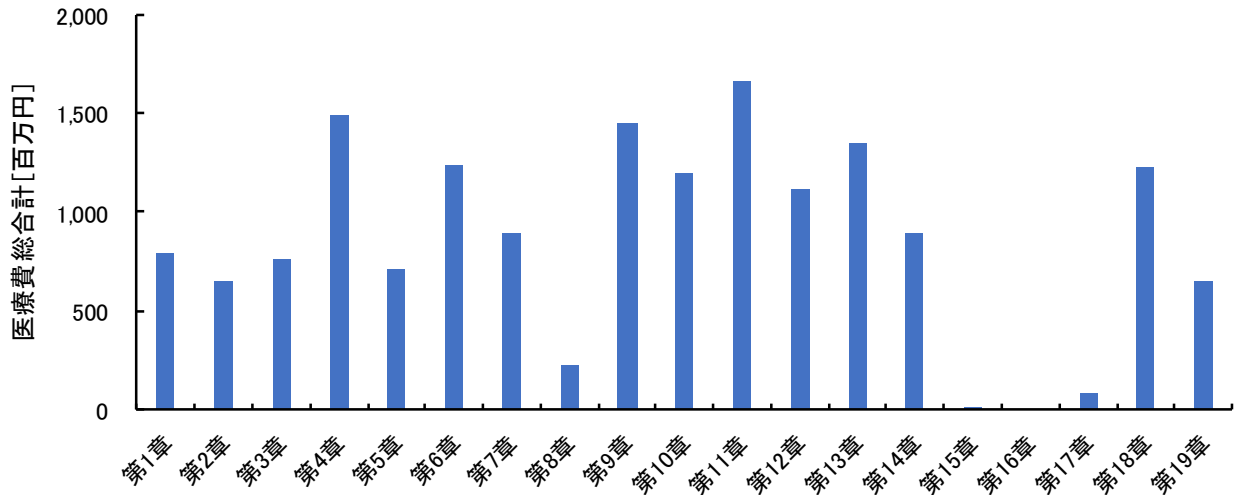


図 4-1 疾病分類別の総医療費合計

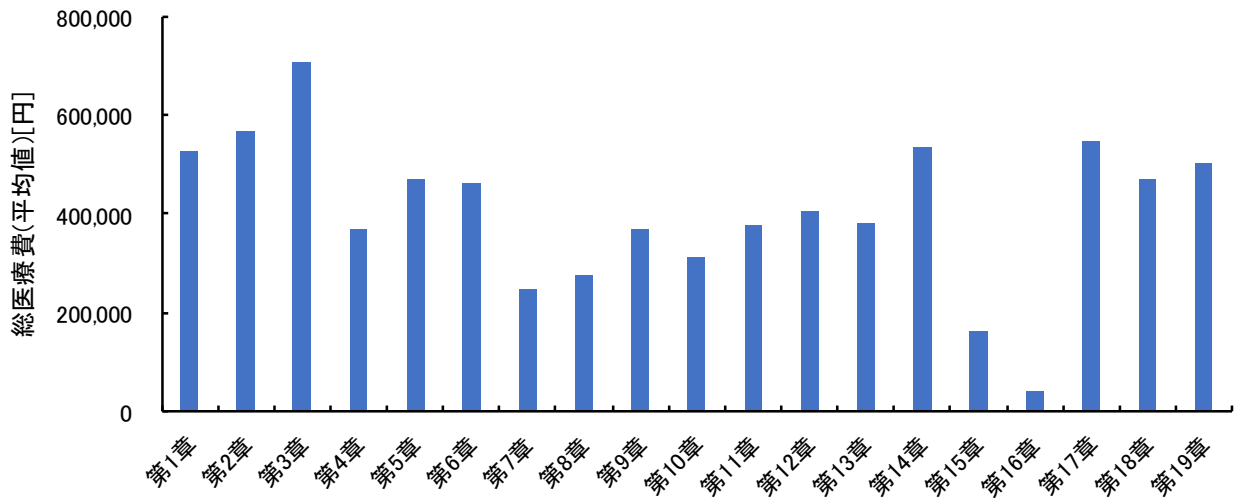


図 4-2 疾病分類別の一人当たりの総医療費

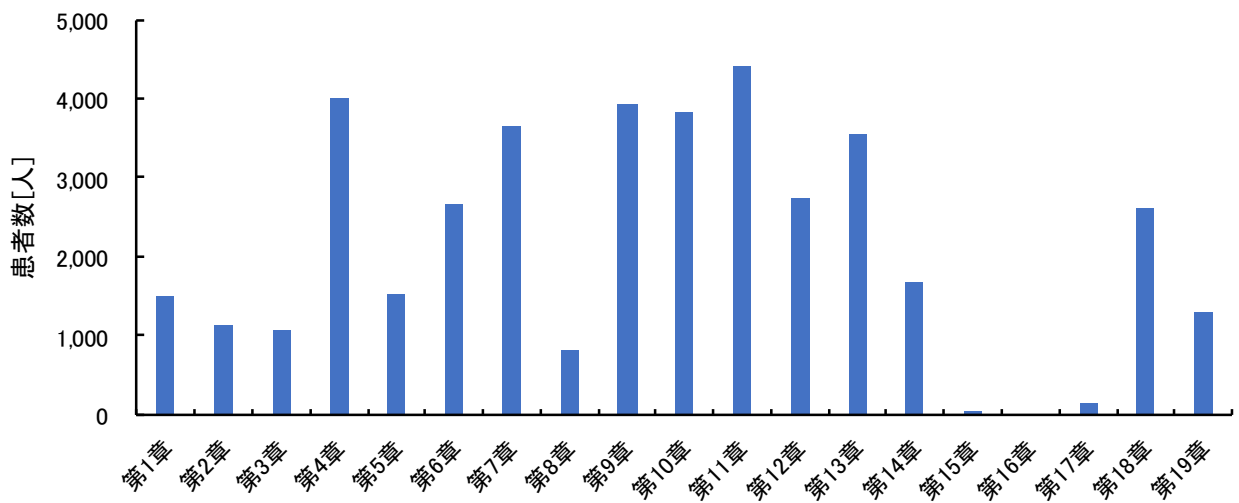


図 4-3 疾病分類別の患者数

表 4-2, 図 4-4 に疾病分類別の年齢階級別総医療費合計, 表 4-3 に受療割合を示した。表 4-3 より, 幼児, 若年期にウエイトが大きいものとして下記の章が挙げられる。

- 第 8 章 耳及び乳様特記の疾患(外耳炎, 中耳炎等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)
- 第 19 章 損傷, 中毒及びその他の外因の影響

一方で, 高齢期に増えてくる疾患として, 下記の章が挙げられる。

- 第 2 章 新生物(肝臓がん, 胃がん等)
- 第 3 章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症, アルツハイマー病, うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(胃潰瘍, 便秘, 胃炎等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路生殖器系の疾患(腎不全等)

表 4-2, 図 4-4 より, 年齢階級別医療費は, 65-69 歳以降の医療費が高いことがわかった。70-74 歳に着目すると, 総医療費合計で 5 億円以上の疾患として, 下記の章が挙げられる。

- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 7 章 眼及び付属器の疾患(結膜炎, 近視, 遠視, 乱視等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 18 章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)
- 第 19 章 損傷, 中毒及びその他の外因の影響

表 4-2 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

単位[円]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	1,418,460	2,753,630	2,962,710	3,505,450	1,852,410	2,975,800	3,224,640	12,944,100
第2章 新生物	103,040	77,270	526,520	237,520	461,260	711,480	5,254,610	2,453,170
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	766,950	1,023,080	2,136,000	496,330	6,853,890	5,928,870	11,073,360
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	389,380	800,780	1,080,000	922,360	1,630,670	2,914,500	3,207,260	19,686,240
第5章 精神及び行動の障害	87,860	1,464,870	1,741,100	1,860,290	2,190,010	8,256,160	5,510,850	40,448,100
第6章 神経系の疾患	0	582,650	1,112,260	1,844,780	1,913,850	5,451,780	9,681,880	41,269,530
第7章 眼及び付属器の疾患	1,426,960	4,058,880	5,287,110	2,895,750	2,460,410	7,557,560	3,525,680	10,287,340
第8章 耳及び乳様突起の疾患	2,107,030	2,679,140	2,381,620	1,365,510	450,690	892,680	1,792,390	1,607,480
第9章 循環器系の疾患	153,740	534,120	619,620	1,121,140	110,780	1,827,210	1,983,620	11,140,190
第10章 呼吸器系の疾患	6,190,290	8,121,030	7,654,630	5,365,500	4,175,150	7,397,550	6,623,940	21,778,130
第11章 消化器系の疾患	716,070	1,198,690	1,805,120	1,941,900	1,992,380	12,453,820	11,784,460	27,210,330
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	4,668,680	5,843,290	4,773,540	6,015,150	3,780,790	4,399,340	5,828,830	24,257,960
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0	739,410	2,352,320	1,739,450	1,995,600	3,823,010	5,257,320	20,200,950
第14章 腎尿路性器系の疾患	188,360	651,050	920,860	2,597,060	1,857,890	3,350,570	3,517,450	10,330,330
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	1,649,230	151,100	1,683,740	1,023,290	600,800
第16章 周産期に発生した病態	33,860	11,990	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	721,330	970,180	94,830	0	203,400	381,570	55,280	1,287,130
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,621,310	2,286,230	2,492,690	2,220,630	2,080,100	6,814,800	10,451,350	33,573,640
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	583,960	2,431,490	3,220,590	2,463,690	1,051,970	4,805,410	5,633,900	2,387,210

単位[円]

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	61,008,060	27,941,720	41,579,710	42,893,330	75,272,190	119,460,970	390,928,460
第2章 新生物	39,872,960	12,862,060	24,818,820	18,415,440	38,421,160	126,468,120	375,488,290
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	48,132,400	45,393,540	29,072,050	32,927,130	55,780,830	133,326,090	381,522,460
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	65,480,820	59,389,060	70,877,950	76,945,590	148,012,680	273,710,710	758,737,190
第5章 精神及び行動の障害	37,569,380	53,810,790	42,666,210	52,973,650	64,202,210	94,208,740	305,488,670
第6章 神経系の疾患	72,966,490	58,872,180	66,719,410	57,824,120	100,011,450	215,463,250	601,847,050
第7章 眼及び付属器の疾患	28,046,020	39,233,180	31,007,660	30,447,280	96,862,990	173,533,020	457,683,170
第8章 耳及び乳様突起の疾患	20,312,120	10,421,000	17,210,690	6,318,920	16,334,440	27,199,410	112,720,170
第9章 循環器系の疾患	62,999,820	37,538,140	68,749,940	69,422,790	143,126,320	267,336,520	777,063,800
第10章 呼吸器系の疾患	73,319,440	55,761,200	54,029,840	67,062,950	104,341,000	202,560,320	570,508,470
第11章 消化器系の疾患	73,088,450	77,493,210	87,801,760	90,032,720	155,416,410	316,452,820	806,253,420
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	66,723,620	48,075,000	63,790,390	57,244,240	99,238,440	185,938,040	534,689,320
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	63,832,620	48,120,470	67,451,760	59,681,430	113,437,660	259,342,640	697,532,100
第14章 腎尿路性器系の疾患	59,916,240	24,657,460	48,046,520	53,472,830	81,776,430	137,489,500	460,681,100
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	1,095,810	0	0	0	0	99,560	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	75,910
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	12,501,650	1,558,670	2,120,900	5,932,630	5,450,400	3,244,370	41,441,900
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	67,990,100	43,971,330	58,186,120	51,160,100	107,902,840	212,211,490	625,435,710
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	32,351,800	25,382,030	33,169,240	43,662,950	68,860,040	107,653,340	316,479,820

表 4-3 疾病分類別の年齢階級別受療割合

単位[%]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	8.7	9.4	9.7	8.3	4.4	5.2	6.5	6.2
第2章 新生物	0.5	0.3	0.9	0.7	0.6	1.4	2.1	3.1
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	2.0	2.3	1.4	1.3	2.0	3.3	3.0
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1.6	1.0	2.6	1.6	2.6	2.9	4.6	6.1
第5章 精神及び行動の障害	1.1	3.9	4.8	3.5	3.8	4.8	8.4	10.7
第6章 神経系の疾患	0	1.3	3.4	4.2	3.0	4.9	7.9	11.0
第7章 眼及び付属器の疾患	9.8	20.5	27.8	16.9	8.5	4.5	9.9	11.9
第8章 耳及び乳様突起の疾患	15.8	12.4	11.1	4.2	1.7	1.4	3.6	2.4
第9章 循環器系の疾患	0.5	1.0	1.1	1.2	0.3	1.0	2.1	3.1
第10章 呼吸器系の疾患	52.7	50.5	41.5	20.8	11.3	11.4	15.9	17.9
第11章 消化器系の疾患	6.5	4.6	4.8	6.0	3.4	6.5	10.3	11.9
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	37.0	30.9	24.1	24.7	12.7	11.0	11.8	12.2
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.0	2.6	6.8	4.6	4.0	2.9	5.8	9.6
第14章 腎尿路性器系の疾患	1.1	1.0	1.7	3.2	3.8	5.0	6.9	6.5
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0.2	0.7	1.4	1.3	1.1
第16章 周産期に発生した病態	0.5	0.3	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	3.8	2.3	0.6	0.0	0.1	0.4	0.2	0.7
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9.8	7.2	8.0	5.3	4.6	5.4	7.6	9.1
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	6.5	10.7	13.1	8.1	2.1	2.7	3.5	3.3

単位[%]

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	6.2	6.9	6.8	7.3	11.5	12.0	15.6
第2章 新生物	3.7	4.8	5.5	5.0	9.4	11.0	14.8
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.7	5.0	5.9	5.3	7.6	10.6	12.4
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	11.1	14.2	20.0	22.6	35.2	43.1	50.9
第5章 精神及び行動の障害	12.2	13.4	11.4	13.4	10.2	10.7	12.1
第6章 神経系の疾患	14.4	16.1	16.9	17.2	19.5	22.9	29.9
第7章 眼及び付属器の疾患	14.4	13.3	14.7	18.7	27.0	33.7	41.0
第8章 耳及び乳様突起の疾患	3.5	2.3	3.4	3.3	5.5	6.1	8.3
第9章 循環器系の疾患	7.6	11.5	17.8	22.5	32.9	43.3	53.2
第10章 呼吸器系の疾患	22.2	19.4	16.9	23.1	26.8	29.6	33.5
第11章 消化器系の疾患	16.3	21.8	23.2	26.5	34.8	44.8	51.6
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	13.6	13.5	14.8	16.5	17.7	19.4	23.7
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	11.0	14.4	18.6	22.8	28.2	35.4	42.9
第14章 腎尿路性器系の疾患	8.0	9.5	9.5	8.7	11.5	14.0	18.8
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.8	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0.9	1.1	1.0	0.8	1.0	0.8	1.3
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10.9	12.9	13.0	14.1	21.4	24.5	29.1
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	5.6	5.6	6.4	8.9	7.8	11.6	13.3

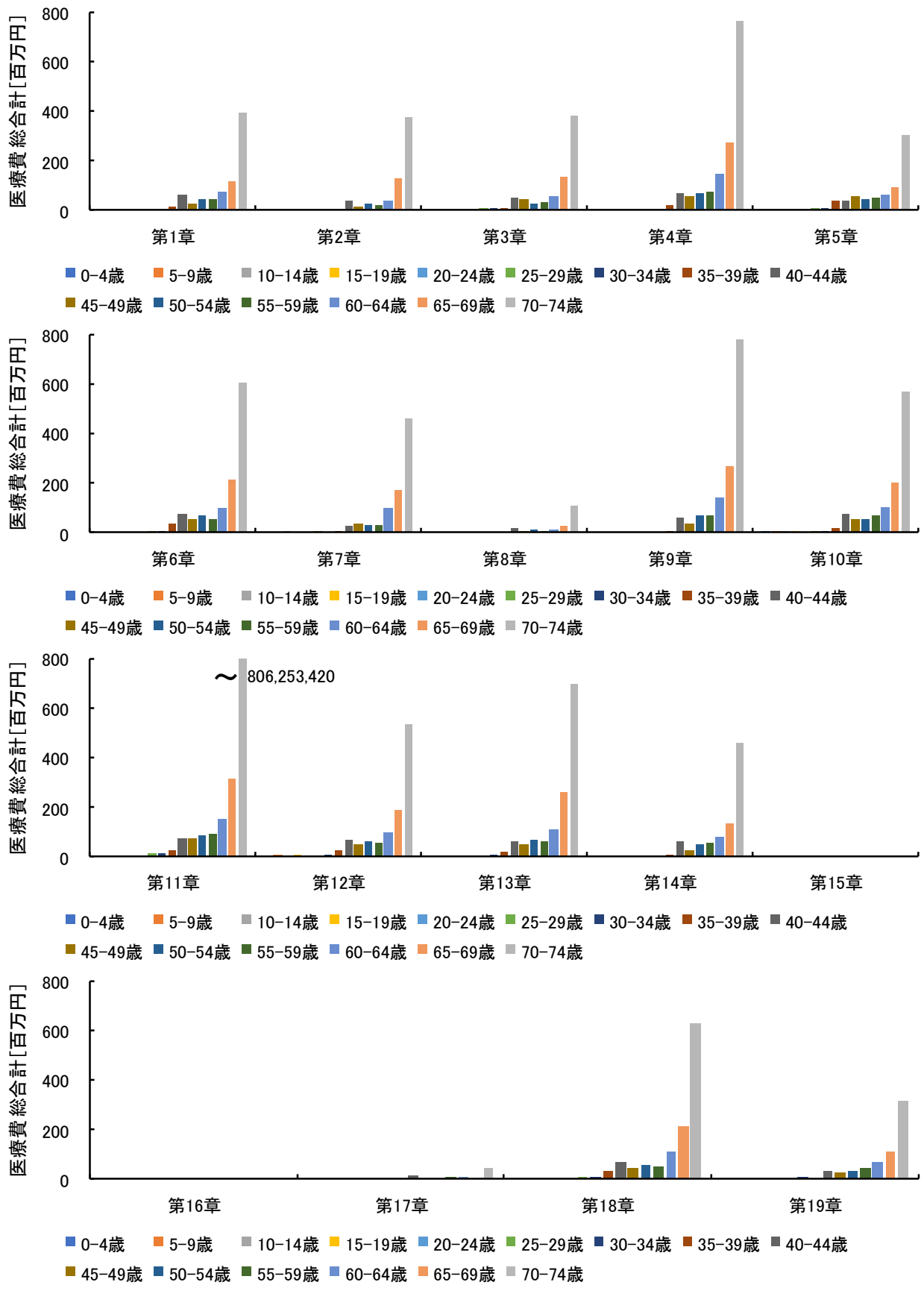


図 4-4 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

## 2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合

表 4-4, 図 4-5 に疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値を示した。20 歳未満は人数が少ないため、20-24 歳より記載する。高額な医療費の影響を受けにくくするため、中央値を示した。さらに、該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。表 4-4, 図 4-5 より、第 4 章の糖尿病を含む内分泌、栄養及び代謝疾患、第 5 章のうつ病を含む精神及び行動の障害、第 6 章の不眠症を含む神経系の疾患の慢性疾患、精神疾患は 35-39 歳から急激に増加していることがわかった。

表 4-5, 図 4-6 に疾病分類別の入院受療割合を示した。表 4-5, 図 4-6 より、45-49 歳以降から大きく増加し、受療割合が 1%を超えている疾患として、下記の章が挙げられる。

- 第 4 章 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(アルツハイマー病, 統合失調症, 気分[感情]障害等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)

表 4-4 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

傷病名分類	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	0	189,480	0	0	1,992,400	4,921,050	3,576,850	2,476,180	828,000	1,104,450	1,618,310
第2章 新生物	0	0	0	0	550,540	0	899,100	0	848,605	1,189,375	1,395,290
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3,670	14,520	77,610	0	2,296,035	3,910,680	687,920	0	599,610	1,779,230	1,185,365
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0	182,895	0	3,987,980	1,192,000	1,687,425	635,630	1,150,180	757,510	910,560	1,395,290
第5章 精神及び行動の障害	0	0	0	4,282,300	2,700,020	4,215,845	1,953,040	1,069,030	2,011,420	1,837,010	2,206,360
第6章 神経系の疾患	0	219,700	0	4,314,750	2,199,080	2,041,570	1,549,650	1,265,995	939,700	1,844,350	1,571,530
第7章 眼及び付属器の疾患	0	13,490	0	401,700	438,900	940,010	902,050	987,880	1,068,580	665,380	566,215
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	2,700,020	0	0	0	1,327,710	166,230	423,695
第9章 循環器系の疾患	0	0	0	0	1,698,140	333,590	696,950	1,544,110	740,155	1,251,900	1,325,520
第10章 呼吸器系の疾患	0	176,310	0	2,063,675	550,540	2,941,870	972,615	1,265,995	704,230	1,251,900	1,553,820
第11章 消化器系の疾患	0	219,700	68,525	3,987,980	1,192,000	1,210,125	902,050	1,069,030	757,510	1,124,130	988,275
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	0	14,005	31,300	4,167,590	2,199,080	4,735,755	1,880,310	1,632,060	1,068,580	1,124,130	1,711,430
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0	0	0	0	1,445,070	1,210,125	767,365	1,150,180	757,510	1,251,900	1,430,215
第14章 泌尿器系の疾患	0	14,520	0	0	386,870	0	553,480	987,880	605,975	930,240	1,465,140
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	3,670	14,005	77,610	0	92,140	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	2,792,800	0	0	0	0	0	309,660
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	425,530	129,010	4,282,300	1,698,140	1,384,095	899,100	1,069,030	722,800	1,228,660	1,326,320
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0	0	0	0	223,200	2,861,685	635,630	1,544,110	829,705	1,207,510	1,814,990

表 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

単位[%]

傷病名分類	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	0.3	0.4	0.2	0.3	1.0	0.3	0.4	0.8	1.4	0.8	1.4
第2章 新生物	0.0	0.1	0.0	0.0	0.6	0.1	0.5	0.1	0.8	0.8	1.2
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	0.4	0.7	0.8	0.1	0.5	0.7	0.4	0.2	0.7	0.9	1.2
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.0	0.5	0.3	0.4	0.9	1.2	0.8	1.0	2.2	2.0	2.6
第5章 精神及び行動の障害	0.1	0.3	0.3	0.9	1.1	1.0	0.8	1.4	1.3	0.9	1.5
第6章 神経系の疾患	0.1	0.4	0.2	0.8	1.3	1.1	1.2	1.1	2.0	1.8	2.4
第7章 眼及び付属器の疾患	0.0	0.4	0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	0.3	1.5	0.9	1.1
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0.0	0.1	0.0	0.1	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1	0.4
第9章 循環器系の疾患	0.0	0.1	0.0	0.3	0.9	0.5	0.8	0.6	2.1	1.8	3.0
第10章 呼吸器系の疾患	0.3	0.7	0.3	0.5	1.4	0.8	0.6	1.1	1.7	1.4	2.0
第11章 消化器系の疾患	0.3	1.2	0.9	0.7	1.4	1.6	1.6	1.4	2.8	2.5	3.3
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	0.0	0.5	0.5	0.5	1.3	0.6	0.8	0.9	1.6	1.2	1.6
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.1	0.1	0.2	0.3	1.0	0.6	0.9	0.8	1.6	1.8	2.6
第14章 腎尿路性器系の疾患	0.3	0.7	0.3	0.3	1.0	0.2	0.6	1.0	1.0	0.8	1.4
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.4	1.1	0.8	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
第16章 周産期に発生した病態	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.0	0.8	0.5	0.9	1.4	0.8	0.8	1.1	2.2	1.3	2.6
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.0	0.1	0.2	0.1	0.4	0.4	0.7	0.8	1.2	0.8	1.3

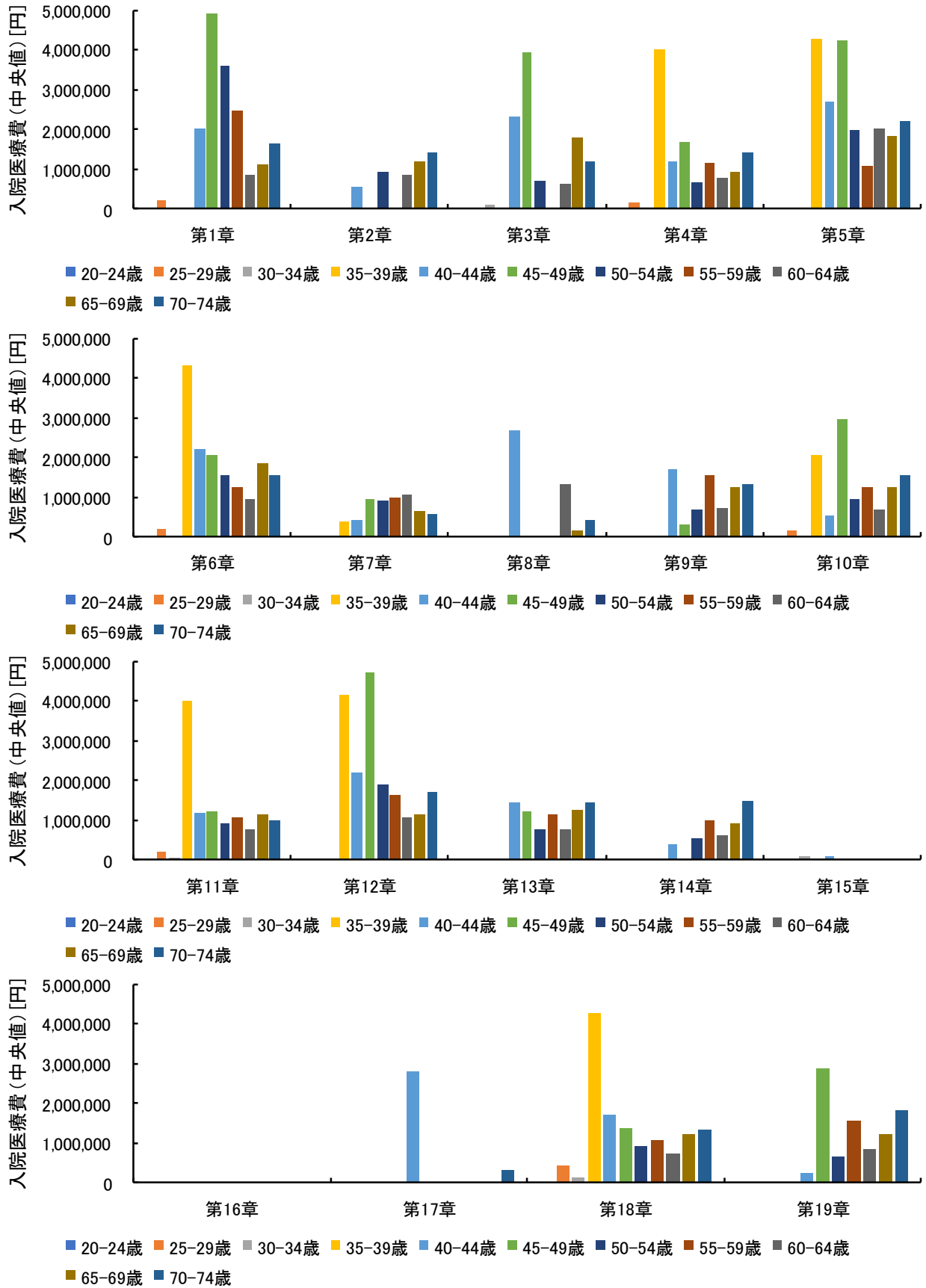


図 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)



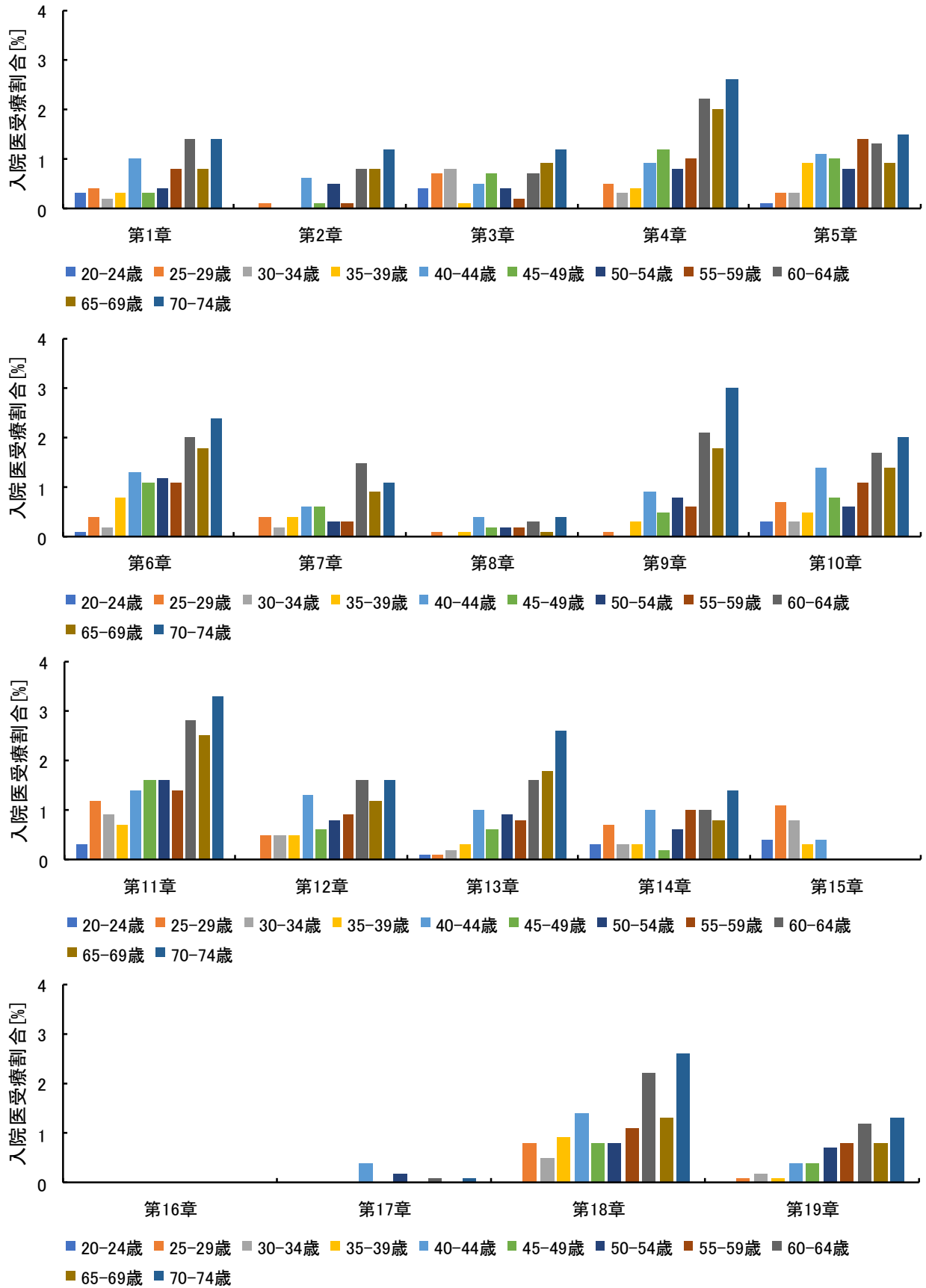


図 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院治療割合

### 3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合

表 4-6, 図 4-7 に疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値を示した。高額な医療費の影響を受けにくくするため, 中央値を示した。さらに, 該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。

表 4-6, 図 4-7 より, 総医療費合計の傾向と入院外医療費の傾向は類似していることがわかった。

- 第 15 章・16 章・17 章を除くすべての章で 0-4 歳, 5-9 歳の幼少期の医療費が高く, それ以降は減少するが, 30 歳から 40 歳代で再び増加する傾向にあることがわかった。
- 第 5 章の統合失調症等を含む精神及び行動の障害は 45-49 歳から急激に増加することがわかった。
- 第 6 章の不眠症等を含む神経系の疾患は他の章と比べ全体的に高い傾向にあり, 30-34 歳, 40-44 歳, 65-69 歳, 70-74 歳のタイミングで大きく増加することがわかった。

表 4-7, 図 4-8 に疾病分類別の入院外受療割合を示した。表 4-7, 図 4-8 より, 第 1 章のウイルス性胃腸炎等が含まれる感染症及び寄生虫症, 第 7 章の乱視等が含まれる眼及び付属器の疾患, 第 10 章の風邪や咽頭痛等が含まれる呼吸器系の疾患, 第 12 章のアトピー等が含まれる皮膚及び皮下組織の疾患は幼児期と高齢期に高い割合であることがわかった。

年齢とともに受療割合が増加している疾病として, 以下の章が挙げられる。

- 第 2 章 新生物(肝臓がん, 胃がん等)
- 第 3 章 血液及び造血器並びに免疫機構の障害(鉄欠乏性貧血等)
- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症, アルツハイマー病, うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路生殖器系の疾患(腎不全等)
- 第 18 章 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)

表 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

傷病名分類	単位[円]							
	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	96,030	86,610	80,145	52,255	37,560	42,210	62,870	75,650
第2章 新生物	0	0	158,130	79,000	95,930	46,775	163,640	65,550
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	66,945	123,515	105,675	31,120	60,560	50,740	106,190
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	137,210	250,130	82,690	98,110	63,845	62,235	74,380	105,580
第5章 精神及び行動の障害	0	107,650	95,530	76,400	61,710	80,660	65,480	76,605
第6章 神経系の疾患	0	80,220	79,470	64,555	66,720	77,485	93,860	78,840
第7章 眼及び付属器の疾患	59,635	58,020	35,460	32,360	29,225	60,560	37,510	36,990
第8章 耳及び乳様突起の疾患	49,810	56,190	50,780	42,935	28,540	51,000	44,630	57,725
第9章 循環器系の疾患	0	126,780	132,225	100,450	0	130,910	131,210	57,045
第10章 呼吸器系の疾患	48,530	40,050	35,135	38,320	38,530	41,620	41,050	47,320
第11章 消化器系の疾患	50,255	59,490	70,200	42,305	54,205	58,340	70,950	68,400
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	49,635	48,230	36,880	32,910	26,970	31,880	48,010	38,430
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0	62,900	80,750	53,985	50,610	80,350	67,000	69,480
第14章 腎尿路性器系の疾患	0	250,130	97,360	64,040	51,590	37,910	45,450	104,220
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	12,670	32,520	31,160	66,255
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	106,990	53,610	0	0	0	69,370	0	86,830
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	70,725	62,075	67,795	54,390	51,855	70,515	67,075	65,375
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	48,390	59,950	45,905	53,670	44,280	59,225	65,100	51,475

傷病名分類	単位[円]							
	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	
第1章 感染症及び寄生虫症	114,390	92,250	99,440	157,480	136,050	134,190	147,700	
第2章 新生物	134,640	104,590	79,650	145,025	146,970	174,305	185,155	
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	126,420	111,360	117,170	150,360	158,735	150,975	167,720	
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	107,690	92,320	89,840	103,940	87,910	102,010	108,175	
第5章 精神及び行動の障害	113,090	104,025	94,465	121,590	104,695	119,380	145,000	
第6章 神経系の疾患	105,930	98,940	90,080	108,400	101,730	118,935	137,100	
第7章 眼及び付属器の疾患	70,780	77,075	69,275	70,920	80,045	98,350	110,700	
第8章 耳及び乳様突起の疾患	105,110	63,480	106,060	82,700	108,580	124,185	140,720	
第9章 循環器系の疾患	113,635	100,140	74,710	89,265	88,035	97,245	102,410	
第10章 呼吸器系の疾患	66,880	64,775	80,120	91,210	83,530	100,740	123,020	
第11章 消化器系の疾患	104,640	81,630	90,040	108,270	97,255	106,980	118,400	
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	70,050	77,200	73,270	109,240	85,675	119,120	136,290	
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	92,675	71,700	81,195	86,450	101,040	105,360	128,140	
第14章 腎尿路性器系の疾患	112,120	82,860	93,475	139,190	136,790	143,480	148,590	
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	68,485	0	0	0	0	0	0	
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	346,570	119,970	80,030	147,790	191,685	122,020	216,885	
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	92,590	96,570	104,475	112,830	118,160	131,410	149,525	
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	56,680	85,525	90,670	93,930	117,780	137,690	170,780	

表 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費受療割合

単位[%]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	8.7	9.4	9.7	8.3	4.4	5	6.5	6.1
第2章 新生物	0.5	0.3	0.9	0.7	0.6	1.4	2.1	3.1
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	2	2.3	1.4	1.3	2	3.3	2.8
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1.6	1	2.6	1.6	2.6	2.7	4.6	6
第5章 精神及び行動の障害	1.1	3.9	4.8	3.5	3.8	4.8	8.4	10.3
第6章 神経系の疾患	0	1.3	3.4	4.2	3	4.9	7.9	10.6
第7章 眼及び付属器の疾患	9.8	20.5	27.8	16.9	8.5	4.5	9.9	11.8
第8章 耳及び乳様突起の疾患	15.8	12.4	11.1	4.2	1.7	1.4	3.6	2.4
第9章 循環器系の疾患	0.5	1	1.1	1.2	0.3	1	2.1	3
第10章 呼吸器系の疾患	52.7	50.5	41.5	20.8	11.3	11.4	15.9	17.8
第11章 消化器系の疾患	6.5	4.6	4.8	6	3.4	6.5	10.3	11.7
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	37	30.9	24.1	24.7	12.7	11	11.8	11.9
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0	2.6	6.8	4.6	4	2.9	5.8	9.5
第14章 腎尿路性器系の疾患	1.1	1	1.7	3.2	3.8	5	6.9	6.4
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0.2	0.7	1.4	1.3	1.1
第16章 周産期に発生した病態	0.5	0.3	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	3.8	2.3	0.6	0	0.1	0.4	0.2	0.7
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9.8	7.2	8	5.3	4.6	5.4	7.6	8.7
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	6.5	10.7	13.1	8.1	2.1	2.7	3.5	3.3

単位[%]

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	6.1	6.7	6.7	7.2	11.5	12	15.4
第2章 新生物	3.7	4.7	5.4	5	9.4	10.8	14.7
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.7	4.7	5.9	5.3	7.6	10.4	12.3
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	11	13.7	19.9	22.6	34.9	42.9	50.5
第5章 精神及び行動の障害	12	13	11.3	13.1	9.9	10.4	11.8
第6章 神経系の疾患	14.3	15.8	16.7	16.8	19.2	22.5	29.5
第7章 眼及び付属器の疾患	14.4	13.2	14.7	18.7	26.7	33.7	41
第8章 耳及び乳様突起の疾患	3.4	2.2	3.3	3.3	5.5	6.1	8.3
第9章 循環器系の疾患	7.6	11.3	17.6	22.5	32.7	43	52.8
第10章 呼吸器系の疾患	22.1	19.1	16.8	23	26.7	29.4	33.2
第11章 消化器系の疾患	16.2	21.3	23	26.2	34.5	44.4	51.2
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	13.5	13.2	14.6	16.3	17.4	19.3	23.5
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	10.9	14.3	18.5	22.8	28.2	35	42.6
第14章 腎尿路性器系の疾患	7.8	9.4	9.4	8.6	11.5	14	18.6
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.8	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0.9	1.1	1	0.8	1	0.8	1.3
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10.7	12.6	12.8	14	21.2	24.2	28.7
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	5.6	5.4	6.4	8.8	7.6	11.5	13.2

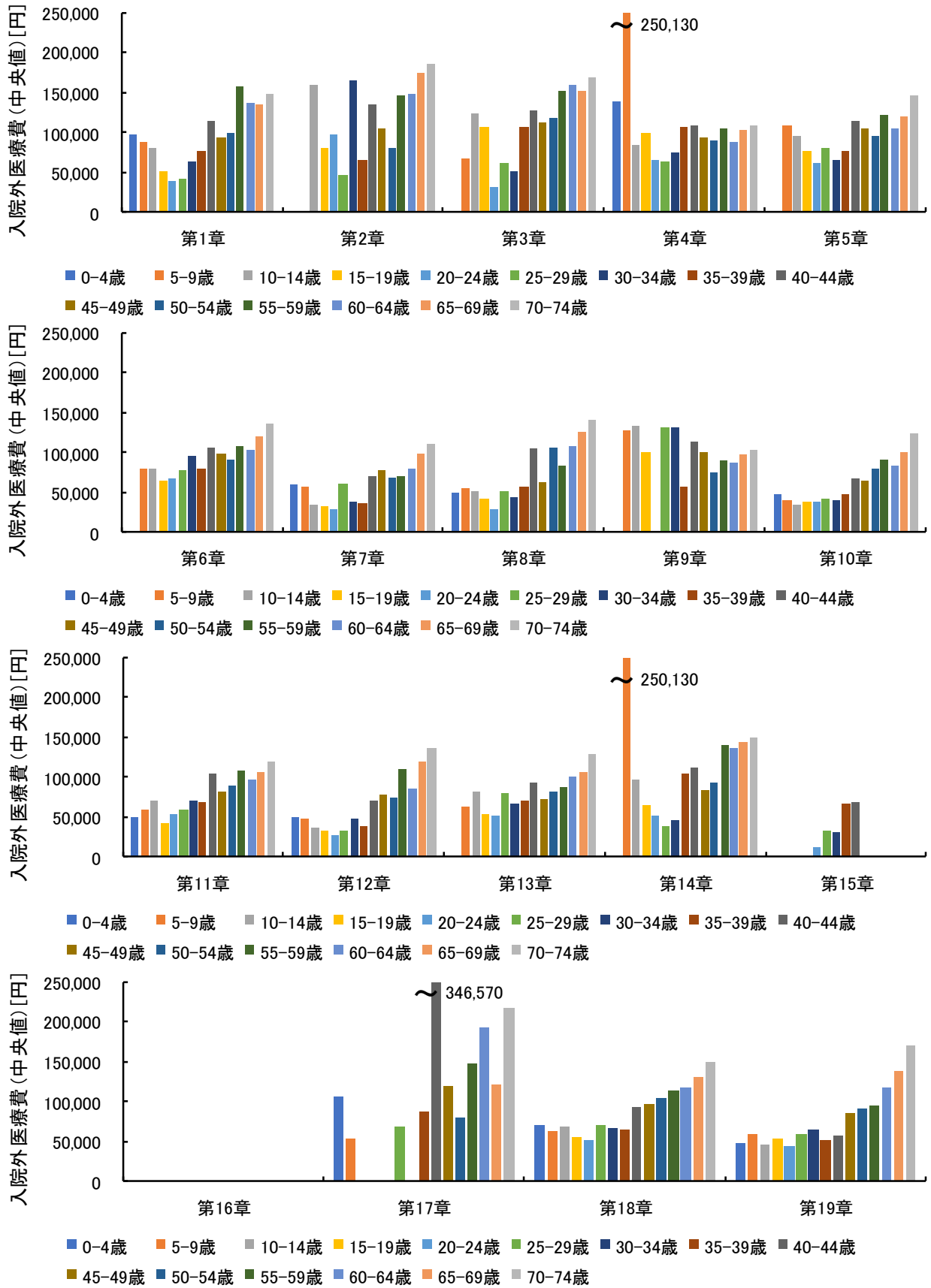


図 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

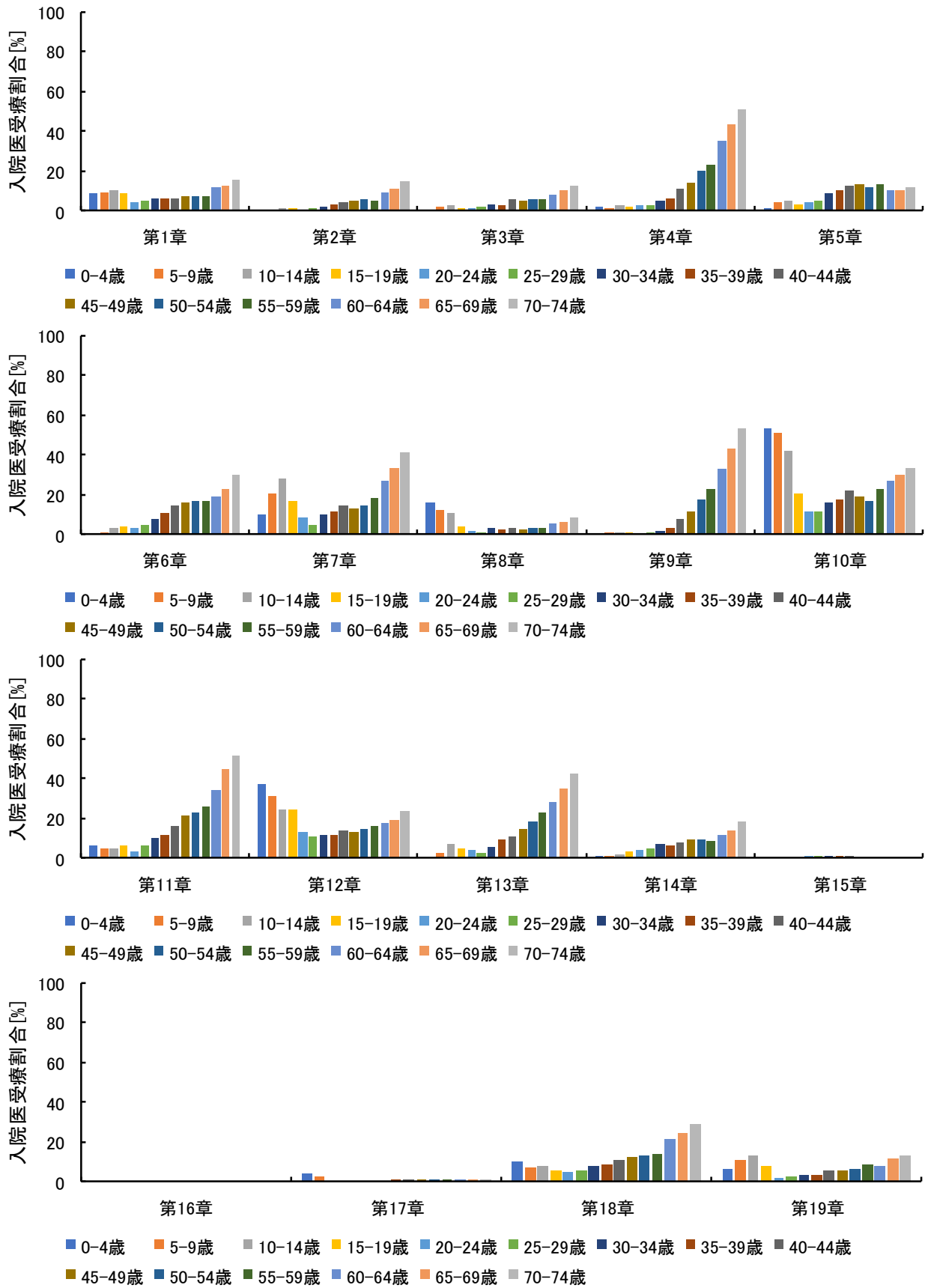


図 4-8 疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合

## 第5章 国保医療費の上位疾患の構造

### 1. 国保医療費の入院の上位疾患

図5-1にICD10の傷病名コードに記載される5,515傷病名を対象に、入院医療費の中央値の上位10位までの傷病名と入院医療費の中央値を示した。患者数が2以下の場合には採用しなかった。図5-1より、55-59歳以下では緑色(第11章)の消化器系の疾患が上位に位置しているが、60-64歳以降は濃オレンジ色(第5章)の精神及び行動の障害、オレンジ色(第6章)の神経系の疾患、濃紫色(第9章)の循環器系の疾患が上位に位置することがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
全体	骨髄異形成症候群	脊柱側弯症	脳性麻痺	慢性肝不全	構音障害	知的障害	高次脳機能障害	筋力低下	栄養障害	慢性上気道炎	-
	88,913,800	73,412,900	69,030,400	59,681,700	53,898,050	51,756,700	48,114,400	45,182,900	44,846,700	44,846,700	
30-34歳	1位	2位	3位	4位	5位						
	胃炎	便秘症	鉄欠乏性貧血	前期破水	切迫流産	-	-	-	-	-	-
	2,297,900	776,100	776,100	313,000	73,800						
35-39歳	1位			4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	脳性麻痺	てんかん	発熱	皮脂欠乏症	統合失調症	湿疹	便秘症	急性上気道炎	不眠症	近視性乱視	-
	58,498,000	58,498,000	58,498,000	43,472,000	43,147,500	42,823,000	39,879,800	4,017,000	2,585,200	1,393,700	
40-44歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位				10位	
	気管支炎	下痢症	胃炎	皮膚感染症	統合失調症	便秘症	うつ病	皮脂欠乏性湿疹	播種性血管内凝固	鉄欠乏性貧血	-
	28,939,300	27,928,000	27,464,100	27,000,200	21,990,800	16,981,400	16,981,400	16,981,400	16,981,400	16,664,150	
45-49歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位		10位	
	アレルギー性鼻炎	てんかん	慢性胃炎	躁うつ病	便秘症	鉄欠乏性貧血	腰痛症	薬剤性パーキンソン症候群	統合失調症	逆流性食道炎	神経症
	49,210,500	47,210,300	45,504,600	45,210,100	39,106,800	39,106,800	28,039,900	26,219,800	26,219,800	13,332,800	13,332,800
50-54歳	1位	2位	3位	4位			7位		9位	10位	
	薬剤性パーキンソン症候群	統合失調症	不安神経症	てんかん	便秘症	脂質異常症	湿疹	不眠症	双極性感情障害	皮脂欠乏症	-
	21,424,300	20,841,000	20,257,700	18,803,100	18,803,100	18,803,100	17,149,800	17,149,800	15,496,500	10,131,950	
55-59歳	1位	2位	3位		5位		7位	8位	9位	10位	
	薬剤性パーキンソン症候群	発熱	膀胱炎	高尿酸血症	不眠症	糖尿病	骨粗鬆症	胃炎	鉄欠乏性貧血	アレルギー性鼻炎	-
	33,306,150	26,050,950	24,761,800	24,761,800	22,488,500	22,488,500	21,139,400	20,101,450	18,131,800	16,092,800	
60-64歳	1位	2位	3位	4位		6位	7位	8位	9位	10位	
	アルツハイマー型認知症	栄養障害	てんかん	薬剤性パーキンソン症候群	統合失調症	難治性逆流性食道炎	眼精疲労	ドライアイ	狭心症	ビタミン欠乏症	-
	67,839,100	45,182,900	42,874,400	41,194,150	41,194,150	37,174,300	35,344,000	31,602,950	24,249,400	24,061,100	
65-69歳	1位			4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	嚥下障害	低酸素血症	慢性膿皮症	薬剤性パーキンソン症候群	深部静脈血栓症	皮膚炎	腹部膨満	脳梗塞	睡眠時無呼吸症候群	足白癬	-
	44,632,600	44,632,600	44,632,600	44,164,800	33,858,900	28,575,800	26,359,200	24,038,800	24,001,900	23,188,950	
70-74歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位			9位	10位	
	麻痺性イレウス	低ナトリウム血症	浮腫	ビタミンB群欠乏症	高カルシウム血症	高次脳機能障害	構音障害	認知症	栄養障害	末梢神経炎	-
	82,653,900	57,677,300	50,401,900	49,596,800	49,443,950	48,114,400	48,114,400	48,114,400	45,593,300	44,846,700	

図5-1 入院医療費(中央値)に関する上位10疾患

## 2. 国保医療費の入院外の上位疾患

図 5-2, 5-3 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に, 入院外医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院外医療費の中央値を示した。患者数が 10 以下の場合には採用しなかった。図 5-2, 5-3 より, 20-24 歳以下では, ピンク色(第 10 章)の呼吸器系の疾患が上位に位置していた。25-29 歳から 45-49 歳では濃オレンジ色(第 5 章)の精神及び行動の障害, オレンジ色(第 6 章)の神経系の疾患, 緑色(第 11 章)の消化器系の疾患が上位に位置していた。50-54 歳以降は黄色(第 4 章)の内分泌, 栄養及び代謝疾患, 紫色(第 9 章)の循環器系の疾患, 薄緑色(第 13 章)の筋骨格系及び結合組織の疾患, 薄紫色(第 14 章)の腎尿路性器系の疾患が上位に位置していたことがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]

全体	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	透析シャント狭窄	高リン血症	続発性副甲状腺機能亢進症	カルニチン欠乏症	慢性腎臓病ステージG5D	副甲状腺機能亢進症	爪甲鉤弯症	腎性貧血	末期腎不全	多発性骨髄腫	-
	45,968,700	45,192,600	44,863,200	43,458,750	43,438,400	41,876,750	41,160,100	36,880,600	36,611,400	17,224,700	
0-4歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	下痢症	急性気管支炎	アトピー性皮膚炎	発熱	急性咽頭炎	湿疹	急性副鼻腔炎	気管支喘息	急性咽頭喉頭炎	急性上気道炎	-
	763,250	749,800	737,300	730,250	729,100	710,700	602,250	556,000	498,100	497,950	
5-9歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	急性湿疹	じんま疹	尋常性疣贅	点状表層角膜炎	咽頭炎	調節緊張症	遠視性乱視	伝染性軟属腫	発熱	慢性副鼻腔炎	-
	615,600	610,950	607,100	603,300	589,900	587,200	580,300	577,350	575,350	547,900	
10-14歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	尋常性疣贅	急性胃腸炎	便秘症	カタル性結膜炎	眼瞼炎	打撲傷	頭痛	湿疹	耳垢栓塞	じんま疹	皮脂欠乏症
	872,700	686,400	651,000	649,000	635,600	635,600	475,600	466,500	466,500	421,000	421,000
15-19歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	耳垢栓塞	尋常性疣贅	急性上気道炎	急性咽頭炎	気管支喘息	頭痛	急性気管支炎	皮膚感染症	胃炎	急性咽頭喉頭炎	-
	563,950	522,550	511,700	499,500	489,650	454,300	454,300	454,300	396,100	396,100	
20-24歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	うつ病	月経困難症	卵巣機能不全	発熱	子宮腔部びらん	慢性副鼻腔炎	不眠症	急性上気道炎	神経症	湿疹	-
	758,800	601,700	601,700	585,900	530,200	507,500	497,600	463,000	445,600	389,850	
25-29歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	慢性胃炎	うつ病	不眠症	腰痛症	神経症	発熱	じんま疹	急性咽頭炎	月経困難症	便秘症	急性胃腸炎
	1,044,100	997,750	880,000	855,450	774,850	769,800	756,450	669,900	605,400	484,000	484,000
30-34歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	統合失調症	不眠症	神経症	うつ病	末梢神経障害	細菌性膣炎	下痢症	顔面尋常性ざ瘡	逆流性食道炎	月経困難症	-
	1,013,800	861,600	861,600	858,450	763,350	707,300	689,200	677,700	672,000	654,800	
35-39歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
	頭痛	月経困難症	便秘症	子宮腔部びらん	卵巣機能不全	鉄欠乏性貧血	高血圧症	てんかん	うつ病	躁うつ病	-
	1,145,600	1,131,250	1,128,200	1,072,950	990,850	964,600	964,600	880,700	880,700	880,500	

図 5-2 入院外医療費(中央値)に関する上位 10 疾患(全体・0-4 歳~35-39 歳)



下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	8位	9位	10位		
40-44歳	維持療法が必要な難治性逆流性食道炎	肝機能障害	2型糖尿病	便秘症	躁うつ病	高コレステロール血症	高尿酸血症	薬剤性パーキンソン症候群	統合失調症	慢性胃炎	胃潰瘍
	1,800,200	1,513,600	1,489,400	1,448,700	1,404,550	1,389,600	1,389,600	1,376,200	1,356,100	1,308,200	1,308,200
45-49歳	不整脈	不安神経症	自律神経発作	躁うつ病	大腸ポリープ	てんかん	心不全	糖尿病	乾性角結膜炎	高脂血症	-
	2,329,950	1,543,250	1,430,400	1,292,800	1,253,850	1,244,450	1,196,550	1,194,450	1,179,300	1,178,800	
50-54歳	関節リウマチ	糖尿病網膜症	脱水症	白内障	頸椎椎間板ヘルニア	心不全	下痢症	急性上気道炎	急性胃炎	躁うつ病	-
	1,910,600	1,766,300	1,464,500	1,375,550	1,274,600	1,260,600	1,195,700	1,146,400	1,145,100	1,136,450	
55-59歳	糖尿病網膜症	慢性気管支炎	発熱	脱水症	咽頭炎	足白癬	難治性逆流性食道炎	心不全	じんま疹	便秘症	-
	2,401,600	2,399,900	2,266,100	2,025,550	1,931,200	1,896,400	1,807,700	1,784,700	1,625,000	1,618,750	
60-64歳	腎性貧血	慢性腎不全	爪白癬	ビタミン欠乏症	閉塞性動脈硬化症	末梢神経障害性疼痛	腰椎椎間板ヘルニア	頸椎椎間板ヘルニア	関節リウマチ	皮膚そう痒症	-
	43,566,550	36,255,850	2,106,400	1,950,100	1,879,100	1,815,350	1,815,350	1,810,800	1,810,250	1,759,800	
65-69歳	腎性貧血	化学療法に伴う嘔吐症	高カリウム血症	癌性疼痛	皮膚潰瘍	慢性腎不全	慢性疼痛	尿路感染症	2型糖尿病性網膜症	肺炎	-
	29,503,400	9,558,900	8,167,300	6,760,100	3,767,350	3,029,400	3,020,100	2,860,600	2,750,150	2,618,900	
70-74歳	カルニチン欠乏症	透析困難症	続発性副甲状腺機能亢進症	高リン血症	副甲状腺機能亢進症	腎性浮腫	腎性貧血	末期腎不全	発熱性好中球減少症	化学療法に伴う嘔吐症	-
	47,037,200	46,973,200	45,687,500	45,623,500	43,660,550	41,659,450	36,611,400	30,081,700	17,911,400	8,485,700	

図 5-3 入院外医療費(中央値)に関する上位 10 疾患(40-44 歳~70-74 歳)

## 第6章 注目疾患別に見た診療の状況

### 1. 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院医療費

表6-1に慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が2以下の場合には採用しなかった。表6-1より, 入院医療費は60-64歳から糖尿病, 高血圧, 脂質異常症の慢性疾患に加え, 心疾患, 脳血管疾患, 腎不全の医療費が発生していることがわかった。

表6-2に慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院受療割合を示した。表6-2より, 糖尿病の入院受療割合は40-44歳, 60-64歳のタイミングで大きく増加したことがわかった。高血圧は40-44歳, 脂質異常症は45-49歳から入院受療割合が大きく割合が増加していた。心疾患, 脳血管疾患, 腎不全の入院受療割合は60-64歳から割合が増加し, それに伴い, 入院医療費も増加したことが確認できた。

表6-1 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院医療費の中央値(人数2以下は採用しない)

	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0	0	0	0	1,192,000	243,800	1,880,310	2,248,850	757,510	995,485	1,503,325
高血圧	0	0	0	0	871,270	333,590	476,740	1,544,110	810,645	1,249,810	775,445
脂質異常症	0	0	0	0	0	2,041,570	1,594,955	1,143,245	599,610	1,077,020	596,350
心疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	828,000	289,545	562,130
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	678,560	1,308,420	1,515,635
脳出血 脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0	722,800	2,155,390	2,007,540
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	566,680	1,544,455	548,710
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0	659,255	1,861,110	807,740
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表6-2 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院医療費の受療割合

	単位[%]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0	0.1	0.3	0.1	0.6	0.4	0.3	0.6	1.3	1.1	1.2
高血圧	0	0.1	0.2	0.1	0.5	0.3	0.5	0.6	1.2	1.7	2.4
脂質異常症	0	0.1	0	0	0.1	0.7	0.4	0.5	1.1	1.1	1.4
心疾患	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0.2	0.6	0.5	0.8
脳血管疾患	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0.1	0.6	0.4	0.9
脳出血 脳梗塞	0	0	0	0	0	0.2	0	0.2	0.5	0.3	1.0
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0.2	0.4	0.3	0.4
腎不全	0	0	0	0	0.1	0	0	0.2	0.6	0.3	0.6
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0	0	0

2. 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院外医療費

表 6-3 に慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-3 より, 糖尿病の入院外医療費は 35-39 歳で大きく増加し, 40-44 歳からは約 10 万円を超えていた。高血圧の入院外医療費は 25-29 歳から発生し, 年齢とともに増加傾向であった。脂質異常症の入院外医療費は 10-14 歳から発生し, 35-39 歳で大きく増加したことがわかった。

表 6-4, 図 6-1, 6-2, 6-3 に慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院外受療割合を示した。表 6-4, 図 6-1, 6-2, 6-3 より, 糖尿病, 高血圧, 脂質異常症の慢性疾患, 腎・糖尿病合併症の入院外受療割合は 40-44 歳から急激に割合が増加したことがわかった。慢性疾患の入院外受療割合は 40-44 歳で 5%を超え, 70 歳代では 24.8~46.2%となっている。それに伴い, 50-54 歳から心疾患, 脳血管疾患, 腎不全の入院外受療割合が増加してた。

表 6-3 慢性疾患, 心・脳血管疾患, 腎疾患に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	70,200	61,970	150,000	69,670	54,365	91,560
高血圧	0	0	0	0	0	114,215	46,880	75,650
脂質異常症	0	0	166,910	0	100,040	60,555	49,420	108,550
心疾患	0	0	0	0	0	0	0	108,550
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	0
脳出血_脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	113,090	92,320	105,855	121,255	94,510	119,260	128,680
高血圧	110,385	95,635	71,575	80,840	85,195	91,505	100,950
脂質異常症	76,480	84,470	75,665	92,830	85,640	98,610	100,825
心疾患	224,220	127,885	75,680	136,030	100,590	118,880	135,980
脳血管疾患	84,780	94,295	87,420	99,315	81,895	103,720	111,825
脳出血_脳梗塞	0	95,790	82,235	117,110	93,260	98,150	106,160
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	135,610	58,950	216,300	202,890	177,660	119,260	143,970
腎不全	446,735	161,240	289,315	2,404,070	408,950	160,835	280,775
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0	5,220,340	194,980

表 6-4 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	0.9	0.9	0.7	0.8	1.9	2.0
高血圧	0	0.3	0.6	0	0.1	0.5	1.1	2.0
脂質異常症	0	0	0.9	0.2	0.6	0.5	1.4	2.6
心疾患	0	0.3	0.3	0.2	0.1	0	0.2	0.7
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	0.1
脳出血_脳梗塞	0	0	0	0.2	0	0	0	0
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0.1
腎不全	0	0	0.3	0	0.1	0	0	0.3
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	5.2	5.9	8.5	10.1	16.8	19.2	24.8
高血圧	5.8	9.1	15.5	19.7	28.3	36.2	46.2
脂質異常症	5.7	7.1	13.2	15.6	26.0	33.2	39.2
心疾患	1.4	0.8	2.5	3.1	5.5	8.0	11.4
脳血管疾患	0.6	1.4	2.2	3.2	4.6	7.3	10.0
脳出血_脳梗塞	0.3	1.3	0.9	2.4	3.5	3.7	6.0
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0.6	0.3	0.8	1.5	2.9	4.3	6.7
腎不全	0.8	0.8	1.3	1.1	2.5	2.1	3.4
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性眼科疾患	0.1	0.2	0	0.1	0.1	0.1	0.1

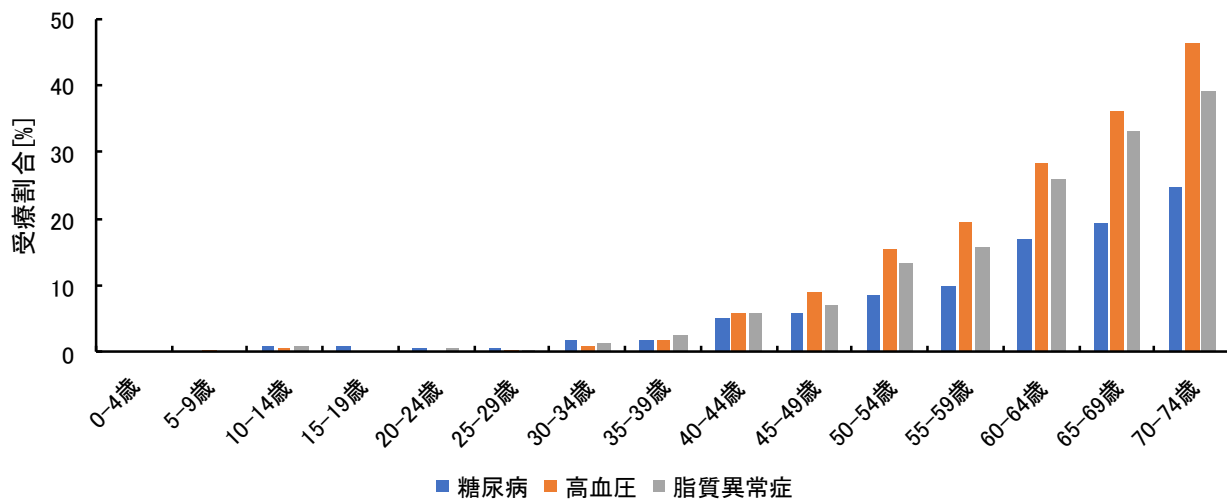


図 6-1 慢性疾患に対する入院外医療費の受療割合

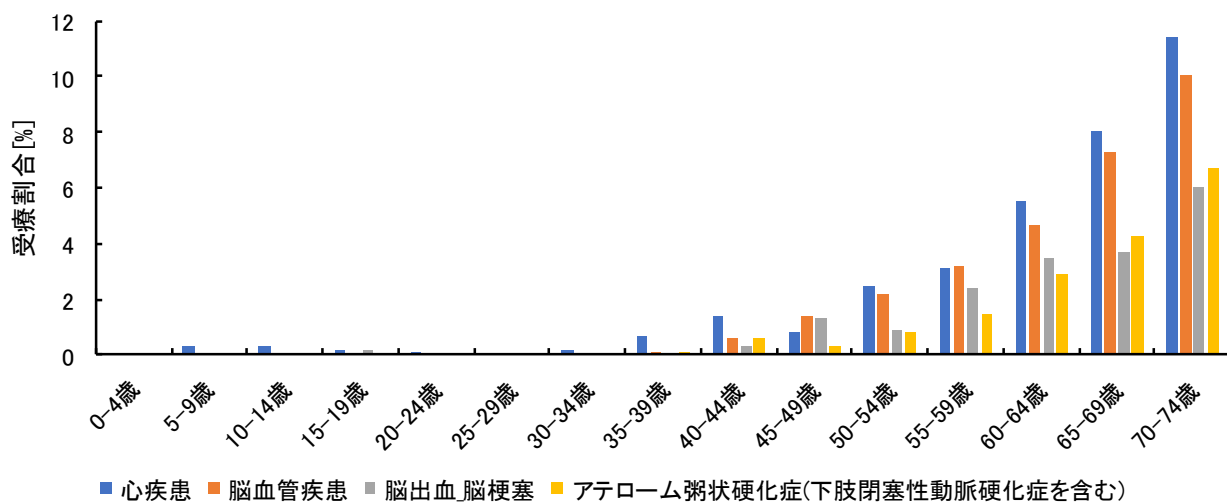


図 6-2 心・脳血管疾患に対する入院外医療費の受療割合

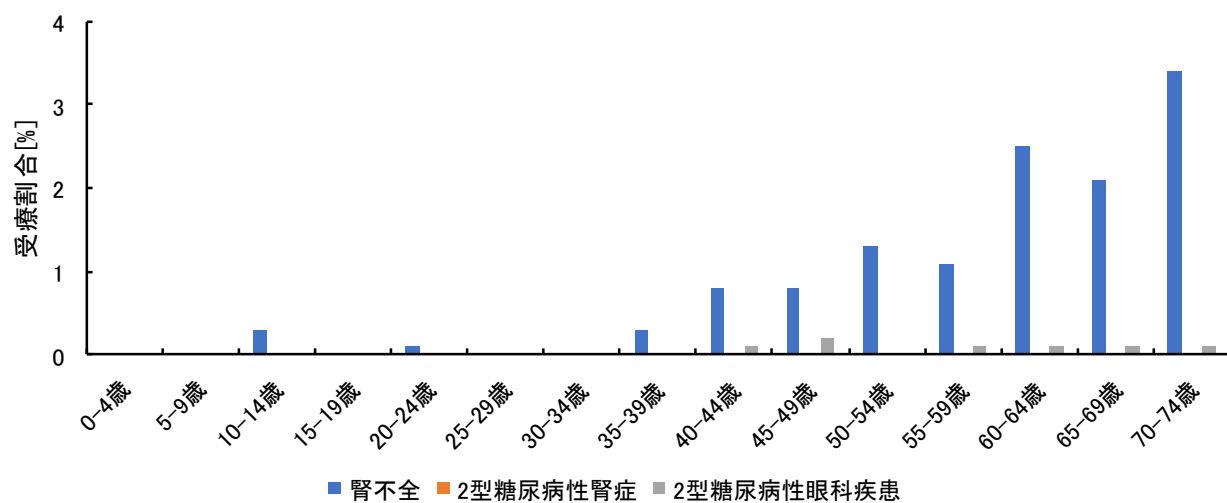


図 6-3 腎疾患に対する入院外医療費の受療割合

### 3. うつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院医療費

表 6-5 にうつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-5 より, 入院医療費について睡眠障害は 25-29 歳から発生し, 40-44 歳で大きく増加していた。うつ病エピソード, 躁病エピソードは 40-44 歳から発生していた。睡眠障害の入院医療費は 40-44 歳で 140 万円を超えていた。

表 6-6 にうつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院受療割合を示した。表 6-6 より, うつ病エピソード, 睡眠障害の入院受療割合は 20-24 歳から発生し, うつ病エピソードは 55-59 歳, 睡眠障害は 40-44 歳で大きく増加したことがわかった。アルツハイマー病は 60-64 歳で大きく割合が増加した。

表 6-5 うつ病, 躁病, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0	0	0	0	1,698,140	0	0	865,130	913,045	1,251,900	1,465,140
躁病エピソード	0	0	0	0	2,700,020	4,215,845	1,549,650	2,476,180	0	0	2,696,135
睡眠障害	0	523,725	0	258,520	1,445,070	1,210,125	1,714,980	1,618,365	848,605	1,308,420	1,465,140
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0	6,783,910	0	1,325,520

表 6-6 うつ病, 躁病, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0.1	0	0.2	0.3	0.4	0	0.1	0.7	0.4	0.3	0.5
躁病エピソード	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1
睡眠障害	0.3	0.5	0.2	0.4	1.0	0.8	0.9	0.9	1.7	1.4	1.6
アルツハイマー病	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0.1	0.5	0.4	0.6

#### 4. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費

表 6-7 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-7 より、うつ病エピソードの入院外医療費は 15-19 歳から発生し、年齢とともに増加傾向にあり、40-44 歳では 10 万円を超えていた。睡眠障害の入院外医療費は 5-9 歳から発生し、年齢とともに増加傾向にあり、40-44 歳から大きく増加したことがわかった。アルツハイマー病の入院外医療費は 60-64 歳から発生していた。

表 6-8、図 6-4 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外受療割合を示した。表 6-8、図 6-4 より、うつ病エピソードの入院外受療割合は 15-19 歳から発生し、40-44 歳では 6%を超え、60-64 歳までの働き世代では 4.3~5.3%を推移していた。睡眠障害は 25-29 歳から大きく増加し、45-49 歳では 12%を超え、70-74 歳の受療割合は 18.6%まで増加した。

表 6-7 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0	108,750	62,900	93,960	85,530	76,380
躁病エピソード	0	0	0	0	52,755	160,240	140,070	87,440
睡眠障害	0	116,615	92,155	76,400	49,760	88,695	86,160	76,830
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	113,615	99,060	90,330	118,170	111,560	110,355	179,300
躁病エピソード	140,455	121,910	113,645	193,940	113,130	174,880	230,555
睡眠障害	122,530	104,655	90,080	123,335	101,330	120,685	135,715
アルツハイマー病	0	0	0	0	149,330	125,550	146,790

表 6-8 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0	1.6	2.1	3.3	3.9	3.7
躁病エピソード	0	0	0	0	0.6	1.0	1.9	2.4
睡眠障害	0	1.3	1.1	2.1	2.4	4.1	5.5	8.3
アルツハイマー病	0	0	0	0	0.3	0.3	0.2	0.8

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	6.1	4.8	5.3	4.9	4.3	3.8	3.6
躁病エピソード	3.0	2.4	2.1	1.3	0.7	0.9	0.3
睡眠障害	9.7	12.3	12.0	11.7	12.3	14.3	18.6
アルツハイマー病	1.0	1.9	2.7	5.2	6.4	7.7	11.1

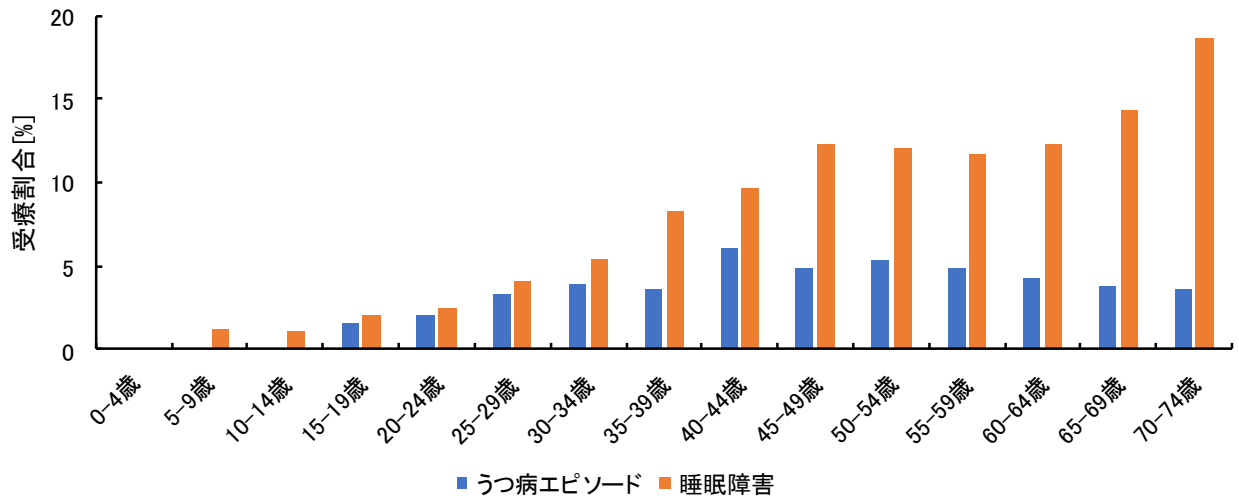


図 6-4 うつ病, 睡眠障害に対する入院外医療費の受療割合



## 5. 関節疾患に対する入院医療費

表 6-9 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-9 より, 関節疾患の入院医療費は 60-64 歳, 骨粗しょう症は 55-59 歳から発生していることがわかった。

表 6-10 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院受療割合を示した。表 6-10 より, 膝関節症の入院受療割合は, 60-64 歳で受療割合が大きく増加した。骨粗しょう症の入院受療割合は 35-39 歳から発生しているが, 大きく増加するのは 60-64 歳からであった。

表 6-9 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	0	0	0	0	0	0	0	0	300,710	1,885,210	516,580
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	383,900
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0	0	0	0	2,113,940	595,220	1,144,780	1,185,365
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 6-10 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0.1	0.5	0.4	0.6
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0.1
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.8	0.5	0.8
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

6. 関節疾患に対する入院外医療費

表 6-11 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-11 より, 膝関節症の入院外医療費は 35-59 歳, 股関節症の入院外医療費は 45-49 歳から発生し, 年齢とともに増加することがわかった。

表 6-12, 図 6-5 に膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院外受療割合を示した。表 6-12, 図 6-5 より, 膝関節症, 骨粗しょう症の入院外受療割合が 1%を超えるのは膝関節症は 40-44 歳, 骨粗しょう症は 50-54 歳であった。

表 6-11 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0	0	0	0	0	0	0	21,730
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0	0	90,740	143,000	0
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	126,025	55,205	70,510	117,260	122,665	114,490	158,760
股関節症	0	92,770	114,450	92,660	80,680	139,600	145,340
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	180,335	137,045	105,820	143,820	148,945	123,030	159,630
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	350,660	181,385

表 6-12 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0	0	0	0	0.3	0.3	0.2	0.8
股関節症	0	0	0.3	0	0	0	0	0.3
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0.2	0.1	0.4	0.6	0.3
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	1.0	1.9	2.7	5.2	6.4	7.7	11.1
股関節症	0.1	0.5	0.8	1.6	1.5	1.9	2.3
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.8	0.8	1.6	3.3	7.0	11.9	16.2
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0.1	0.1	0	0.1	0.2

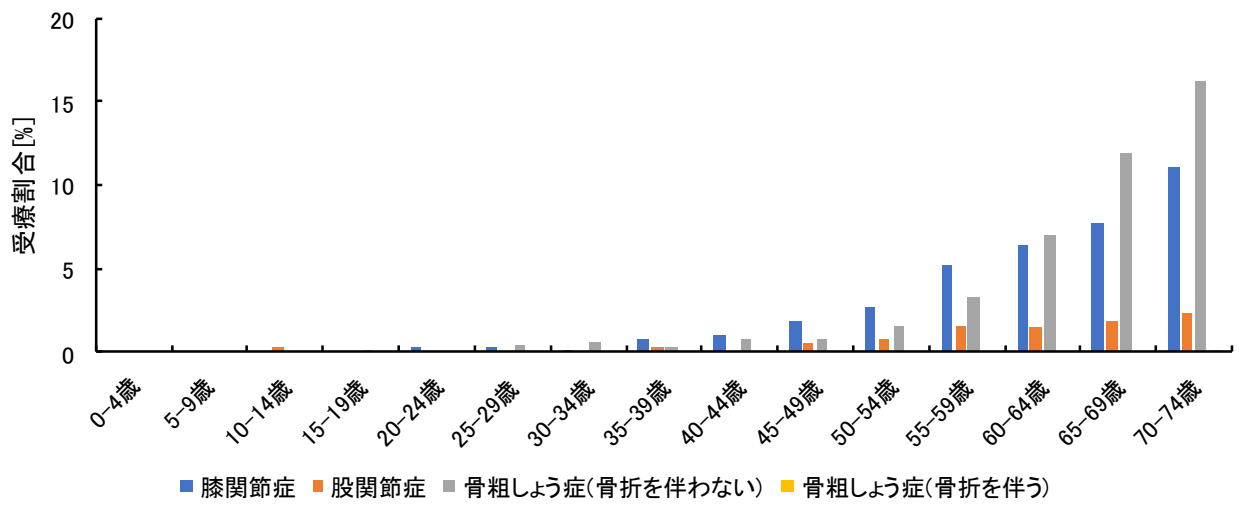


図 6-5 膝関節症，股関節症，骨粗しょう症に対する入院外医療費の受療割合

7. 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費

表 6-13 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費の中央値を示した. 患者数が 2 以下の場合には採用しなかった. 表 6-14 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院受療割合を示した. 表 6-13 より, 急性上気道感染症は 25-29 歳から入院医療費が発生し 50-54 歳では 100 万円を超えていた. 表 6-14 より, 肺炎の入院受療割合は 65-69 歳から大きく増加していた.

表 6-13 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	923,120
急性上気道感染症	0	176,310	0	270,535	223,200	0	1,309,600	1,609,280	898,490	1,721,450	773,590
肺炎	0	0	0	0	223,200	0	0	1,265,995	650,950	2,617,160	1,729,105

表 6-14 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0.2	0.1	0.2
急性上気道感染症	0.1	0.4	0.2	0.5	0.4	0.2	0.3	0.7	0.7	0.7	0.9
肺炎	0.1	0	0	0.1	0.4	0.2	0.1	0.5	0.9	0.3	0.7

8. 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費

表 6-15, 図 6-6 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値を示した. 患者数が 2 以下の場合には採用しなかった. 表 6-15, 図 6-6 より, 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎の入院外医療費は 5-9 歳, 10-14 歳, 15-19 歳, 20-24 歳を最小とした U 字型の曲線であり, 乳幼児期と高齢期の入院外医療費が高い構造となっていることがわかった. 肺炎の入院外医療費は 40-44 歳から 10 万円を超えており, 入院医療費も高いことから肺炎予防に取り組む重要性が示された.

表 6-16, 図 6-7 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外受療割合を示した. 図 6-7 より, 風邪と急性上気道感染症の受療割合の曲線はほぼ同じであることがわかった. 急性上気道感染症は乳幼児期の 0-4 歳で 53.8%, 5-10 歳で 47.2%, 10-14 歳で 39.2%であり, 非常に高い割合で受診していることが確認できた. 令和元年度には乳幼児期を除くすべての年代で急性上気道感染症の受療割合は 23.0~30.0%であったが, 令和 2 年度には 9.9~17.2%に低下していた.

表 6-15 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	89,050	54,360	92,170	53,670	42,680	60,800	44,660	45,880
急性上気道感染症	44,100	39,750	34,345	36,470	40,460	37,330	41,280	38,530
肺炎	180,120	0	0	47,390	0	61,900	0	46,340

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	63,820	95,170	75,830	87,750	121,040	96,410	125,450
急性上気道感染症	56,725	64,265	78,490	106,100	83,530	100,375	128,310
肺炎	113,080	117,930	134,690	145,040	101,280	206,365	205,110

表 6-16 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	10.3	4.9	0.9	0.7	1.1	0.8	1.1	1.5
急性上気道感染症	53.8	47.2	39.2	16.9	10.5	9.9	13.4	14.2
肺炎	3.3	0.7	0.3	0.7	0.3	0.8	0.3	0.7

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0.9	2.3	1.3	2.2	2.0	2.4	2.7
急性上気道感染症	15.9	12.6	10.3	13.4	13.6	16.0	17.2
肺炎	1.6	0.9	0.7	1.4	2.4	1.9	2.2

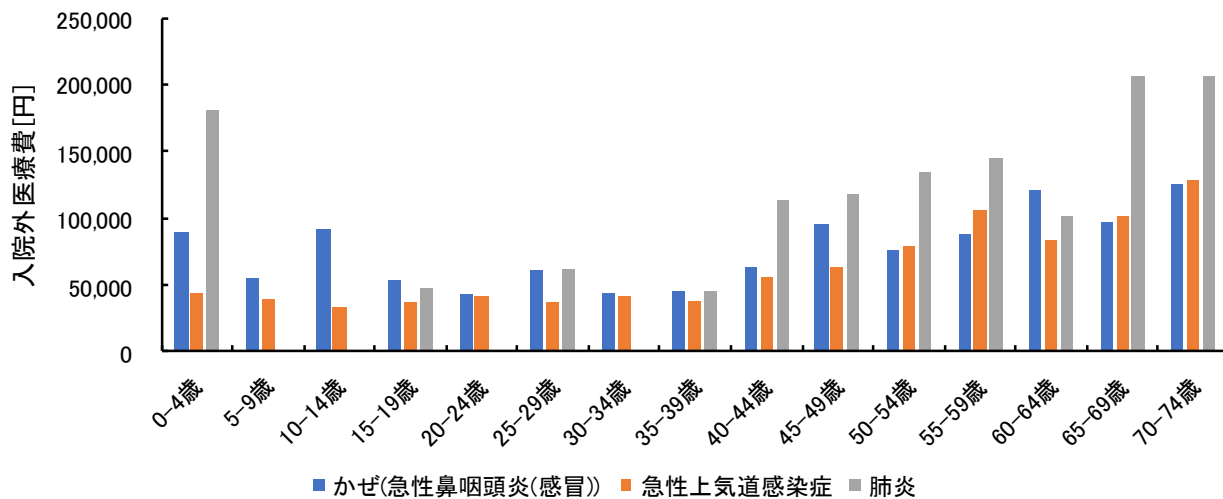


図 6-6 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値

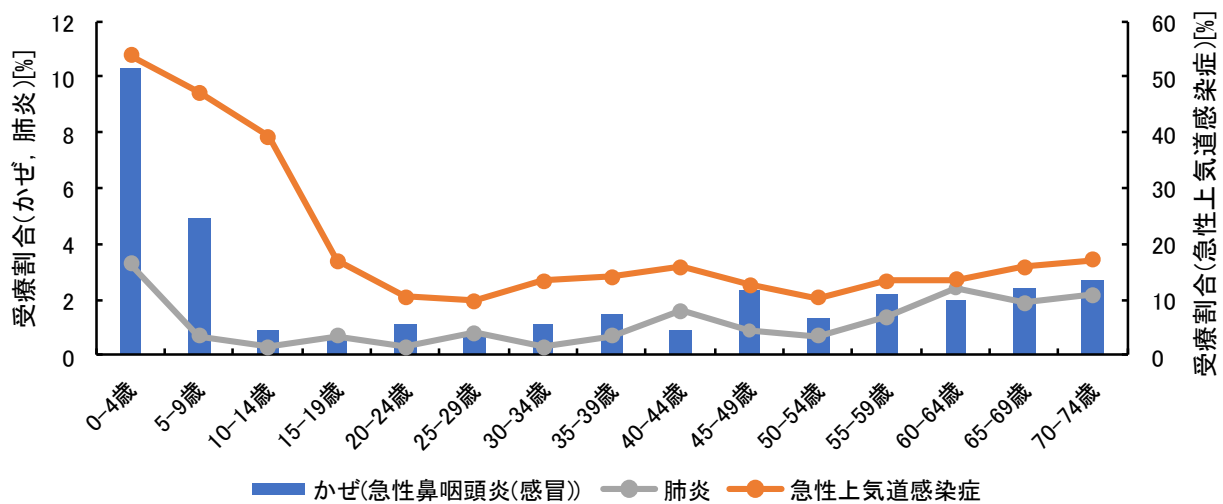


図 6-7 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の受療割合

9. 新生物に対する入院・入院外医療費

表 6-17 に新生物に対する入院医療費, 表 6-18 に新生物に対する入院外医療費の中央値を示した. 患者数が 2 以下の場合には採用しなかった. 表 6-18 より, 入院外医療費は乳房の悪性新生物は 40-44 歳, 女性生殖器の悪性新生物, 結腸の悪性新生物は 45-49 歳から発生しており, それ以外の悪性新生物は主に 60-64 歳から発生していた.

表 6-19 に新生物に対する入院受療割合, 表 6-20 に新生物に対する入院外受療割合を示した. 表 6-20 より, 少数ではあるが入院外受療割合は女性生殖器の悪性新生物は 20-24 歳から発生していた. 主に乳房の悪性新生物は 40-44 歳, 胃がんは 55-59 歳, 結腸の悪性新生物, 気管支及び肺の悪性新生物は 60-64 歳から発生していた.

表 6-17 新生物に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	単位[円]
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,374,520
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	835,520
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	955,465
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	899,100	0	0	0	0	1,404,210
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	541,750

表 6-18 新生物に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	単位[円]
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	単位[円]
胃がん	0	0	0	195,930	58,530	156,060	186,210	
結腸の悪性新生物	0	232,650	148,980	45,070	194,060	165,555	184,100	
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	484,090	171,065	291,540	
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	165,850	561,200	205,380	
乳房の悪性新生物	134,640	104,800	157,060	531,450	105,395	116,420	199,925	
女性生殖器の悪性新生物	0	243,410	532,280	387,125	202,940	261,820	160,715	
骨髄性白血病	0	0	0	42,020	0	0	0	
脾の悪性新生物	0	0	0	0	181,615	167,795	371,485	
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	74,050	0	187,910	102,990	167,520	

表 6-19 新生物に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0.2	0	0.2
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0	0	0	0.1
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1

表 6-20 新生物に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0.2	0
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0.1	0	0	0.3
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0.2	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0.2	0

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0.6	0.9	0.9	1.6
結腸の悪性新生物	0	0.3	0.5	0.3	0.9	0.9	1.8
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0.1	0.3	0.3	0.3
気管支及び肺の悪性新生物	0	0.1	0	0.1	0.6	1.0	1.5
乳房の悪性新生物	0.9	0.9	1.0	0.7	1.5	2.0	2.1
女性生殖器の悪性新生物	0.3	0.3	0.3	0.5	0.4	0.5	0.5
骨髄性白血病	0.1	0	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1
膵の悪性新生物	0	0.1	0	0	0.4	0.3	0.4
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0.3	0.1	0.3	0.5	0.4



10. 注目する精神および行動の障害に対する入院・入院外医療費

表 6-21 に注目する精神および行動の障害に対する入院医療費, 表 6-22 に注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の中央値を示した. 患者数が 2 以下の場合には採用しなかった. 表 6-21 より, 入院医療費は統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害, 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害は 35-39 歳から発生し, 400 万円以上であることがわかった. 表 6-22 より注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費は約 9 万円~21 万円を推移していたことがわかった.

表 6-23 に注目する精神および行動の障害に対する入院受療割合, 表 6-24, 図 6-8 に注目する精神および行動の障害に対する入院外受療割合を示した. 表 6-24, 図 6-8 より, 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害は 35-39 歳で 5%を超えていた. 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害は 5-9 歳から発生し, 年齢とともに増加し, 30-34 歳では 6%を超えていたことがわかった.

表 6-21 注目する精神および行動の障害に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0	0	4,314,750	2,199,080	2,621,980	2,084,100	1,150,180	3,951,390	1,885,210	3,177,485
気分[感情]障害	0	0	0	4,282,300	2,700,020	4,215,845	1,549,650	987,880	1,540,000	1,280,160	1,576,930
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	0	0	2,123,250	0	1,333,280	1,463,910	1,150,180	722,800	1,379,555	1,183,640
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 6-22 注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	43,490	0	0
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	0	90,490	0	0	92,285	112,380	90,470	85,060
気分[感情]障害	0	0	0	97,840	55,735	93,960	86,340	76,605
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	83,550	88,740	57,615	46,700	79,525	79,560	75,650
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0	0	0	0	43,430

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	176,990	0	297,900	0	279,730	299,750
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	131,015	115,060	105,820	118,170	143,390	122,135	130,140
気分[感情]障害	123,880	99,060	89,960	118,170	114,150	124,600	180,910
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	91,905	83,845	97,600	118,170	113,130	119,640	143,770
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	143,310	152,120	0	0	0	134,870	214,645

表 6-23 注目する精神および行動の障害に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.1	0.1	0.2	0	0	0	0	0.2	0	0	0
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0.1	0.3	0.2	0.5	1.0	1.0	0.6	1.0	0.9	0.5	0.6
気分[感情]障害	0.1	0.1	0.2	0.4	0.6	0.4	0.3	0.8	0.6	0.4	0.5
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	0.3	0.3	0.5	0.3	0.3	0.6	0.3	0.5	0.5	0.7
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0.1	0	0.3	0.3	0	0	0.1	0	0	0

表 6-24 注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0.1	0.4	0.3	0.1
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	1.0	0.6	0.5	1.1	1.5	3.5	5.4
気分[感情]障害	0	0	0	1.8	2.6	3.5	5.2	5.1
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	1.6	3.1	3.2	3.6	3.8	6.8	6.6
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0.4

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.3	0.9	0	0.8	0.2	0.3	0.2
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	5.8	6.3	6.1	4.7	3.0	2.3	2.0
気分[感情]障害	8.2	6.1	6.4	5.8	4.9	4.4	3.9
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	6.6	8.2	7.2	8.8	7.3	7.9	9.5
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.5	0.3	0.2	0.2	0	0.2	0.3

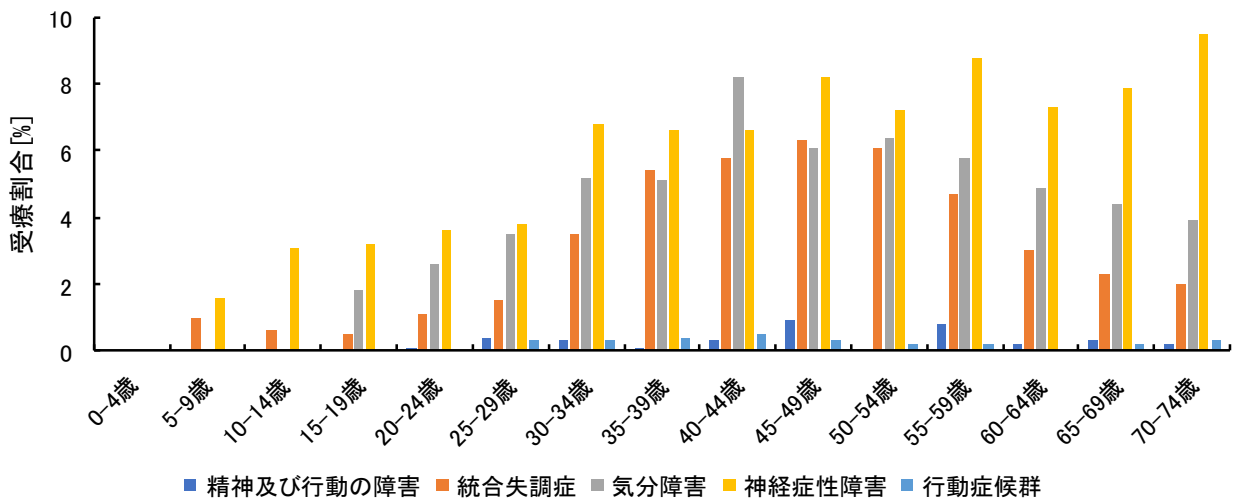


図 6-8 注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の受療割合

11. COVID-19 に対する入院・入院外医療費

表 6-25 に COVID-19 に対する入院医療費, 表 6-26 に COVID-19 に対する入院外医療費の中央値を示した。表 6-25 より, 入院医療費は 55-59 歳, 60-64 歳, 65-69 歳で発生していた。表 6-26 より, 入院外医療費は 25-29 歳, 50-54 歳, 55-59 歳, 60-64 歳, 65-69 歳で発生していた。

表 6-27 に COVID-19 に対する入院受療人数, 表 6-28 に COVID-19 に対する入院外受療人数を示した。表 6-27, 表 6-28 より, 入院受療人数は合計で 3 名, 入院外では 6 名であった。

表 6-25 COVID-19 に対する入院医療費の中央値

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	0	0	0	0	0	0	511,240	898,490	2,262,890	0

表 6-26 COVID-19 に対する入院外医療費の中央値

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
COVID-19	0	0	0	0	0	76,100	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	0	217,660	230,900	106,870	782,080	0

表 6-27 COVID-19 に対する入院医療費の受療人数

単位[人]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0

表 6-28 COVID-19 に対する入院外医療費の受療人数

単位[人]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
COVID-19	0	0	0	0	0	1	0	0

単位[人]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	0	1	1	2	1	0

## 第7章 地区別の医療費の構造分析

### 1. 令和2年度の性別・地区別一人当たりの医療費と受療割合

表 7-1 に性別，地区別の一人当たりの総医療費，レセプト件数，受療率を示した。すべてのデータは医療機関にかかっていない0点（医療費），0日（診療日数），0件（レセプト件数）の人を含めずに解析した。医療費，レセプト件数の合計を受療人数（医療機関を受療した人数）で除した値である平均値を示した。受療割合は，入院および入院外の受診者を当該年齢階級の人数で除し，100を乗じたものである。表 7-1 より，入院外に着目すると，受療割合は女性ではすべての地区で約70%であり，レセプト件数も8件以上であるため，1～2ヶ月に1回は医療機関を受診していることが推定できる。

図 7-1 に男性，図 7-2 に女性の地区別の一人当たりの総医療費と入院外医療費を示した。図 7-1，図 7-2 より，館地区の男性は一人当たりの入院外医療費が22万円を超え，次いで上宗岡地区，柏町地区の入院外医療費が高いことがわかった。女性は幸町地区の入院外医療費が14万円を超え，次いで中宗岡地区，館地区の入院外医療費が高いことがわかった。

図 7-3 に性別，地区別の一人当たりのレセプト件数を示した。図 7-3 より，レセプト件数は男女ともに館地区が多いことがわかった。

表 7-1 地区別の一人当たりの総医療費，レセプト件数，受療割合

		総医療費[円]	レセプト件数 [件]	入院			入院外		
				診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]
男性	上宗岡	270,526	7.7	50.5	1,227,696	4.1	12.4	191,382	62.3
	中宗岡	250,878	7.3	100.9	2,470,009	2.9	11.0	135,859	61.2
	下宗岡	206,983	7.5	60.1	1,391,629	1.7	12.2	168,460	59.9
	本町	238,154	8.3	70.6	2,327,677	2.0	12.9	164,841	62.2
	幸町	231,267	8.2	72.1	2,108,543	3.1	11.7	122,119	58.5
	館	274,607	10.2	88.1	2,094,398	1.7	16.0	228,309	75.8
	柏町	224,673	8.4	94.0	1,714,929	1.8	13.6	174,837	59.9
女性	上宗岡	147,629	8.4	33.8	836,106	3.0	12.8	113,086	71.2
	中宗岡	162,347	8.4	26.8	965,905	2.1	11.7	134,831	71.6
	下宗岡	176,016	8.2	68.4	1,307,482	2.8	13.0	124,246	68.4
	本町	143,245	9.2	59.5	1,297,987	1.4	14.7	116,655	69.2
	幸町	192,410	9.4	92.8	2,381,699	1.5	14.3	141,749	70.3
	館	187,401	10.4	86.4	2,242,075	1.9	14.7	134,794	79.2
	柏町	196,062	8.8	97.4	1,994,819	2.5	12.8	125,424	67.7

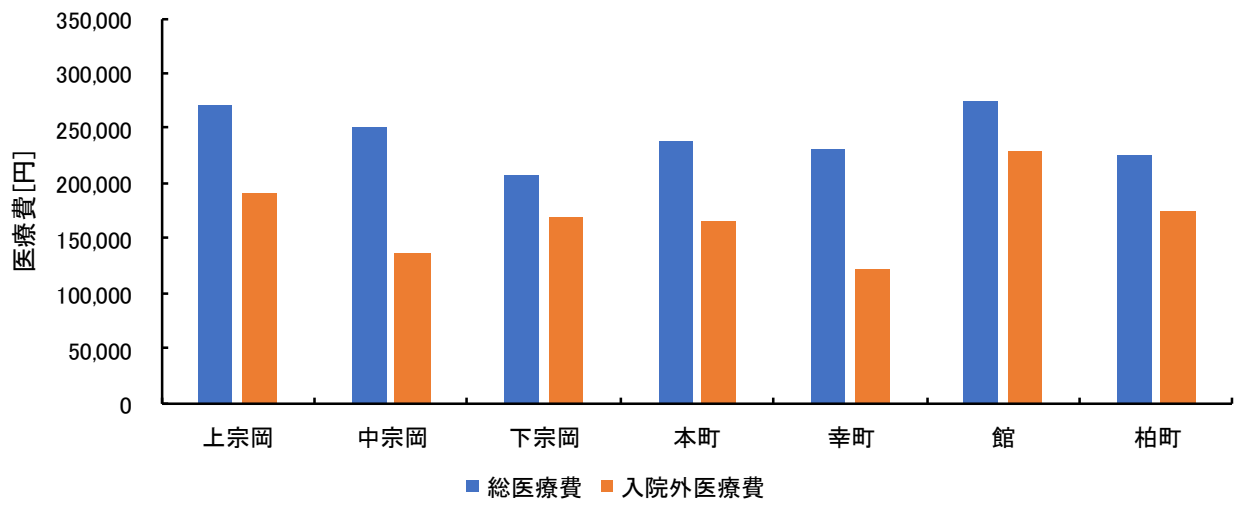


図 7-1 男性の一人当たりの地区別総医療費, 入院外医療費

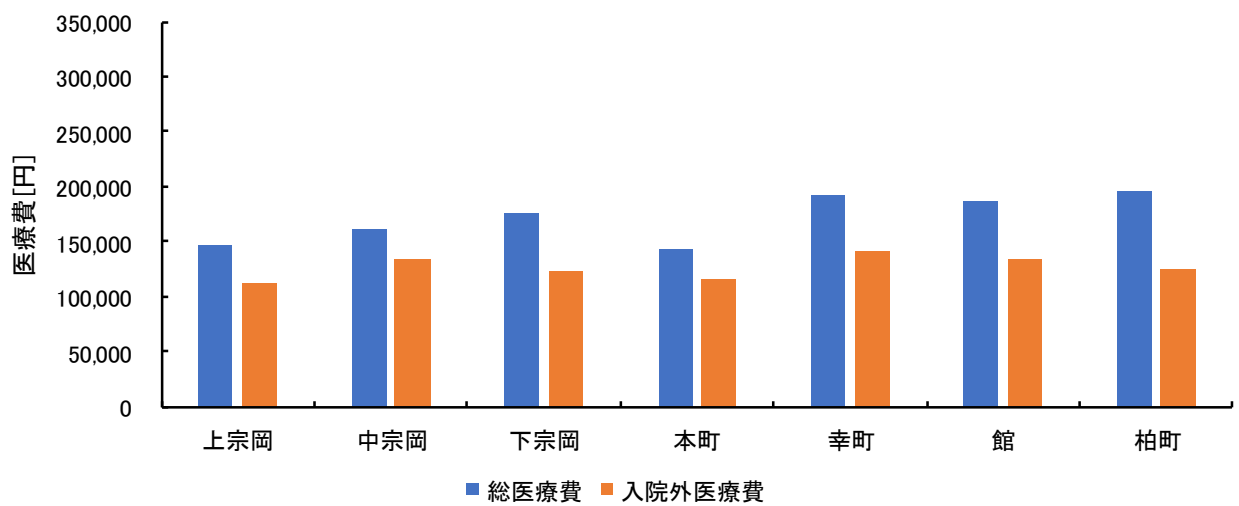


図 7-2 女性の一人当たりの地区別総医療費, 入院外医療費

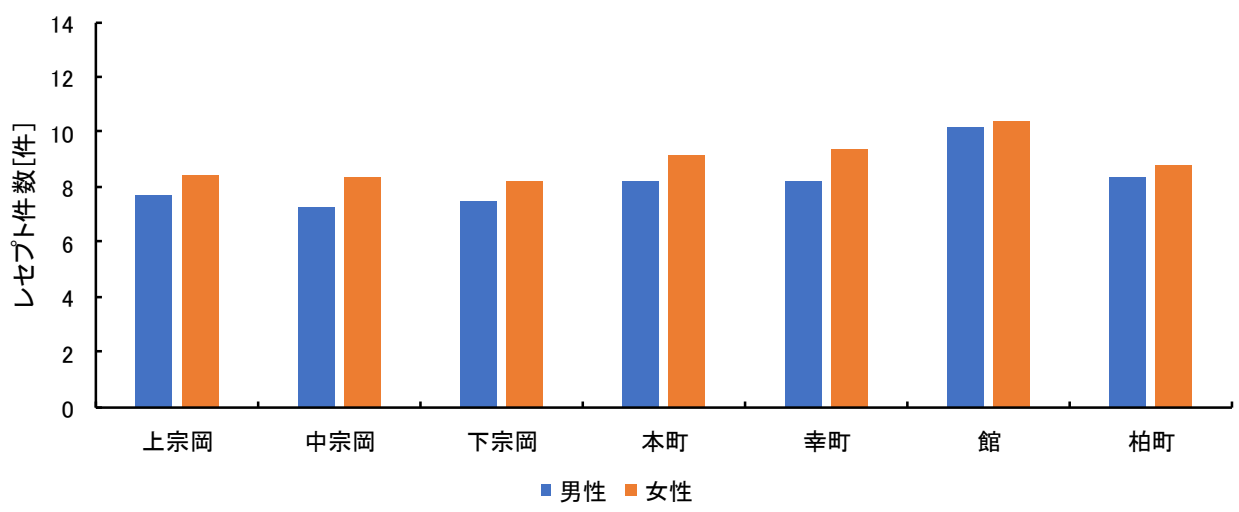


図 7-3 一人当たりの地区別レセプト件数

## 2. 令和2年度の地区別・年齢群別一人当たりの医療費と受療割合

表7-2に地区別・年齢群別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合を示した。40-64歳群、65-74歳群の中高年の2群に着目し記載する。表7-2より、すべての地区で65-74歳群の総医療費が約25~30万円であることがわかった。レセプト件数も約12件であるため、1ヶ月に1回は医療機関を受診していることが推察される。入院外受療割合に注目すると、館地区の受療割合は40-64歳群、65-74歳群ともに他の地区と比べ高いことがわかった。

図7-4に40-64歳群、図7-5に65-74歳群の地区別の一人当たりの総医療費と入院外医療費を示した。図7-4、7-5より、40-64歳群は上宗岡、65-74歳群は上宗岡、下宗岡の総医療費が高いことがわかった。

図7-6に年齢群別の地区別の一人当たりのレセプト件数を示した。図7-6より、レセプト件数はどちらの群も館地区が多いことがわかった。

表7-2 地区別・年齢群別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合

		総医療費[円]	レセプト件数 [件]	入院			入院外		
				診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]
上宗岡	40-64歳	234,275	9.2	34.0	967,314	3.6	15.1	168,913	67.2
	65-74歳	255,413	11.1	77.3	1,349,066	4.9	15.8	186,954	88.7
中宗岡	40-64歳	209,873	8.7	99.2	2,373,503	2.1	11.7	135,139	70.6
	65-74歳	278,866	11.7	77.0	1,760,022	4.3	16.1	186,038	89.7
下宗岡	40-64歳	163,892	8.3	41.8	1,377,744	2.1	10.5	96,438	68.0
	65-74歳	298,098	12.9	102.6	1,393,874	3.8	19.2	231,784	92.7
本町	40-64歳	211,386	10.2	79.7	2,416,188	2.0	13.2	125,929	77.2
	65-74歳	243,215	12.7	55.6	1,778,654	2.7	18.8	187,805	90.7
幸町	40-64歳	164,621	9.8	77.9	2,224,315	1.8	11.9	99,968	73.3
	65-74歳	306,763	13.0	79.8	2,239,856	4.1	18.8	174,249	91.7
館	40-64歳	236,796	12.3	146.3	3,204,316	1.8	14.6	139,697	90.2
	65-74歳	244,224	13.3	51.5	1,976,918	2.1	18.1	201,687	97.6
柏町	40-64歳	189,248	9.9	117.3	1,566,024	1.9	12.8	147,436	71.3
	65-74歳	283,593	12.6	127.4	2,280,407	3.1	18.2	207,377	92.2

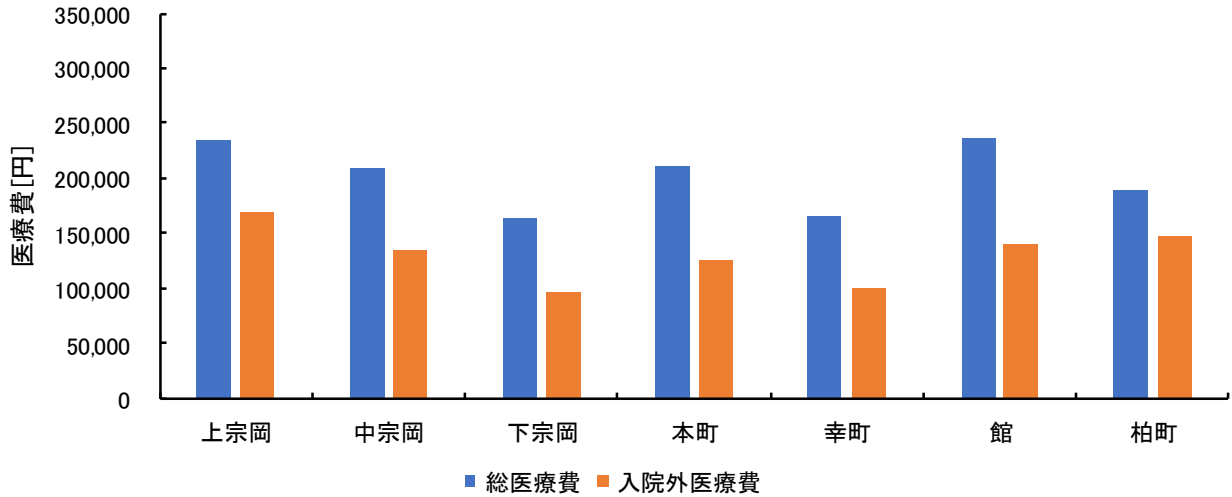


図 7-4 40-64 歳群の一人当たりの地区別総医療費, 入院外医療費

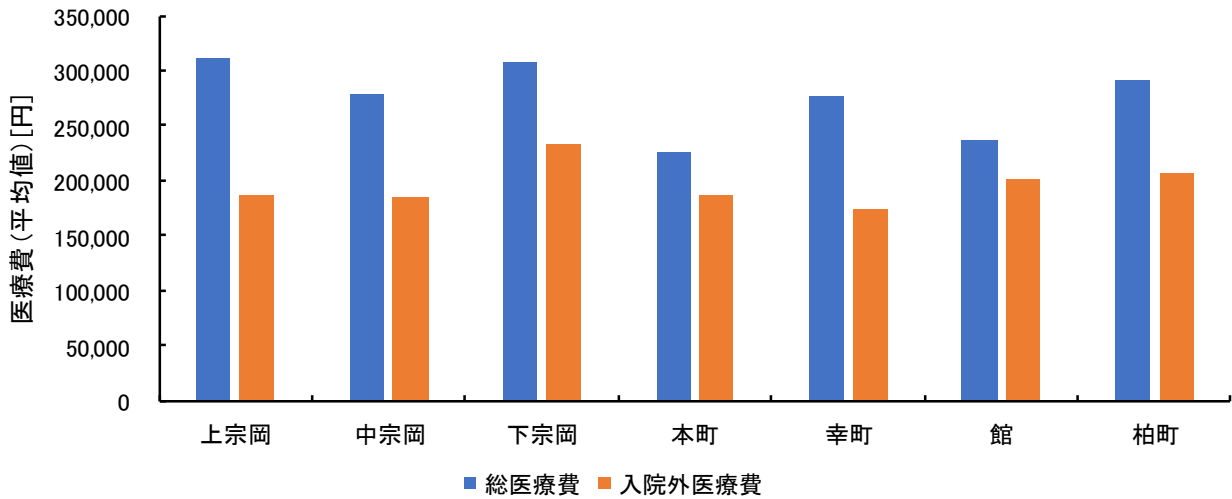


図 7-5 65-74 歳群の一人当たりの地区別総医療費, 入院外医療費

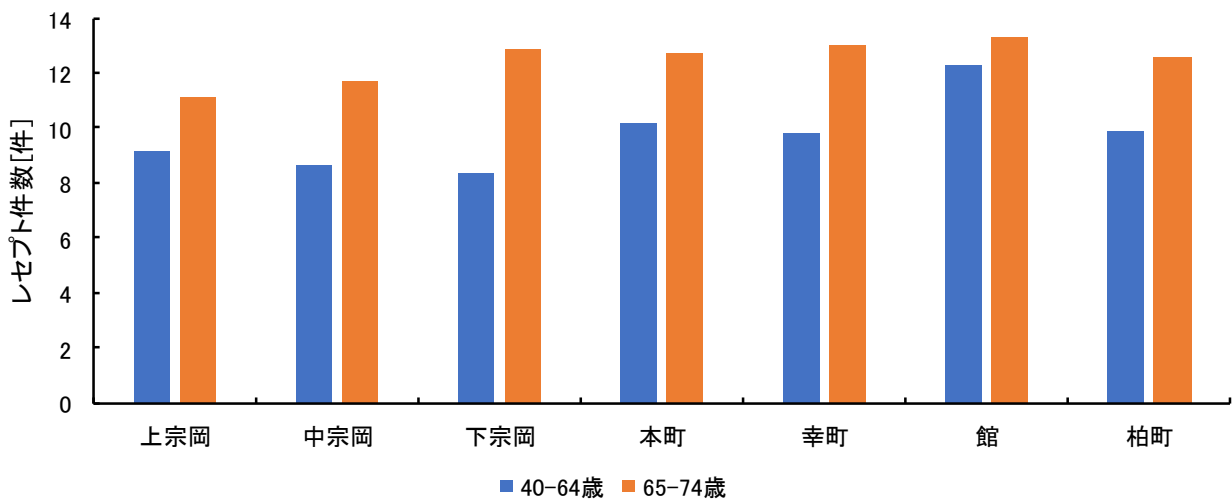


図 7-6 一人当たりの地区別・年齢群別レセプト件数

## 第 8 章 地区別の国保医療費の疾病構造

### 1. 疾病分類別の地区別総医療費と受療割合(入院, 入院外を含む全体の医療費)

表 8-1 に疾病分類別の地区別総医療費合計, 表 8-2 に総医療費合計を患者数で除した一人当たりの医療費(平均医療費), 表 8-3 に受療割合を示した. 1 年間にそれぞれの分類に対し, 1 回でも病名が記載された場合に, 患者としてカウントした. そのため, 患者数は頭数であり, 繰り返し受診したところによる延べ人数ではない. 総医療費合計(入院と入院外)はそれぞれの患者の医療費の合計である.(例として, 糖尿病と胃炎の診断を受けると, 第 4 章と第 11 章にそれぞれ患者数としてカウントされる)

図 8-1 に地区別の総医療費合計, 図 8-2 に地区別の一人当たりの医療費, 図 8-3 に地区別の受療割合を示した. 図 8-3 より, 受療割合に着目すると, 第 4 章の内分泌, 栄養及び代謝疾患, 第 9 章の循環器系の疾患, 第 10 章の呼吸器系の疾患, 第 11 章の消化器系の疾患のボリュームが大きく, 中でも館地区の割合が高いことがわかった.

図 8-2 より, 一人当たりの医療費に着目すると, 第 1 章の感染症及び寄生虫症, 第 2 章の新生物, 第 3 章の血液及び造血器並びに免疫機構の障害の医療費が大きいことがわかった.

表 8-1 疾病分類別の地区別総医療費合計

傷病分類名	単位[円]						
	上宗岡	中宗岡	下宗岡	本町	幸町	館	柏町
第1章 感染症及び寄生虫症	48,099,482	55,929,390	29,371,771	71,076,102	63,527,832	74,163,494	71,839,929
第2章 新生物	33,179,994	58,912,230	18,094,778	57,778,697	46,144,110	74,707,271	65,266,459
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	41,851,337	60,126,075	34,151,962	52,820,061	52,539,575	56,126,569	58,427,518
第4章 内分泌, 栄養及び代謝疾患	80,703,931	108,877,890	47,660,446	118,566,440	106,421,773	140,851,506	113,472,224
第5章 精神及び行動の障害	43,700,463	39,488,736	26,491,278	67,497,036	55,256,573	75,536,002	78,409,126
第6章 神経系の疾患	70,112,827	97,012,647	51,770,117	103,682,921	94,137,979	101,047,863	122,083,439
第7章 眼及び付属器の疾患	70,372,674	71,652,479	37,872,128	90,971,343	72,672,468	115,157,673	64,537,960
第8章 耳及び乳様突起の疾患	18,904,553	17,316,345	7,869,773	15,725,586	12,515,794	32,800,763	16,048,451
第9章 循環器系の疾患	79,456,040	105,689,496	57,853,076	117,590,631	80,359,864	134,576,591	107,984,999
第10章 呼吸器系の疾患	64,447,238	77,831,142	41,643,303	105,711,948	91,111,449	132,753,995	92,760,371
第11章 消化器系の疾患	100,285,357	129,342,702	63,397,687	137,751,959	117,243,404	162,090,430	142,202,384
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	71,003,812	83,147,648	50,631,171	87,490,184	87,293,898	101,327,151	114,468,743
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	88,182,753	115,748,007	61,007,590	126,659,584	105,867,753	129,955,744	105,542,451
第14章 腎尿路器系の疾患	48,178,303	60,003,382	31,367,948	67,638,466	68,593,182	60,628,036	54,051,669
第15章 妊娠, 分娩及び産じょく	756,720	914,370	1,649,230	1,618,730	149,390	255,510	959,580
第16章 周産期に発生した病態	10,977	0	0	0	1,199	0	0
第17章 先天奇形, 変形及び染色体異常	5,911,306	3,721,757	1,136,574	7,375,376	12,849,584	2,766,570	4,042,475
第18章 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	71,067,277	89,752,047	52,372,594	105,669,921	100,404,485	109,984,619	101,521,719
第19章 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	40,248,536	47,346,824	26,576,285	52,402,547	44,189,164	59,140,238	47,571,132



表 8-2 疾病分類別の地区別一人当たりの総医療費

		単位[円]						
傷病分類名		上宗岡	中宗岡	下宗岡	本町	幸町	館	柏町
第1章	感染症及び寄生虫症	258,599	245,304	279,731	210,284	327,463	268,708	310,995
第2章	新生物	232,028	348,593	186,544	225,698	334,378	307,437	395,554
第3章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	354,672	364,400	401,788	276,545	520,194	201,894	319,276
第4章	内分泌、栄養及び代謝疾患	156,707	168,542	151,303	140,983	212,844	177,619	179,261
第5章	精神及び行動の障害	246,895	184,527	254,724	205,784	277,671	264,112	308,697
第6章	神経系の疾患	206,822	243,139	243,052	176,632	275,257	193,950	297,040
第7章	眼及び付属器の疾患	146,305	127,043	150,286	122,603	157,641	148,591	124,111
第8章	耳及び乳様突起の疾患	189,046	121,946	151,342	93,605	134,578	217,224	124,407
第9章	循環器系の疾患	152,800	171,574	170,658	145,353	173,563	168,431	169,521
第10章	呼吸器系の疾患	140,714	134,192	149,796	128,603	183,692	186,191	155,900
第11章	消化器系の疾患	171,428	187,453	188,124	145,308	222,052	181,920	206,690
第12章	皮膚及び皮下組織の疾患	193,999	189,835	228,068	144,135	254,501	229,247	261,344
第13章	筋骨格系及び結合組織の疾患	186,433	204,502	221,846	171,625	256,961	177,778	191,895
第14章	泌尿路性器系の疾患	230,518	231,673	265,830	191,610	322,034	192,470	200,191
第15章	妊娠、分娩及び産じょく	84,080	114,296	1,649,230	202,341	74,695	85,170	119,948
第16章	周産期に発生した病態	5,489	0	0	0	1,199	0	0
第17章	先天奇形、変形及び染色体異常	311,121	206,764	66,857	263,406	611,885	145,609	168,436
第18章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	216,010	231,917	264,508	191,431	286,053	215,656	242,295
第19章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	196,334	214,239	237,288	202,326	286,943	311,264	241,478

表 8-3 疾病分類別の地区別受療割合

		単位[%]						
傷病分類名		上宗岡	中宗岡	下宗岡	本町	幸町	館	柏町
第1章	感染症及び寄生虫症	8.9	9.2	8.1	10.3	10.5	12.8	9.3
第2章	新生物	6.8	6.8	7.5	7.8	7.4	11.3	6.6
第3章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.6	6.6	6.5	5.8	5.4	12.9	7.4
第4章	内分泌、栄養及び代謝疾患	24.7	25.9	24.2	25.7	26.9	36.9	25.5
第5章	精神及び行動の障害	8.5	8.6	8.0	10.0	10.7	13.3	10.2
第6章	神経系の疾患	16.2	16.0	16.4	17.9	18.4	24.2	16.6
第7章	眼及び付属器の疾患	23.0	22.6	19.4	22.7	24.8	36.0	21.0
第8章	耳及び乳様突起の疾患	4.8	5.7	4.0	5.1	5.0	7.0	5.2
第9章	循環器系の疾患	24.9	24.7	26.1	24.7	24.9	37.1	25.7
第10章	呼吸器系の疾患	21.9	23.3	21.4	25.1	26.7	33.1	24.0
第11章	消化器系の疾患	28.0	27.7	25.9	29.0	28.4	41.4	27.7
第12章	皮膚及び皮下組織の疾患	17.5	17.6	17.1	18.5	18.5	20.5	17.6
第13章	筋骨格系及び結合組織の疾患	22.6	22.7	21.2	22.5	22.2	34.0	22.2
第14章	泌尿路性器系の疾患	10.0	10.4	9.1	10.8	11.5	14.6	10.9
第15章	妊娠、分娩及び産じょく	0.4	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3
第16章	周産期に発生した病態	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
第17章	先天奇形、変形及び染色体異常	0.9	0.7	1.3	0.9	1.1	0.9	1.0
第18章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	15.7	15.5	15.2	16.9	18.9	23.7	16.9
第19章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	9.8	8.9	8.6	7.9	8.3	8.8	7.9

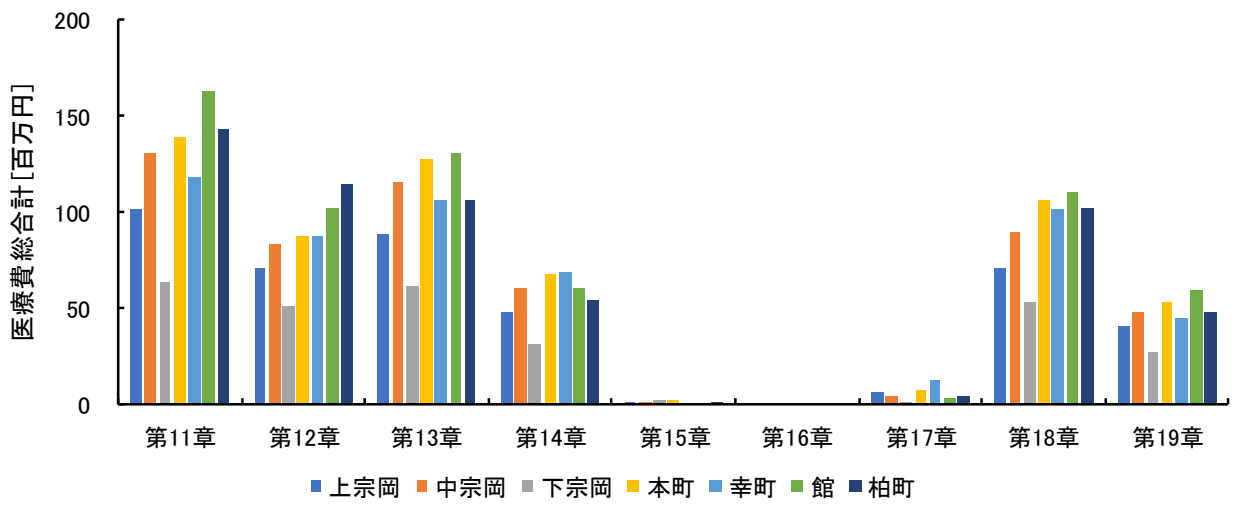
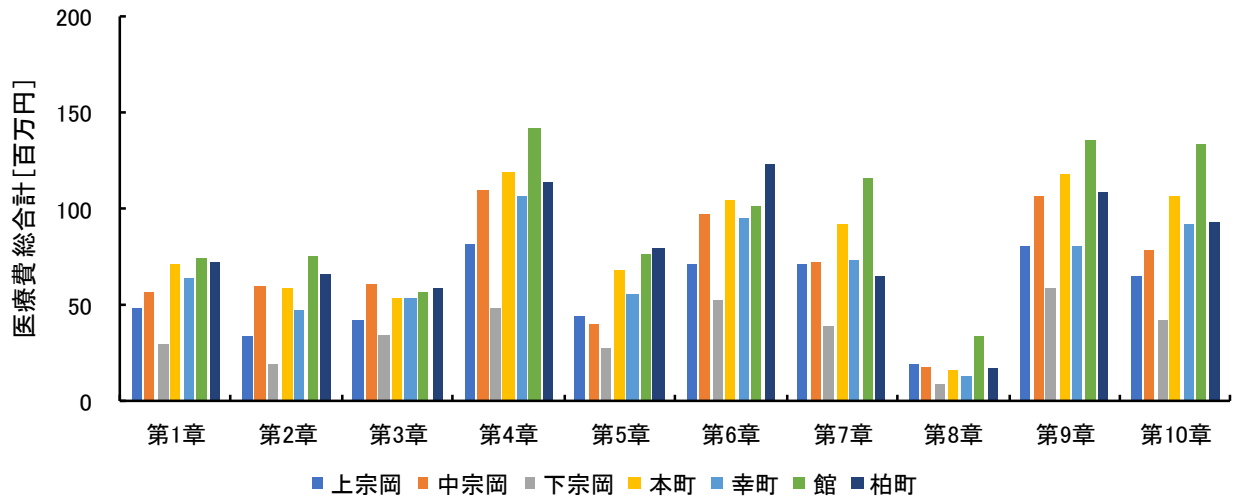


図 8-1 疾病分類別の地区別総医療費合計

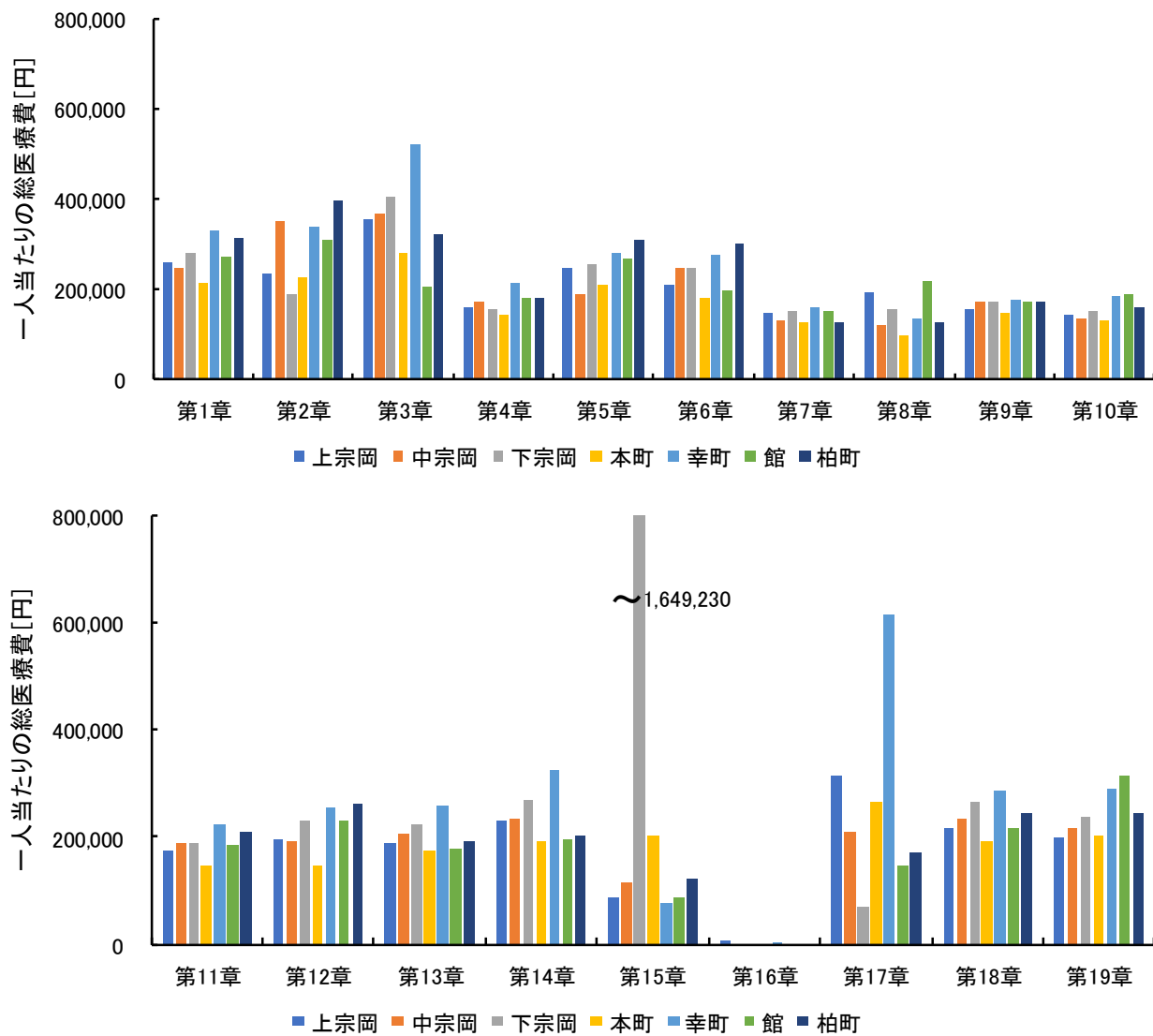


図 8-2 疾病分類別の地区別一人当たりの総医療費

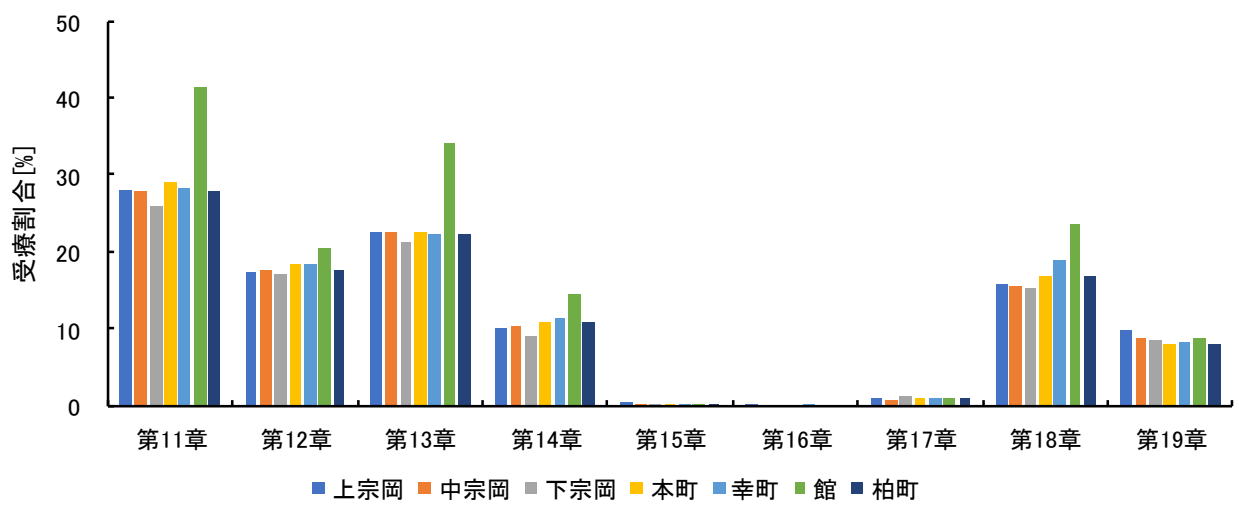
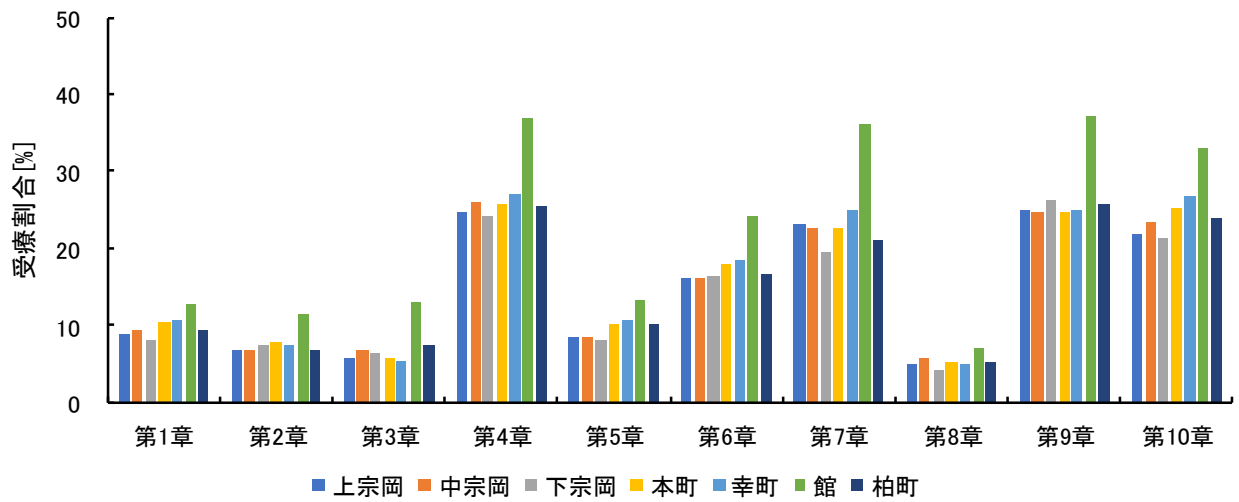


図 8-3 疾病分類別の地区別受療割合

## 2. 疾病分類別の地区別・年齢階級別の総医療費と受療割合(入院, 入院外を含む全体の医療費)

表 8-4 に疾病分類別の地区別・年齢群別の総医療費合計, 表 8-5 に総医療費合計を患者数で除した一人当たりの医療費(平均医療費), 表 8-6 に受療割合を示した. 40-64 歳群, 65-74 歳群の中老年の 2 群に着目し記載する. 1 年間にそれぞれの分類に対し, 1 回でも病名が記載された場合に, 患者としてカウントした. そのため, 患者数は頭数であり, 繰り返し受診したところによる延べ人数ではない. 総医療費合計(入院と入院外)はそれぞれの患者の医療費の合計である.(例として, 糖尿病と胃炎の診断を受けると, 第 4 章と第 11 章にそれぞれ患者数としてカウントされる)

図 8-4 に地区別・年齢群別の総医療費合計, 図 8-5 に地区別・年齢群別の一人当たりの医療費, 図 8-6 に地区別・年齢群別の受療割合を示した. 図 8-6 より, 受療割合に着目すると, 第 4 章の内分泌, 栄養及び代謝疾患, 第 7 章の眼及び付属期の疾患, 第 9 章の循環器系の疾患, 第 10 章の呼吸器系の疾患, 第 11 章の消化器系の疾患, 第 13 章の筋骨格系及び結合組織の疾患は 65-74 歳群で大きく増加し, 中でも館地区の割合が高いことがわかった.

表 8-4 疾病分類別の地区別・年齢階級別総医療費合計

単位[円]

傷病分類名	上宗岡		中宗岡		下宗岡		本町	
	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	41,209,910	61,308,600	45,174,640	47,858,190	8,849,790	45,553,890	71,925,700	93,455,650
第2章 新生物	21,110,490	54,478,820	25,603,480	64,285,810	7,159,090	25,888,350	45,041,450	80,906,500
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	21,423,170	78,665,660	45,835,710	61,102,130	17,979,870	48,482,670	62,378,110	85,698,660
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	62,966,930	131,495,360	84,796,700	135,946,810	26,954,820	77,177,340	101,502,580	177,417,140
第5章 精神及び行動の障害	29,628,310	42,897,470	35,091,820	48,263,120	20,253,500	23,680,800	51,718,020	68,938,150
第6章 神経系の疾患	44,842,930	102,843,890	71,701,000	109,095,530	28,806,360	61,501,870	80,943,840	139,075,910
第7章 眼及び付属器の疾患	40,637,490	86,890,380	38,602,240	80,835,970	14,224,260	45,877,420	45,679,940	105,280,430
第8章 耳及び乳様突起の疾患	9,471,590	23,406,310	21,514,380	29,010,360	4,847,990	4,610,350	10,316,150	19,485,790
第9章 循環器系の疾患	62,199,670	130,538,100	70,370,800	143,921,760	22,331,990	87,218,890	98,528,430	180,528,090
第10章 呼吸器系の疾患	47,228,650	89,079,310	70,950,350	84,619,270	17,129,540	56,418,470	78,452,060	135,632,120
第11章 消化器系の疾患	71,059,030	147,182,120	87,091,940	138,043,850	31,935,750	86,192,180	111,703,910	192,447,160
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	48,013,890	96,483,480	58,509,590	82,840,130	20,266,560	66,087,980	82,913,950	112,138,470
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	48,905,190	118,522,300	68,471,410	132,117,780	19,961,300	83,667,450	98,888,440	157,615,770
第14章 腎尿路性器系の疾患	45,595,570	91,497,970	43,114,440	69,951,820	13,215,260	51,232,110	73,233,020	109,610,090
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	28,850	0	76,600	0	0	0	690,340	0
第16章 周産期に発生した病態	0	75,910	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	5,010,160	5,979,540	746,620	7,599,300	1,774,820	1,916,070	10,275,670	6,645,240
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	51,298,780	94,028,230	60,249,510	107,311,780	24,766,600	71,844,040	74,620,890	148,464,520
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	38,820,470	47,026,750	41,237,980	48,116,610	3,137,750	47,442,400	58,235,710	73,208,450

単位[円]

傷病分類名	幸町		館		柏町	
	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	26,476,550	57,514,030	26,848,900	118,911,380	20,680,040	85,032,810
第2章 新生物	7,482,990	57,238,140	13,251,740	132,672,640	14,741,200	86,224,260
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	11,379,420	51,604,800	26,533,950	107,230,180	25,610,400	82,064,450
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	32,287,450	130,641,490	44,549,300	233,387,830	60,051,460	145,533,920
第5章 精神及び行動の障害	31,943,880	65,740,560	39,337,400	72,144,670	35,817,770	77,770,750
第6章 神経系の疾患	35,100,390	115,973,630	44,813,370	148,121,420	42,588,900	140,436,160
第7章 眼及び付属器の疾患	29,568,990	75,984,400	24,310,260	162,881,150	32,506,570	72,711,560
第8章 耳及び乳様突起の疾患	3,750,860	13,595,730	3,558,560	37,006,410	9,796,350	12,542,740
第9章 循環器系の疾患	28,177,470	128,188,760	45,171,990	219,041,670	54,989,280	154,376,930
第10章 呼吸器系の疾患	38,631,300	117,472,710	45,803,930	176,651,540	48,909,930	112,347,360
第11章 消化器系の疾患	39,955,860	144,781,280	61,437,100	241,970,160	73,142,350	171,734,470
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	32,110,250	90,046,530	45,897,960	151,499,800	39,852,880	120,776,090
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	30,431,840	125,343,630	37,820,970	196,511,560	40,703,500	142,741,230
第14章 腎尿路性器系の疾患	24,055,660	77,869,460	30,363,700	124,881,390	30,785,220	72,865,870
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	91,860	0	208,160	99,560
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	4,000,660	9,213,680	480,930	11,396,710	5,275,390	1,935,730
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	34,291,360	118,386,200	35,863,540	170,899,450	40,613,200	125,958,100
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	14,440,780	62,878,410	27,917,560	89,603,600	19,635,810	55,270,820

表 8-5 疾病分類別の地区別・年齢階級別一人当たりの総医療費

単位[円]

傷病分類名	上宗岡		中宗岡		下宗岡		本町	
	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	841,019	681,207	752,911	469,198	442,490	690,210	799,174	540,206
第2章 新生物	659,703	579,562	522,520	676,693	325,413	410,926	662,374	505,666
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	793,451	1,092,579	1,041,721	650,023	642,138	989,442	1,039,635	808,478
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	552,341	365,265	428,266	350,378	421,169	362,335	424,697	329,772
第5章 精神及び行動の障害	502,175	529,598	377,331	595,841	613,742	550,716	385,955	551,505
第6章 神経系の疾患	472,031	535,645	547,336	500,438	496,661	504,114	412,979	425,309
第7章 眼及び付属器の疾患	383,373	291,578	259,075	274,952	258,623	342,369	239,162	247,137
第8章 耳及び乳様突起の疾患	451,028	450,121	860,575	439,551	605,999	184,414	286,560	237,632
第9章 循環器系の疾患	555,354	346,255	395,342	363,439	328,412	368,012	480,626	328,233
第10章 呼吸器系の疾患	396,879	452,179	419,825	386,389	244,708	503,736	324,182	372,616
第11章 消化器系の疾患	449,741	399,951	412,758	353,053	380,188	416,387	416,806	344,887
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	500,145	634,760	460,705	473,372	375,307	718,348	538,402	415,328
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	404,175	397,726	393,514	405,269	285,161	507,075	496,927	347,938
第14章 腎尿路性器系の疾患	844,362	737,887	495,568	542,262	550,636	721,579	725,079	567,928
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	28,850	#DIV/0!	76,600	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	345,170	#DIV/0!
第16章 周産期に発生した病態	#DIV/0!	75,910	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	715,737	854,220	106,660	1,085,614	354,964	212,897	1,284,459	474,660
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	576,391	487,193	537,942	520,931	604,063	624,731	487,718	471,316
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	647,008	461,047	624,818	496,048	174,319	649,896	939,286	491,332

単位[円]

傷病分類名	幸町		館		柏町	
	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	519,148	605,411	526,449	597,545	405,491	669,550
第2章 新生物	277,148	635,979	315,518	724,987	398,411	743,313
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	367,078	921,514	541,509	520,535	595,591	701,406
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	264,651	403,214	436,758	371,046	366,167	352,382
第5章 精神及び行動の障害	414,856	738,658	497,942	419,446	358,178	770,007
第6章 神経系の疾患	361,860	597,802	481,864	400,328	313,154	671,943
第7章 眼及び付属器の疾患	268,809	296,814	233,753	277,009	244,410	246,480
第8章 耳及び乳様突起の疾患	170,494	289,271	131,799	324,618	288,128	209,046
第9章 循環器系の疾患	293,515	395,644	465,691	340,656	376,639	354,889
第10章 呼吸器系の疾患	286,158	522,101	349,648	349,114	296,424	386,073
第11章 消化器系の疾患	291,649	458,169	432,656	360,075	389,055	410,848
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	334,482	625,323	478,104	529,720	375,971	592,040
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	289,827	476,592	393,968	345,363	260,920	439,204
第14章 腎尿路性器系の疾患	445,475	622,956	514,639	550,138	405,069	485,772
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	#DIV/0!	#DIV/0!	91,860	#DIV/0!	208,160	99,560
第16章 周産期に発生した病態	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	800,132	921,368	120,233	814,051	527,539	322,622
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	353,519	586,070	426,947	455,732	330,189	550,035
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	401,133	706,499	900,566	631,011	350,639	536,610

表 8-6 疾病分類別の地区別・年齢階級別受療割合

単位[%]

傷病分類名	上宗岡		中宗岡		下宗岡		本町	
	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	7.5	11.0	6.8	12.1	4.7	14.7	8.6	14.9
第2章 新生物	4.9	11.5	5.6	11.3	5.1	14.1	6.5	13.8
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4.2	8.8	5.0	11.2	6.5	10.9	5.7	9.1
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	17.5	44.0	22.4	46.2	14.9	47.5	22.8	46.3
第5章 精神及び行動の障害	9.1	9.9	10.5	9.6	7.7	9.6	12.8	10.8
第6章 神経系の疾患	14.6	23.5	14.9	26.0	13.5	27.2	18.7	28.1
第7章 眼及び付属器の疾患	16.3	36.4	16.9	35.0	12.8	29.9	18.2	36.7
第8章 耳及び乳様突起の疾患	3.2	6.4	2.8	7.9	1.9	5.6	3.4	7.1
第9章 循環器系の疾患	17.2	46.1	20.2	47.1	15.9	52.9	19.6	47.3
第10章 呼吸器系の疾患	18.3	24.1	19.2	26.1	16.3	25.0	23.1	31.3
第11章 消化器系の疾患	24.3	45.0	23.9	46.5	19.6	46.2	25.6	48.0
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	14.8	18.6	14.4	20.8	12.6	20.5	14.7	23.2
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	18.6	36.4	19.7	38.8	16.3	36.8	19.0	39.0
第14章 腎尿路性器系の疾患	8.3	15.2	9.9	15.4	5.6	15.8	9.6	16.6
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
第16章 周産期に発生した病態	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.1	0.9	0.8	0.8	1.2	2.0	0.8	1.2
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13.7	23.6	12.7	24.5	9.6	25.7	14.6	27.1
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	9.2	12.5	7.5	11.5	4.2	16.3	5.9	12.8

単位[%]

傷病分類名	幸町		館		柏町	
	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳	40-64歳	65-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	8.3	14.2	10.6	14.6	6.3	14.0
第2章 新生物	4.4	13.5	8.8	13.4	4.5	12.8
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.1	8.4	10.2	15.1	5.3	12.9
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	20.0	48.4	21.3	46.1	20.1	45.5
第5章 精神及び行動の障害	12.6	13.3	16.5	12.6	12.3	11.1
第6章 神経系の疾患	15.9	29.0	19.4	27.1	16.7	23.0
第7章 眼及び付属器の疾患	18.0	38.3	21.7	43.1	16.3	32.5
第8章 耳及び乳様突起の疾患	3.6	7.0	5.6	8.4	4.2	6.6
第9章 循環器系の疾患	15.7	48.4	20.2	47.1	17.9	47.9
第10章 呼吸器系の疾患	22.1	33.6	27.3	37.1	20.3	32.0
第11章 消化器系の疾患	22.4	47.2	29.6	49.2	23.1	46.0
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	15.7	21.5	20.0	21.0	13.0	22.5
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	17.2	39.3	20.0	41.7	19.2	35.8
第14章 腎尿路性器系の疾患	8.8	18.7	12.3	16.6	9.3	16.5
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1
第16章 周産期に発生した病態	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0.8	1.5	0.8	1.0	1.2	0.7
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	15.9	30.2	17.5	27.5	15.1	25.2
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	5.9	13.3	6.5	10.4	6.9	11.3



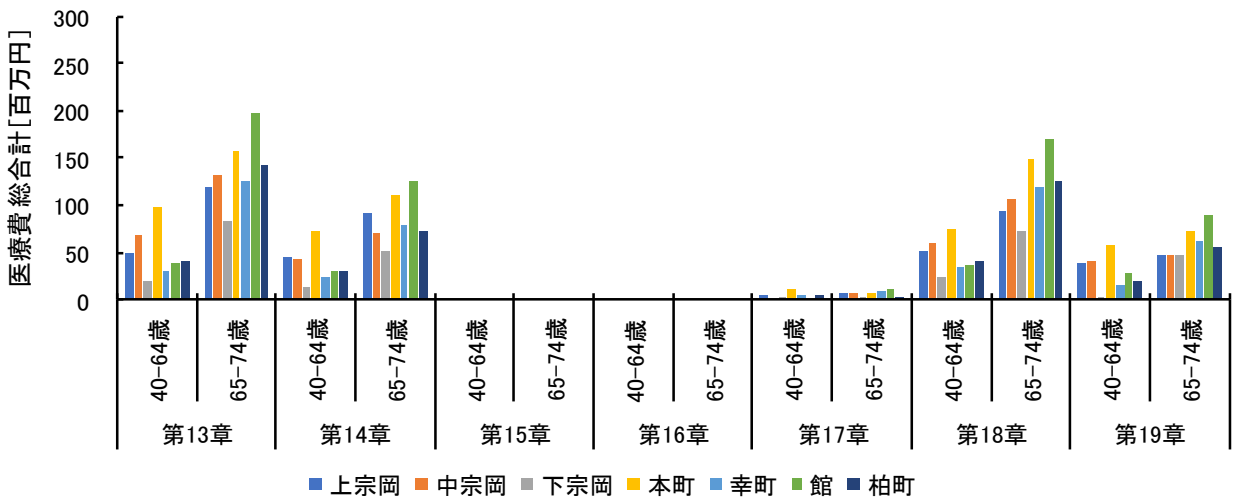
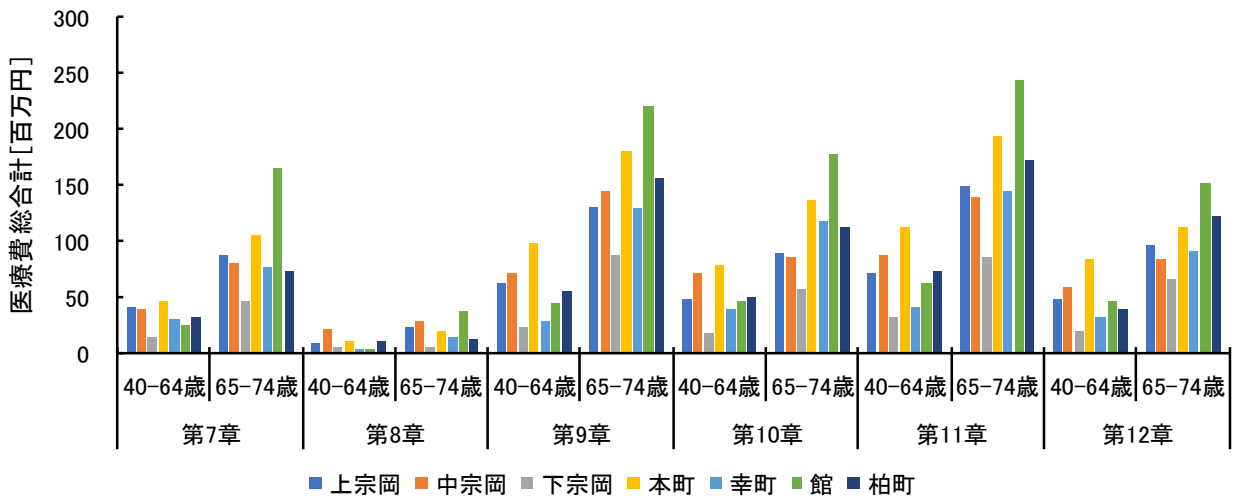
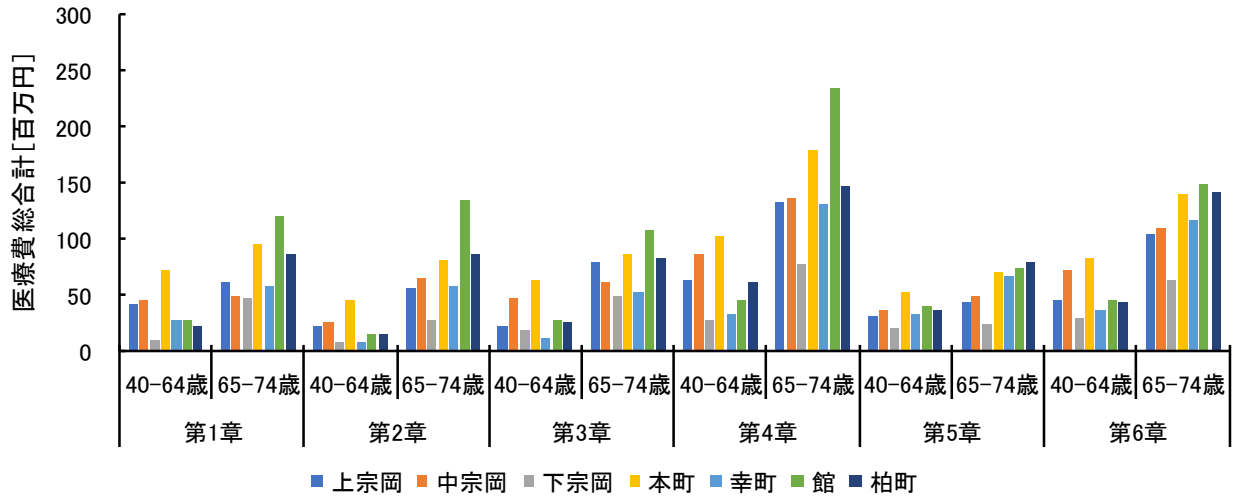


図 8-4 疾病分類別の地区別・年齢群別総医療費合計

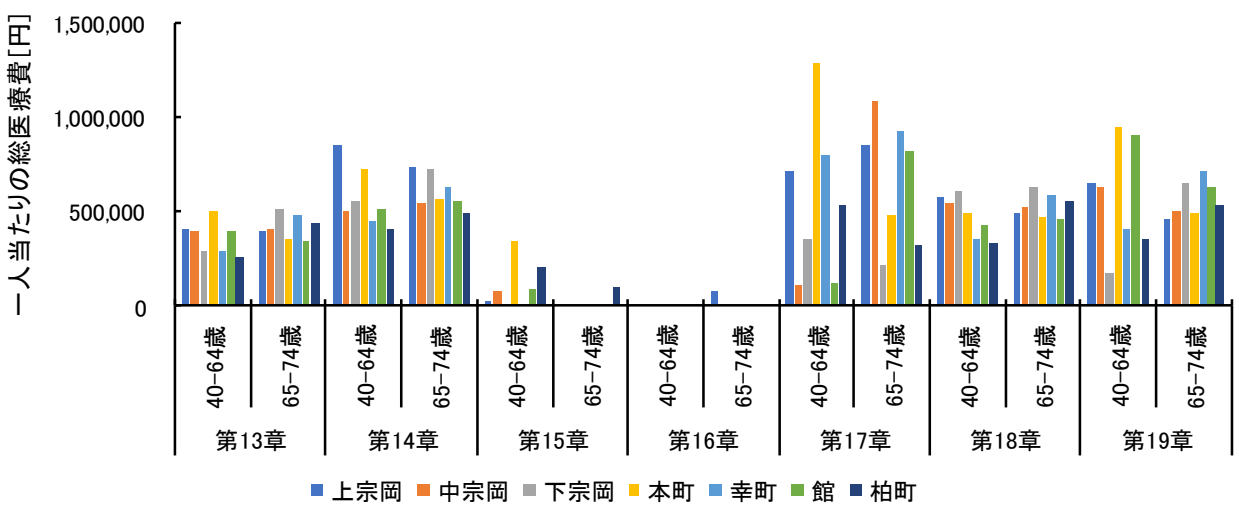
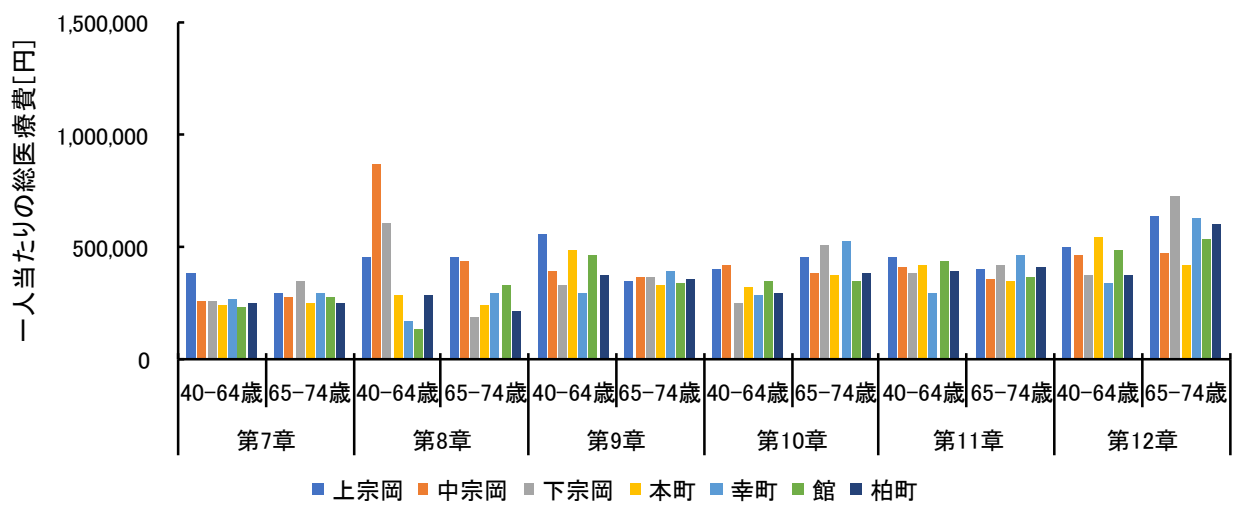
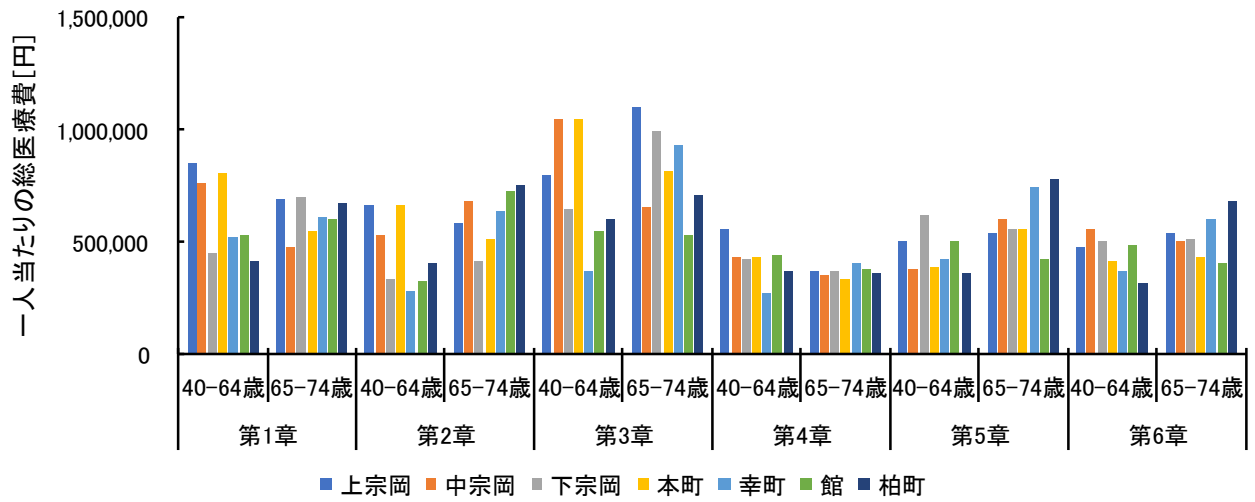


図 8-5 疾病分類別の地区別・年齢群別一人当たりの総医療費

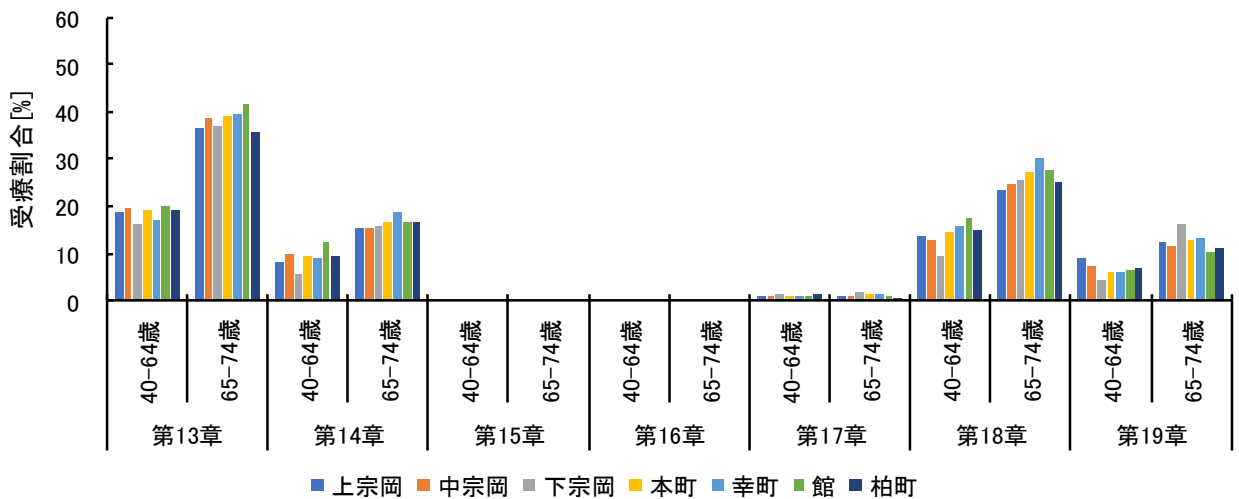
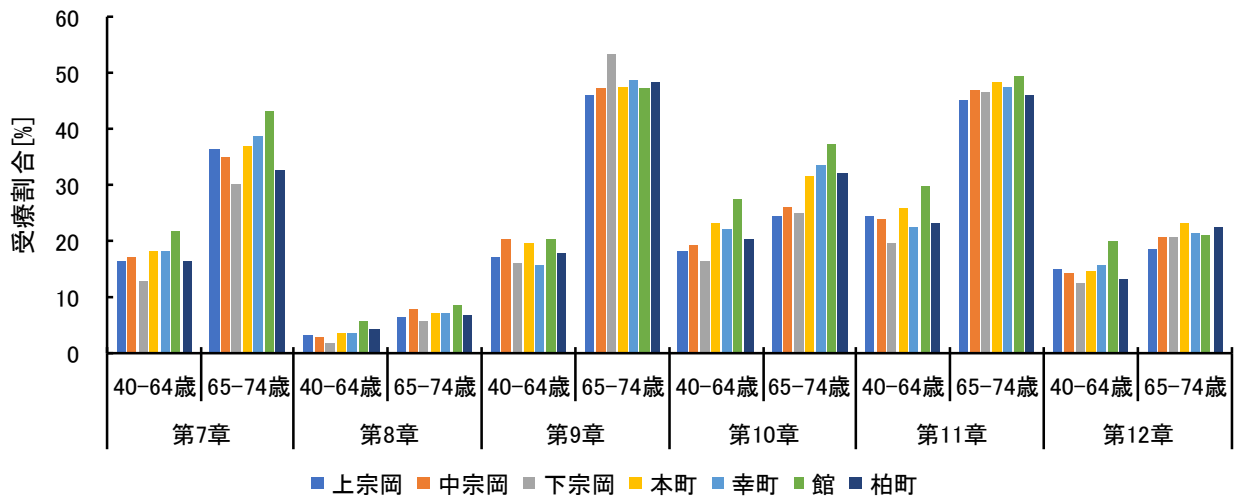
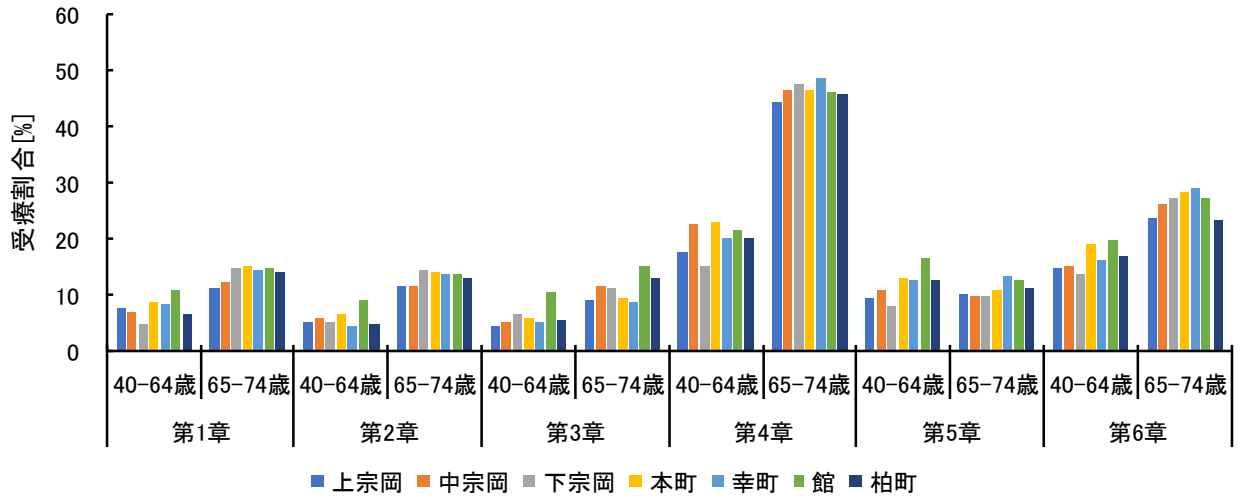


図 8-6 疾病分類別の地区別・年齢群別受療割合

## 第9章 特定健康診査の受診状況

### 1. 特定健診の受診状況

40～74歳の市民を対象に特定健康診査(以下、特定健診)を実施している。令和2年度の受診件数は4,018件であった。

### 2. 令和元年度と令和2年度の保健指導レベルの関係

表9-1に令和2年度の保健指導レベルに対する令和元年度の保健指導レベルへの影響を示した。

令和元年度に積極的支援に該当し、令和2年度に動機付け支援に該当したのは男性で4.9%、女性で4.8%、なしに該当したのは男性で2%、女性で0.4%、令和元年度に動機付け支援に該当し、令和2年度になしに該当したのは男性で6.7%、女性で2.5%であり、改善が確認できた。

令和2年度、令和元年度の両年において積極的支援と判定されたのは男性で63.5%、女性で42.9%、両年において動機づけ支援と判定されたのは男性で60.4%、女性で54.8%であった。両年においてなしと判定されたのは男性で91.2%、女性で97.1%であり、男女ともに90%を超えていることがわかった。

表9-1 令和2年度と令和元年度の保健指導レベル判定の結果

		令和元年度判定			
		積極的支援	動機付け支援	なし	
令和2年度 判定	男性	積極的支援	33(63.5%)	5(9.6%)	14(26.9%)
		動機付け支援	8(4.9%)	99(60.4%)	57(34.8%)
		なし	21(2%)	70(6.7%)	948(91.2%)
	女性	積極的支援	6(42.9%)	6(42.9%)	2(14.3%)
		動機付け支援	5(4.8%)	57(54.8%)	42(40.4%)
		なし	6(0.4%)	42(2.5%)	1624(97.1%)

### 3. メタボリックシンドローム(以下、メタボ)の状況

表 9-2 に令和 2 年度のメタボ判定に対する令和元年度のメタボ判定への影響を示した。令和元年度に非該当、令和 2 年度に該当しメタボと判定されたのは男性で 30.1%、女性で 9.1%であった。令和元年度は該当、令和 2 年度に非該当であったのは男性で 26.4%、女性で 17.6%であった。

令和元年度、令和 2 年度の両年においてメタボ群と判定されたのは男性で 69.9%、女性で 90.9%、両年においてメタボ非該当の男性は 73.6%、女性は 82.4%であった。

表 9-2 令和 2 年度と令和元年度のメタボ判定の結果

			令和元年度判定	
			該当	非該当
令和2年度 判定	男性	該当	423(69.9%)	182(30.1%)
		非該当	79(26.4%)	220(73.6%)
	女性	該当	1163(90.9%)	116(9.1%)
		非該当	32(17.6%)	150(82.4%)

#### 3.1. メタボとHbA1cの関係

令和 2 年度メタボ判定とHbA1c判定の関係を表 9-3 に全体、表 9-4 に性別に示した。メタボ該当群はメタボ非該当群と比べ糖尿病が否定できない、糖尿病型の割合が高く、非該当群では 17.6%、該当群では 38%まで上昇することがわかった。性別でも、男女ともに糖尿病割合は 30%を超える結果となった。非メタボ群であっても男性は 10.5%、女性は 6.2%が糖尿病型であることがわかり、メタボ群と非メタボ群のアプローチをそれぞれ検討し、改善方法を実施することが求められる。

表 9-3 令和 2 年度のメタボ判定とHbA1cの関係

		令和2年度HbA1c判定			
		正常	要注意	糖尿病が否定できない	糖尿病型
令和2年度 メタボ判定	非該当	1506(47.6%)	1100(34.8%)	319(10.1%)	237(7.5%)
	該当	236(28.2%)	283(33.8%)	162(19.3%)	157(18.7%)

表 9-4 性別の令和 2 年度のメタボ判定とHbA1cの関係

			令和2年度HbA1c判定			
			正常	要注意	糖尿病が否定できない	糖尿病型
令和2年度 メタボ判定	男性	非該当	390(45.3%)	282(32.8%)	98(11.4%)	90(10.5%)
		該当	128(32.7%)	118(30.1%)	69(17.6%)	77(19.6%)
	女性	非該当	710(45.7%)	588(37.9%)	158(10.2%)	96(6.2%)
		該当	53(23.2%)	88(38.6%)	49(21.5%)	38(16.7%)

#### 4. 測定項目の状況

##### 4.1. 身長状況

図 9-1 に身長の度数分布を性別に示した。男性は 170～174cm にピーク、女性は 155～159cm、160～164cm にピークがある分布であった。図 9-2 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの身長の変化を性別に示した。身長低下には加齢に伴う変化に加え、骨粗鬆症の影響が挙げられる。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果、男女ともに約 40% の対象者は 0～0.4cm の低下があることがわかった。1cm 以上低下した割合は男性は 9.8%、女性は 8.8% であった。

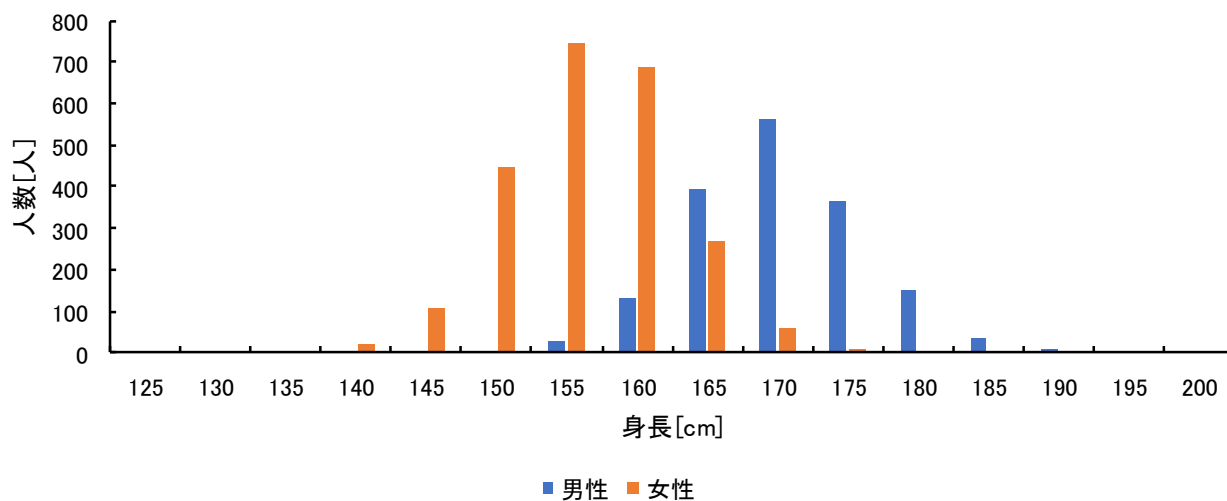


図 9-1 身長の度数分布

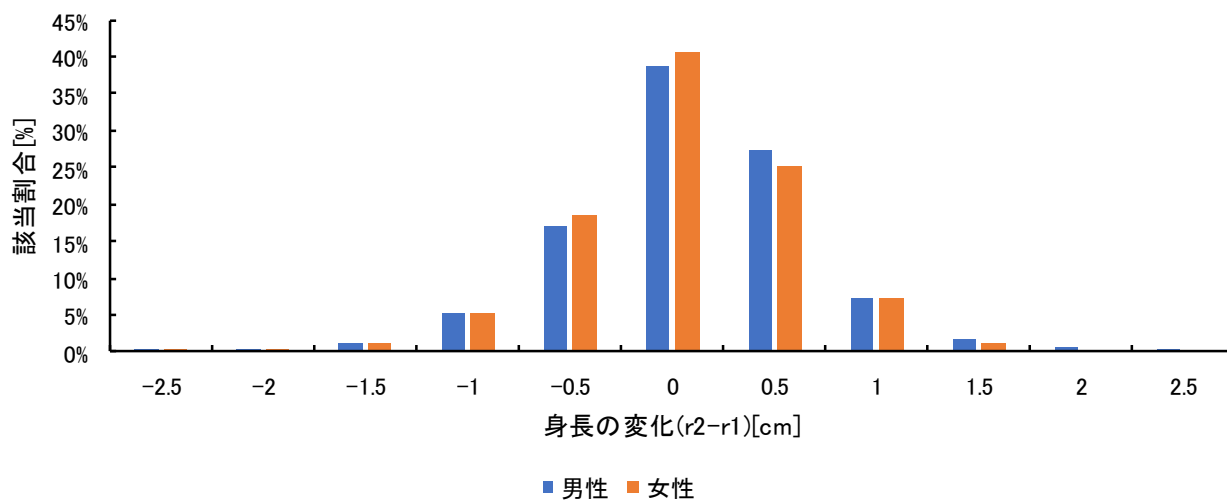


図 9-2 身長の変化

#### 4.2. 体重の状況

図 9-3 に体重の度数分布を性別に示した。男性は 65～69kg, 70～74kg にピーク, 女性は 50～54kg, 55～59kg にピークがある分布であった。図 9-4 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの体重の変化を性別に示した。体重の減少にはフレイルやサルコペニアの指標も含まれる。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果, 0～0.9kg, 1～1.9kg の減少がみられたのは男性で 39%, 女性で 52%, 0.1～0.9kg, 1～1.9kg の増加は男性で 21%, 女性で 19% であった。体重の変化が±2kg の範囲に男性は 60%, 女性は 70%, ±1kg の範囲に男性は 31%, 女性は 38% が該当していることがわかった。

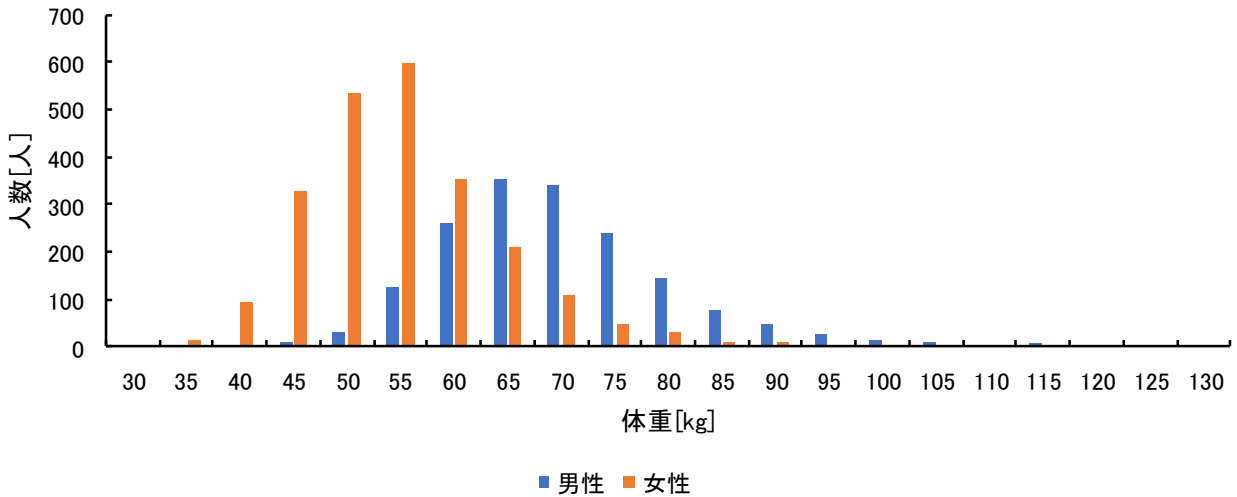


図 9-3 体重の度数分布

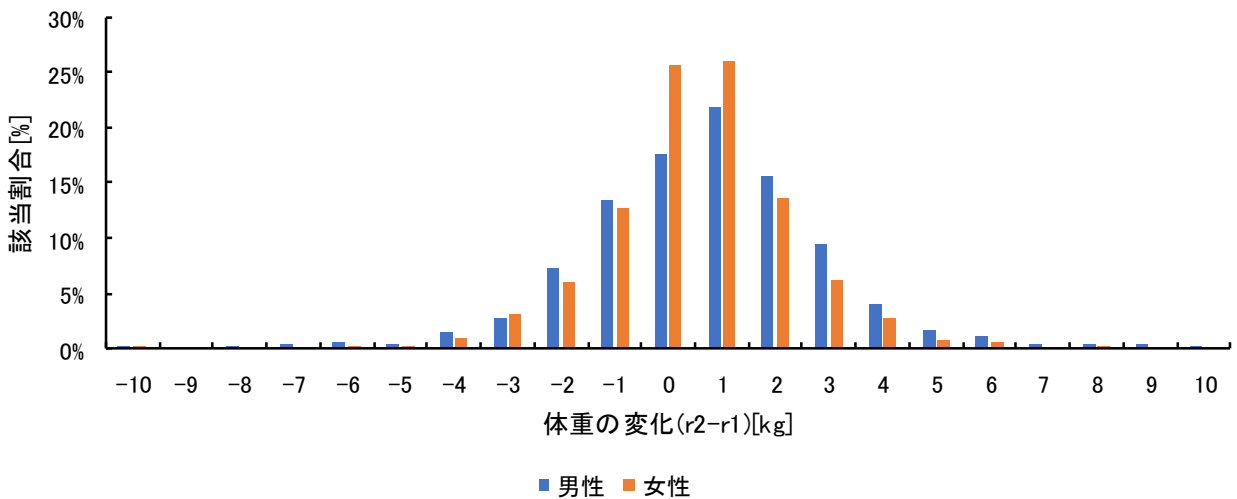


図 9-4 体重の変化

### 4.3. BMI の状況

BMI の判定はやせ型(18.5 未満), 普通(18.5-24.9), 肥満(25 以上)と定義した。

図 9-5 に BMI の度数分布を性別に示した。男性は 24~25 にピーク, 女性は 20~21kg, 22~23kg にピークがある分布であった。BMI は体重と同じくフレイルやサルコペニアの指標であり, 高齢期は BMI が 20 以上がよいと考える。図 9-6 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの BMI の変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果, 1 以上の減少がみられたのは男性は 30%, 女性は 27%, 2 以上の減少は男女ともに 4%であった。1 以上の増加がみられたのは男女ともに 7%であった。

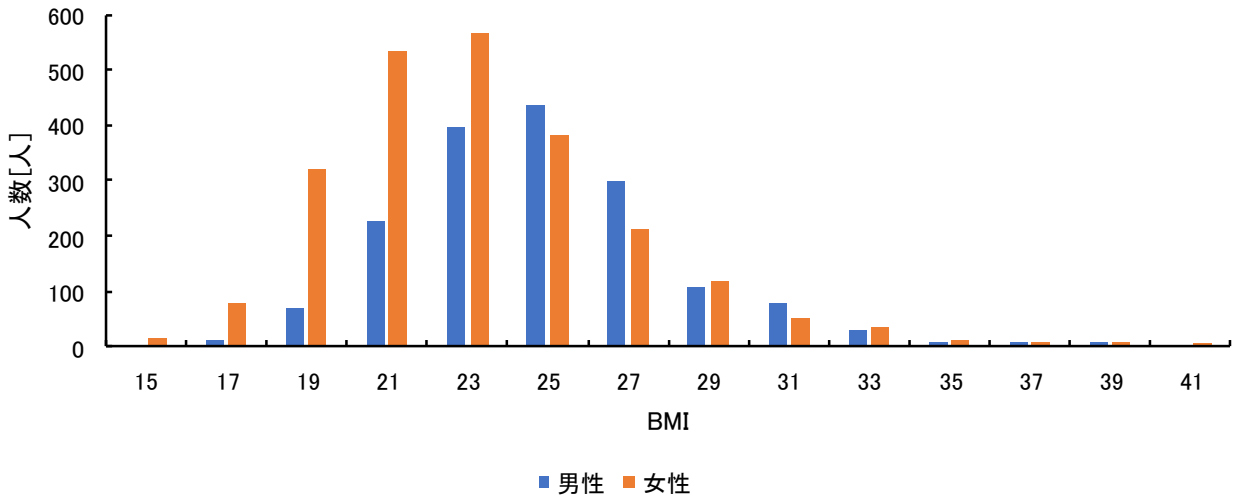


図 9-5 BMI の度数分布

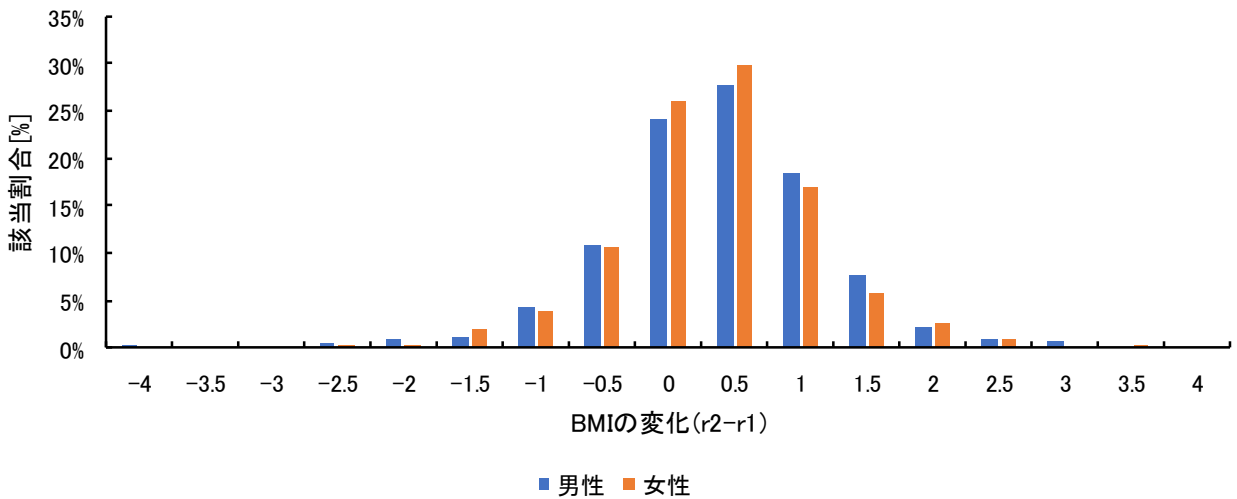


図 9-6 BMI の変化



令和2年度 BMI 判定と HbA1c 判定の関係を図 9-7 に全体, 男性を図 9-8, 女性を図 9-9 に示した。やせ型 (BMI18.5 未満) で糖尿病型と判定されたのは全体で 3.0%, 男性で 7.1%, 女性で 2.2%であり, BMI の増加に伴い糖尿病型の割合は増加していた。BMI25 以上の肥満群では, HbA1c が 6.0%以上の糖尿病が否定できない群まで含めると全体で 36.9%, 男性で 37.5%, 女性で 36.1%であり, 男女ともに肥満型に糖尿病の割合が多い傾向にあることがわかった。

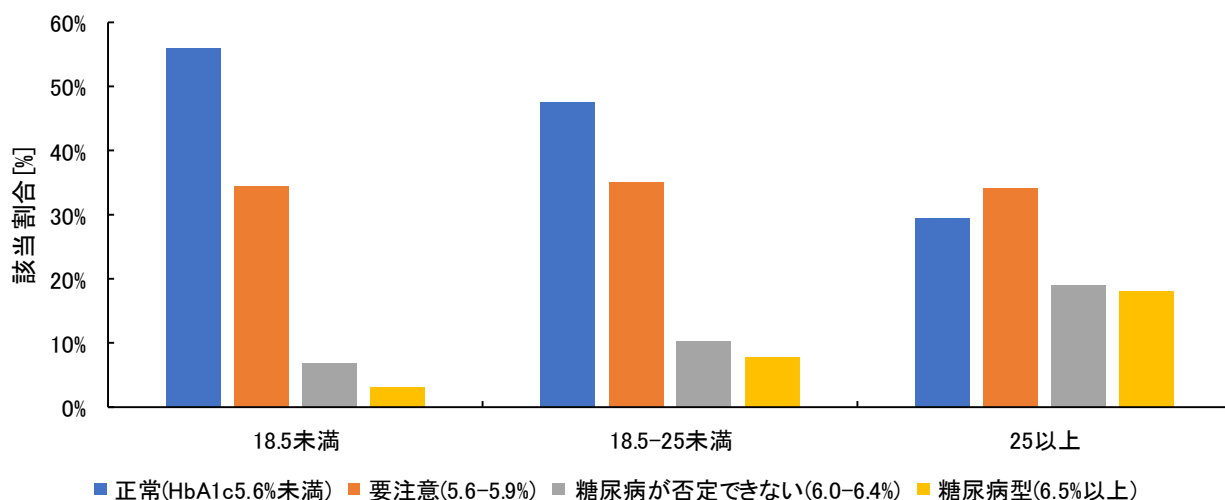


図 9-7 令和2年度の BMI 判定と HbA1c の関係

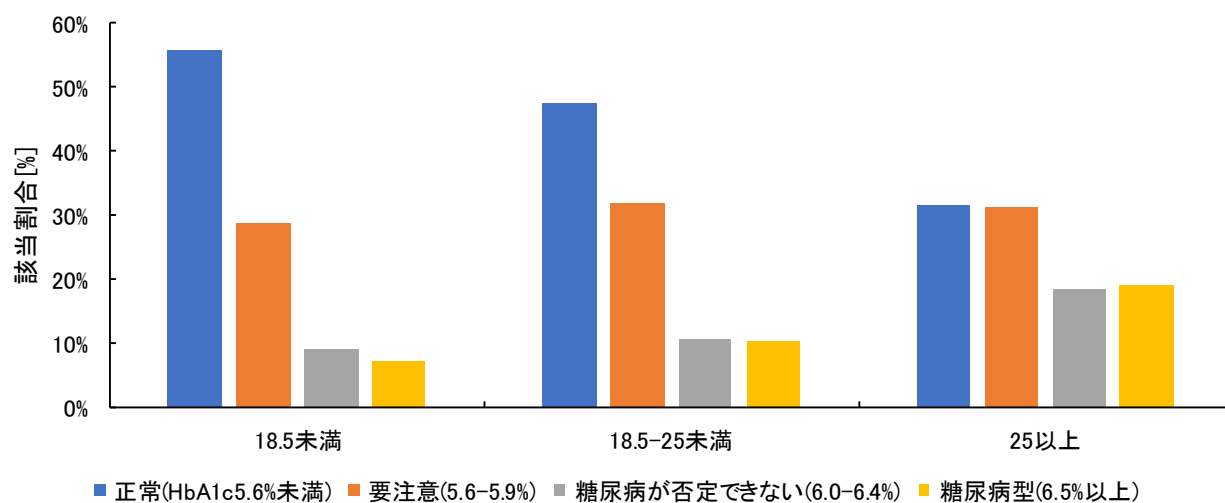


図 9-8 男性の令和2年度の BMI 判定と HbA1c の関係

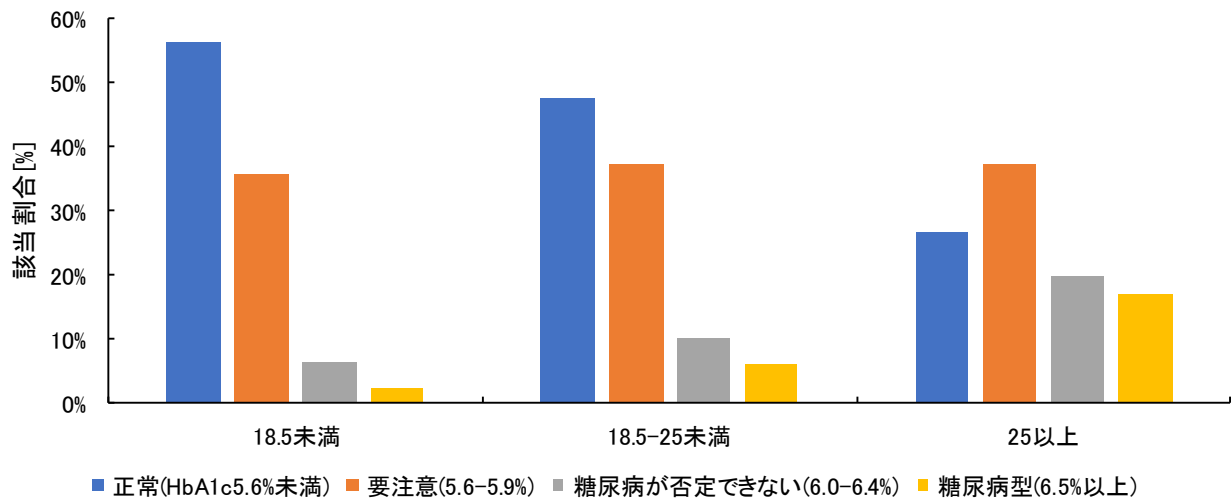


図 9-9 女性の令和 2 年度の BMI 判定と HbA1c の関係

#### 4.4. 血圧の状況

血圧の判定は正常群(収縮期血圧<130mmHgかつ拡張期血圧<85), 正常高値群(収縮期血圧<140mmHgまたは拡張期血圧<100mmHg), I度群(収縮期血圧<160mmHgまたは拡張期血圧<100mmHg), II度群(収縮期血圧<180mmHgまたは拡張期血圧<110mmHg), III度群(収縮期血圧 $\geq$ 180mmHgまたは拡張期血圧 $\geq$ 110mmHg)と定義した。

図 9-10 に収縮血圧の度数分布を性別に示した。男女ともに 130~139mmHg, 140~149mmHg にピークがある分布であった。図 9-11 に拡張期血圧の度数分布を性別に示した。男女ともに 80~89mmHg にピークがある分布であった。心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患のリスクを高める収縮期血圧が 180mmHg 以上に該当したのは男性は 45 名, 女性は 38 名, 拡張期血圧が 110mmHg 以上に該当したのは男性は 45 名, 女性は 49 名であった。

図 9-12 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの収縮期血圧の変化, 図 9-13 に拡張期血圧の変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果, 収縮期血圧が 10mmHg 以上低下したのは男性は 50%, 女性は 53%であった。

図 9-14 に男性, 図 9-15 に女性の令和 2 年度を基準に令和元年度からの収縮期血圧の変化を散布図に示した。縦の破線は血圧判定のIII度群の収縮期血圧 180mmHg, 拡張期血圧 110mmHg のラインに引いている。男女ともに令和 2 年度に収縮期血圧が 180mmHg 以上の該当者全員が令和元年度から収縮期血圧が増加していた。

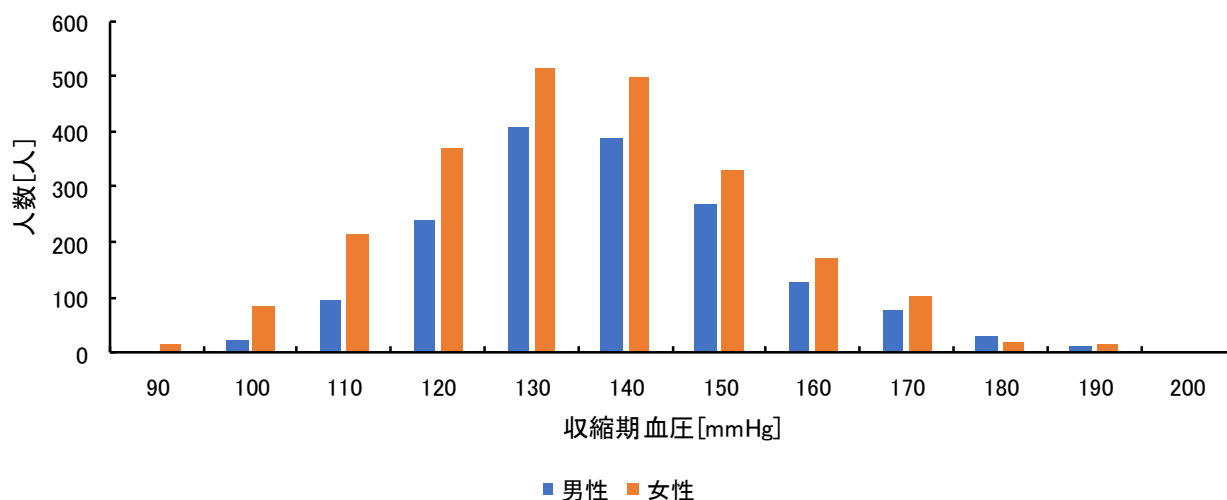


図 9-10 収縮期血圧の度数分布

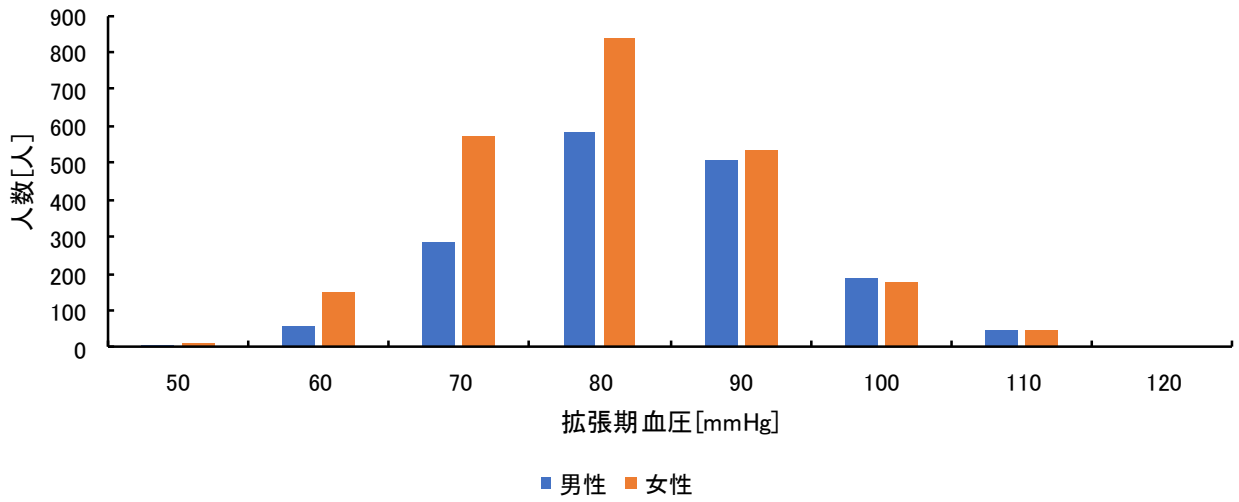


図 9-11 拡張期血圧の度数分布

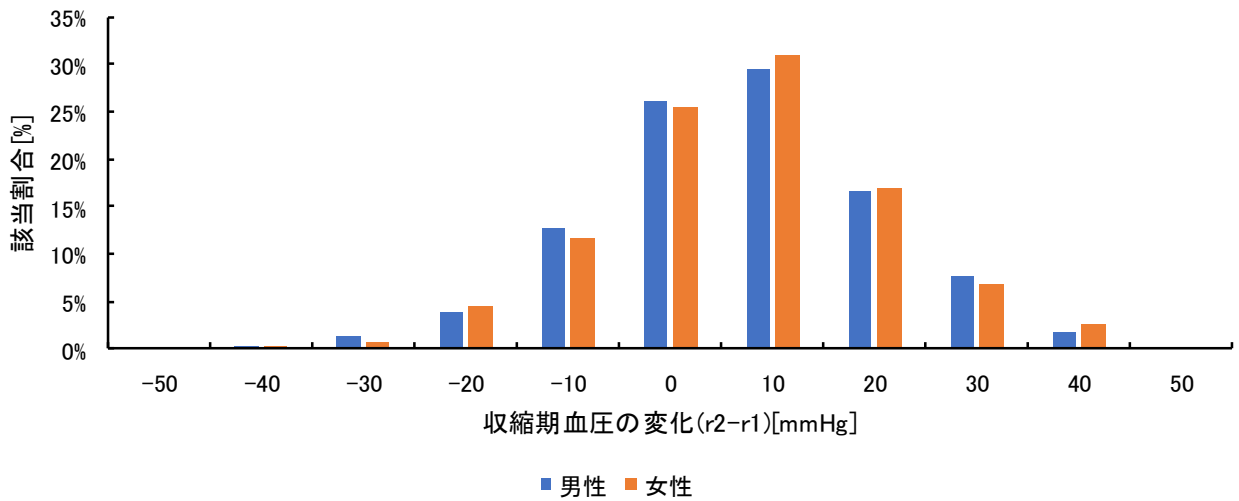


図 9-12 収縮期血圧の変化

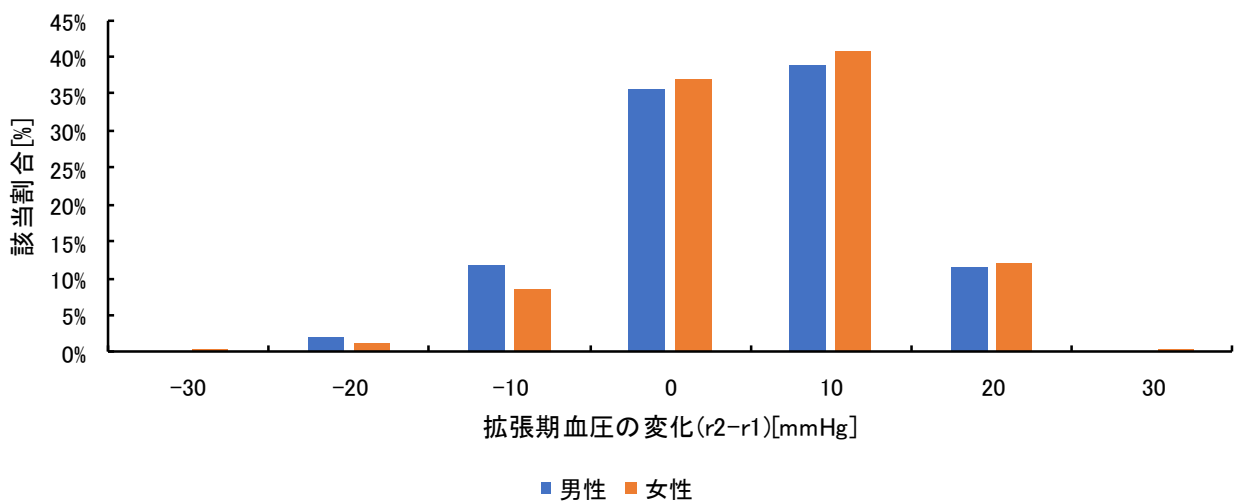


図 9-13 拡張期血圧の変化

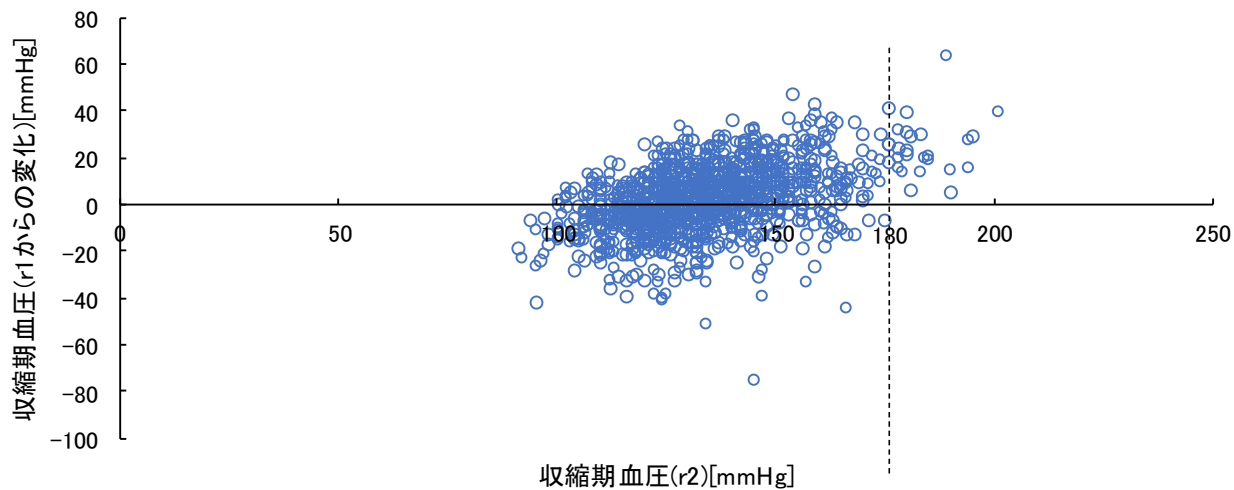


図 9-14 男性の収縮期血圧の変化

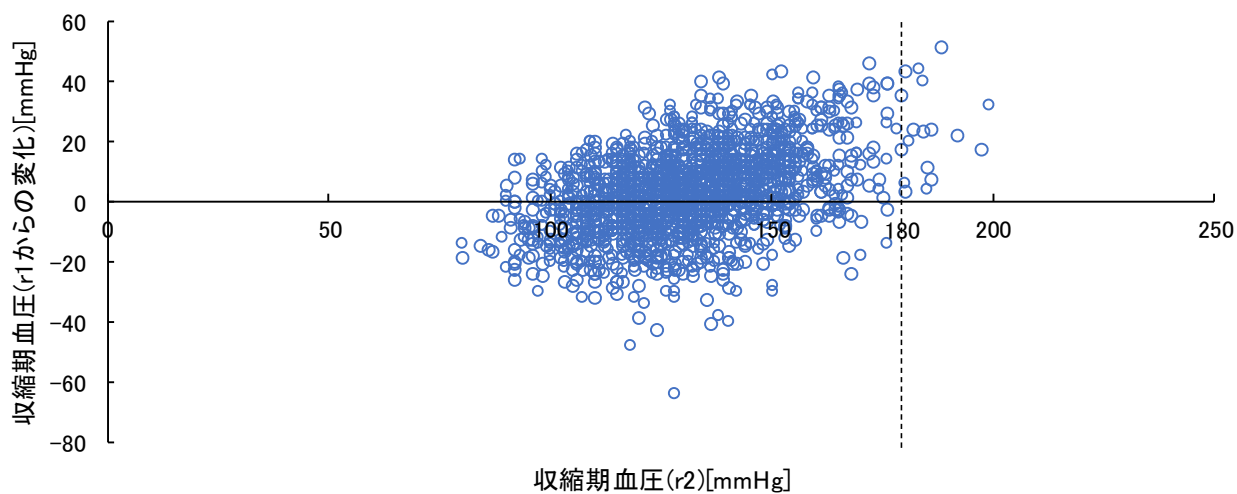


図 9-15 女性の収縮期血圧の変化

図 9-16 に令和 2 年度の血圧判定結果の割合を性別に示した。正常群は男性で 37.5%，女性で 45.7%，正常高値群は男性で 59.0%，女性で 51.4%であった。血圧判定がⅠ～Ⅲ度群は男女ともに 4%以下であった。

図 9-17 に男性，図 9-18 に女性の令和 2 年度の血圧判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに 50-59 歳から正常高値群の割合が増加していた。そして，男性では割合に変化はなく維持傾向であったが，女性は年齢とともに正常群の割合が減少し，正常高値群の割合の増加が確認できた。70-74 歳群では 61.5%が正常高値群に該当していた。Ⅰ～Ⅲ度は男性で 2.2～4.8%，女性で 1.6～3.4%であった。

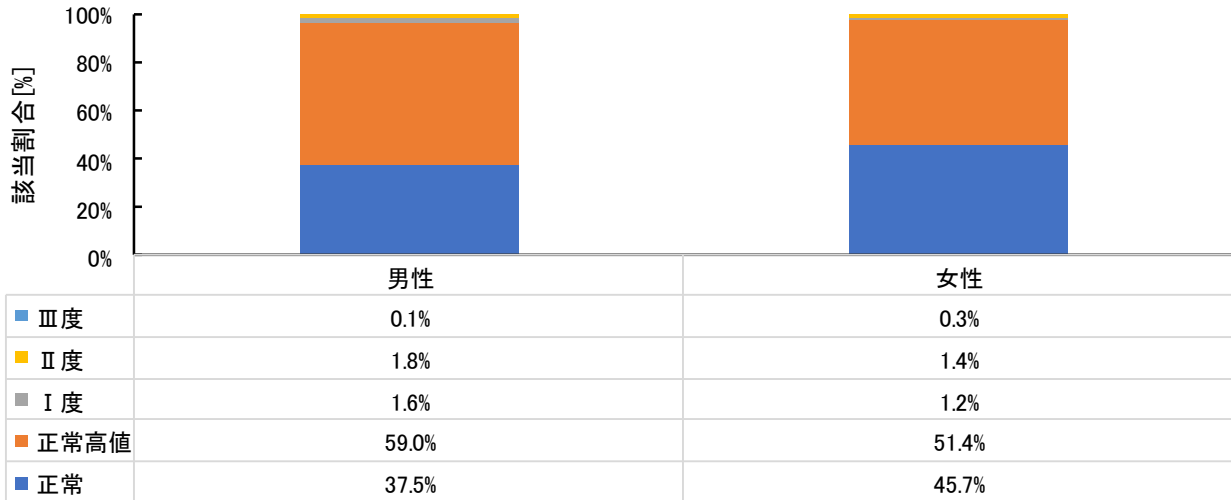


図 9-16 血圧判定の結果

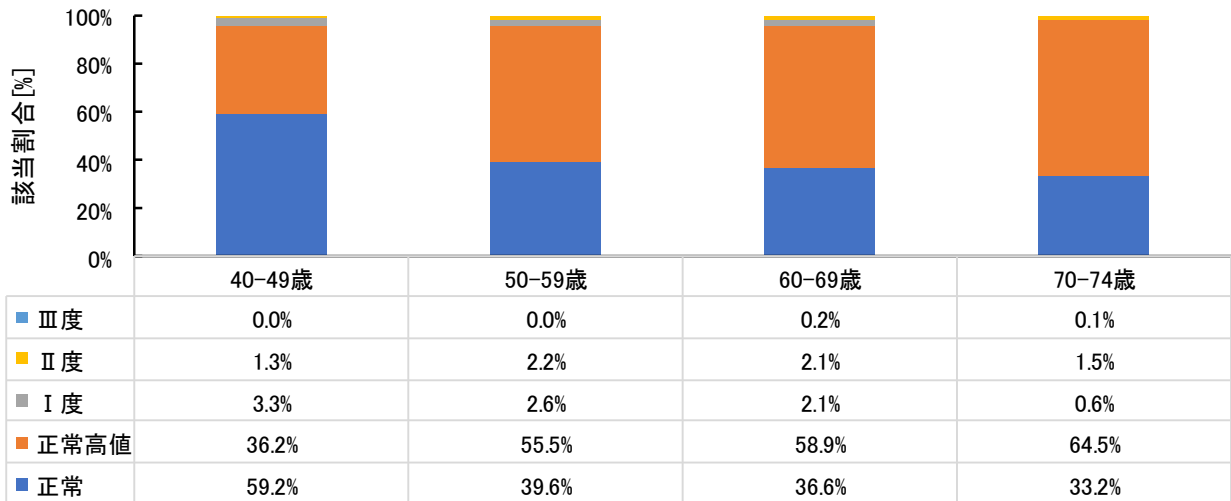


図 9-17 男性の年齢階級別の血圧判定の結果

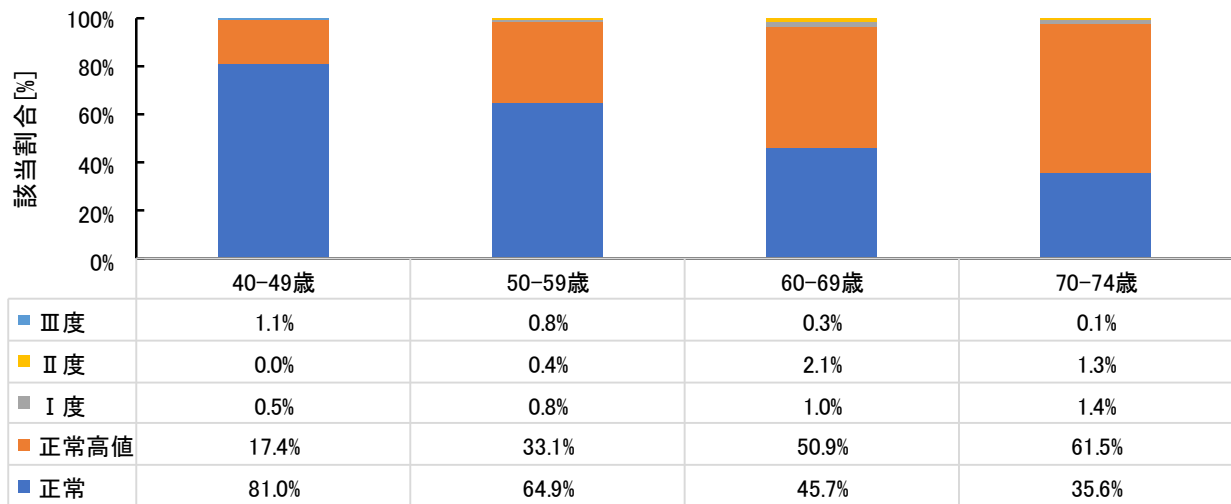


図 9-18 女性の年齢階級別の血圧判定の結果

#### 4.5. 腹囲の状況

図 9-19 に腹囲の度数分布を性別に示した。男性は 85～89cm, 90～94cm にピーク, 女性は 80～84cm, 85～89cm にピークがある分布であった。メタボリックシンドロームの基準値である男性 85cm, 女性 90cm 以上の人数は男性は 1310 人(79%), 女性は 719 人(31%)であった。

図 9-20 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの腹囲の変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果, 腹囲が 6cm 以上増加したのは男性は 2%, 女性は 4%であった。

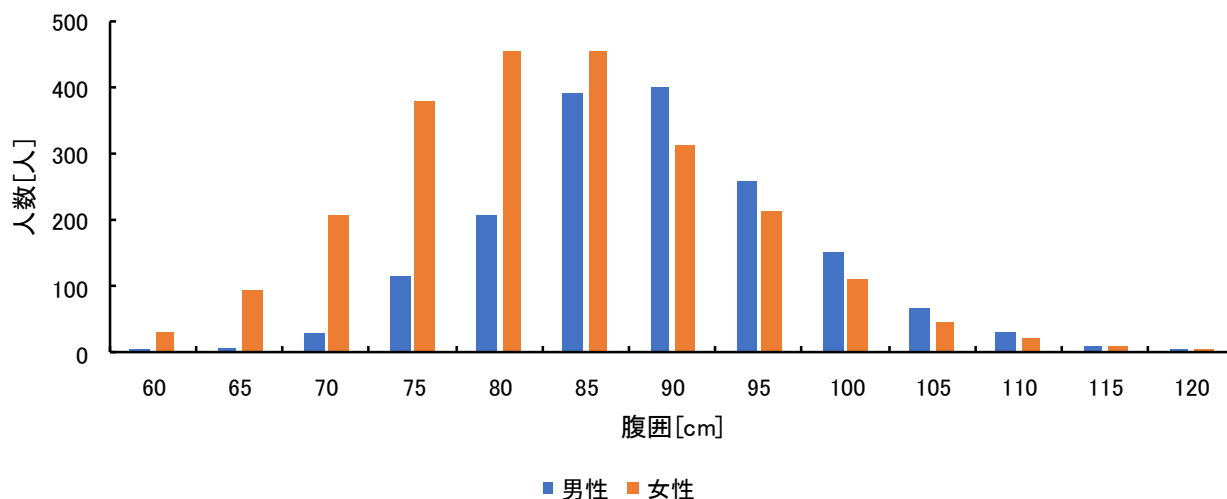


図 9-19 腹囲の度数分布

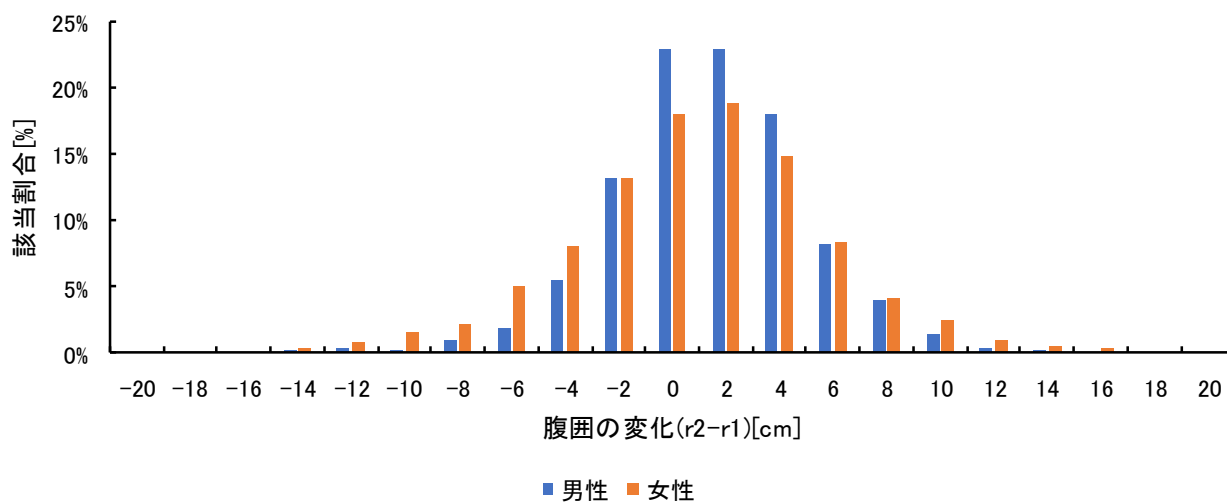


図 9-20 腹囲の変化



#### 4.6. HbA1c の状況

HbA1c の判定は正常群(5.6%未満), 要注意群(5.6-5.9%), 糖尿病が否定できない群(6.0-6.4%), 糖尿病型群(6.5%以上)と定義した。

図 9-21 に HbA1c の度数分布を性別に示した。男女ともに 5.5~5.4%, 6.0~6.4%にピークがある分布であり, 4.5~12%までの幅広い分布であった。糖尿病の基準値である 6.5%以上の人数は男性は 369 人(22%), 女性は 347 人(15%)であった。そして, 合併症のリスクが高まる 8.0%以上の人数は男性は 31 人(2%), 女性は 20 人(1%)であった。

表 9-5 に令和 2 年度と令和元年度の HbA1c 判定のクロス表を示した。令和 2 年度, 令和元年度の両年において正常群と判定されたのは男性で 84%, 女性で 82.1%であった。令和元年度に糖尿病型群に該当し, 令和 2 年度に糖尿病が否定できない群に該当したのは男性で 15.6%, 女性で 5.3%, 令和元年度に糖尿病が否定できない群に該当し, 令和 2 年度に要注意群に該当したのは男性で 9%, 女性で 8%であり, 改善傾向が確認できた。

図 9-22 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの HbA1c の変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果, HbA1c が 0.2%以上減少したのは男性は 46%, 女性は 41%, 0.2%以上増加したのは男性は 16%, 女性は 15%であった。

図 9-23 に男性, 図 9-24 に女性の令和 2 年度を基準に令和元年度からの HbA1c の変化を散布図に示した。縦の破線は HbA1c 判定の異常群の HbA1c6.5%のラインに引いている。男女ともに令和 2 年度に HbA1c が 10%以上の該当者全員が令和元年度から HbA1c が増加していた。また, 6.5~9.9%の該当者も令和元年度から増加傾向であった。正常群(5.6%未満), 要注意群(5.6-5.9%), 糖尿病が否定できない群(6.0-6.4%)は維持傾向であった。

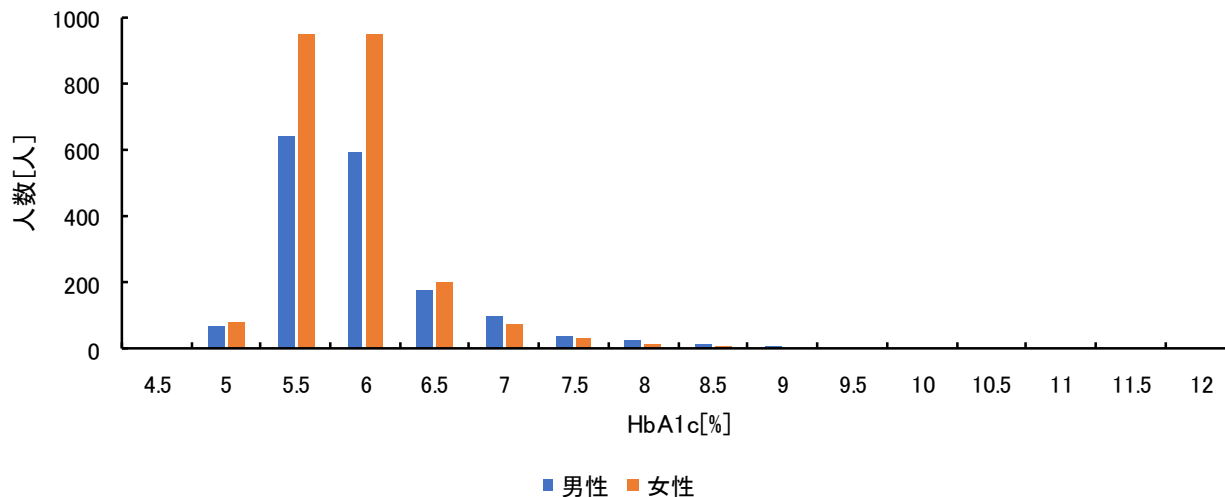


図 9-21 HbA1c の度数分布

表 9-5 性別の令和2年度と令和元年度のHbA1c判定の結果

		令和元年度判定				
		正常	要注意	糖尿病が否定できない	糖尿病型	
令和2年度判定	男性	正常	435(84%)	81(15.6%)	1(0.2%)	1(0.2%)
		要注意	83(20.8%)	277(69.4%)	36(9%)	3(0.8%)
		糖尿病が否定できない	6(3.6%)	46(27.5%)	89(53.3%)	26(15.6%)
		糖尿病型	2(1.2%)	5(3%)	46(27.5%)	114(68.3%)
	女性	正常	625(82.1%)	132(17.3%)	3(0.4%)	1(0.1%)
		要注意	161(23.9%)	459(68%)	54(8%)	1(0.1%)
		糖尿病が否定できない	2(1%)	61(29.5%)	133(64.3%)	11(5.3%)
		糖尿病型	0(0%)	4(3%)	31(23.1%)	99(73.9%)

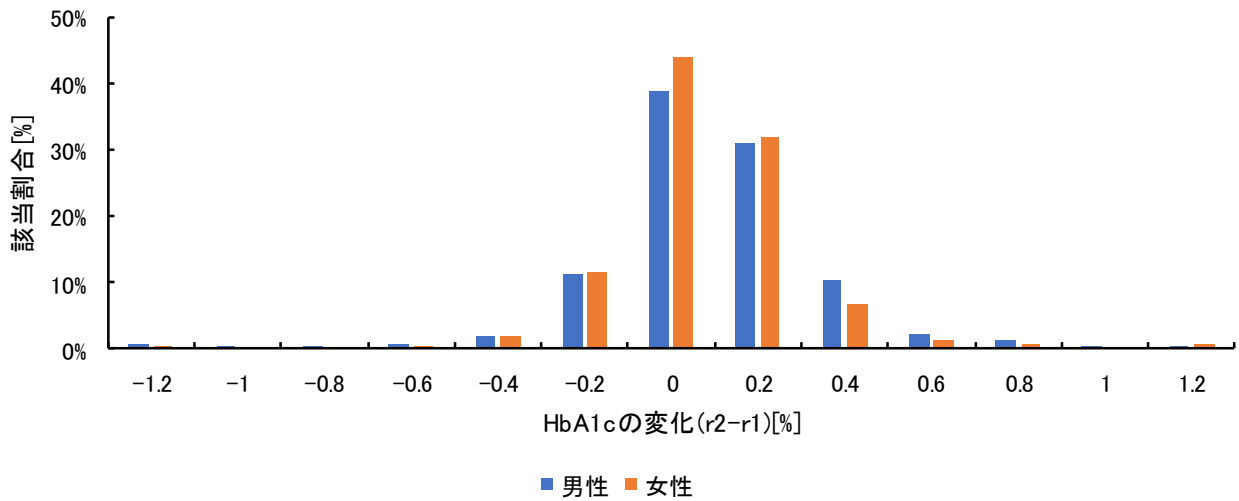


図 9-22 HbA1c の変化

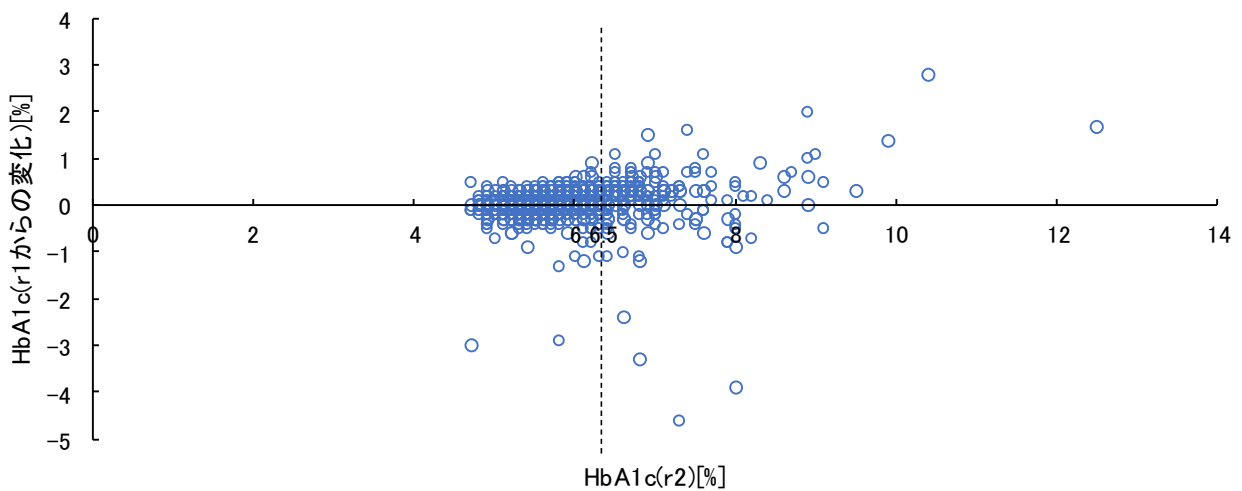


図 9-23 男性のHbA1cの変化

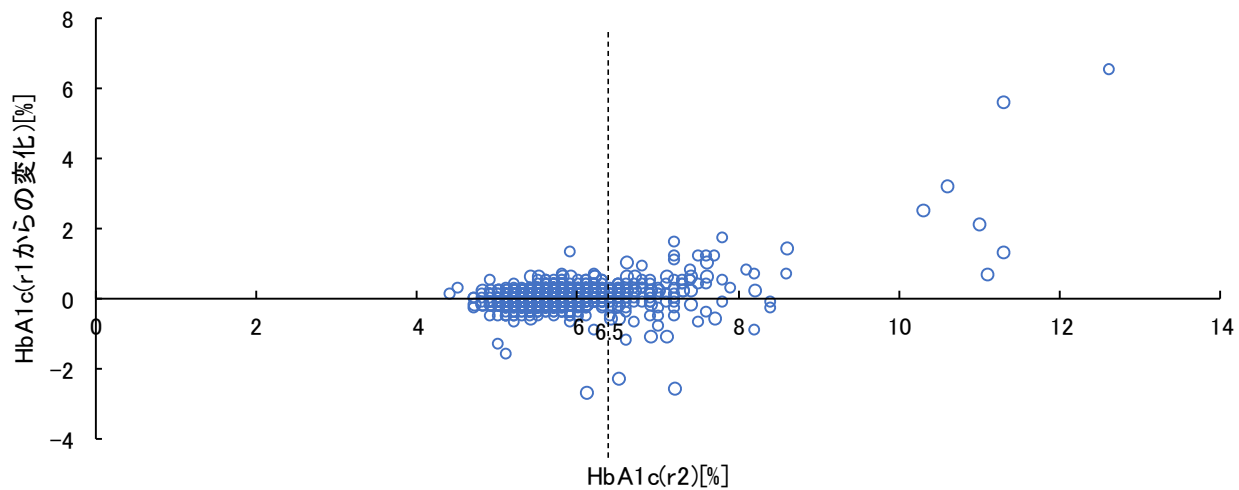


図 9-24 女性の HbA1c の変化

図 9-25 に令和 2 年度の HbA1c 判定結果の割合を性別に示した。男性の正常群は 42.4%，要注意群は 31.5%，糖尿病が否定できない群は 13.0%，糖尿病型群は 13.0%であった。女性の正常群は 44.3%，要注意群は 36.8%，糖尿病が否定できない群は 11.3%，糖尿病型群は 7.6%であった。

図 9-26 に男性、図 9-27 に女性の令和 2 年度の HbA1c 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに正常群の割合は年齢とともに減少し，糖尿病型群，糖尿病が否定できない群，要注意群の割合が増加していた。60-69 歳，70-74 歳では男性は約 30%，女性は約 20%が糖尿病が否定できない，糖尿病型に該当していることがわかった。

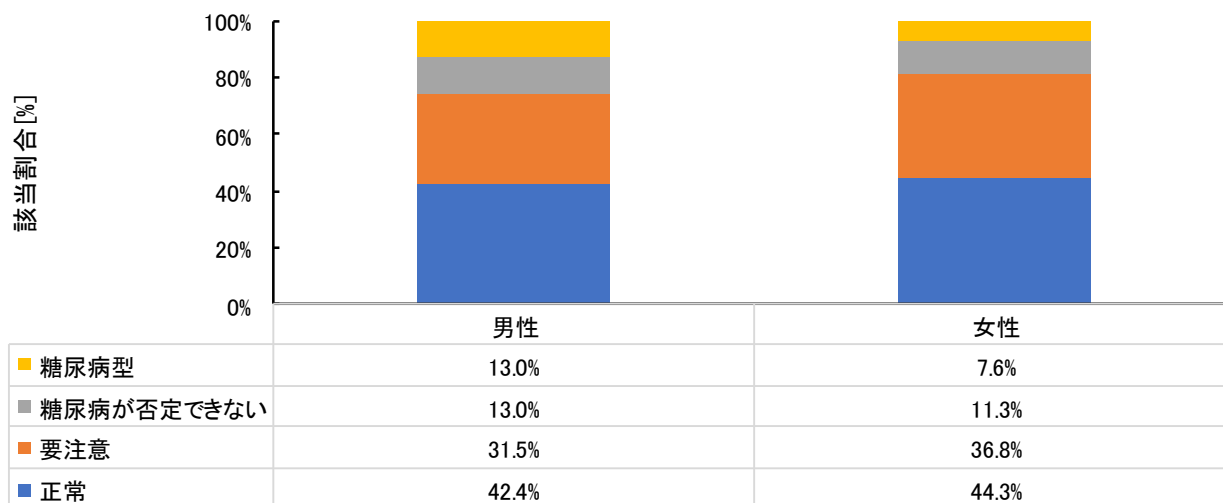


図 9-25 HbA1c 判定の結果

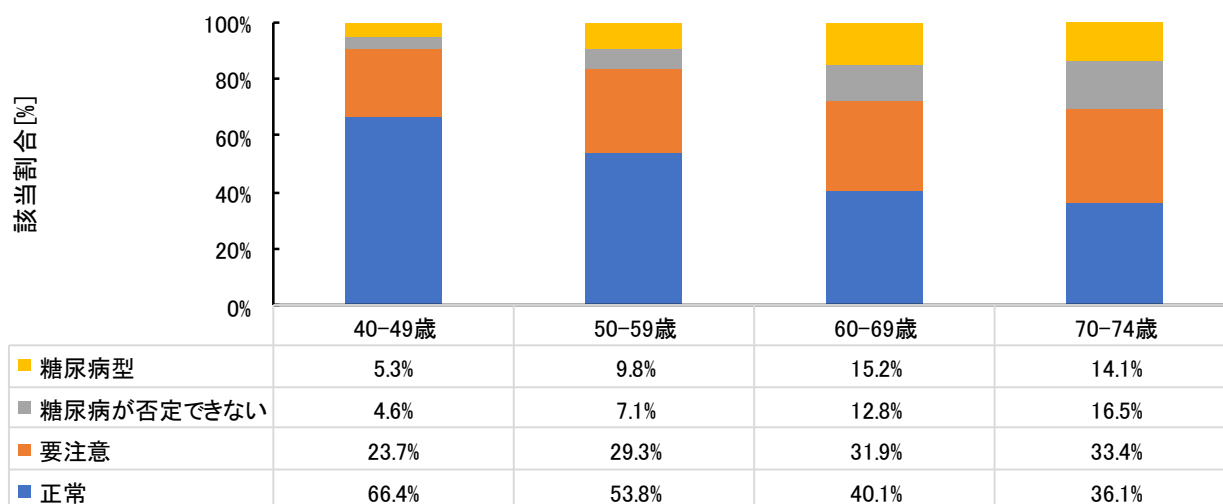


図 9-26 男性の年齢階級別の HbA1c 判定の結果

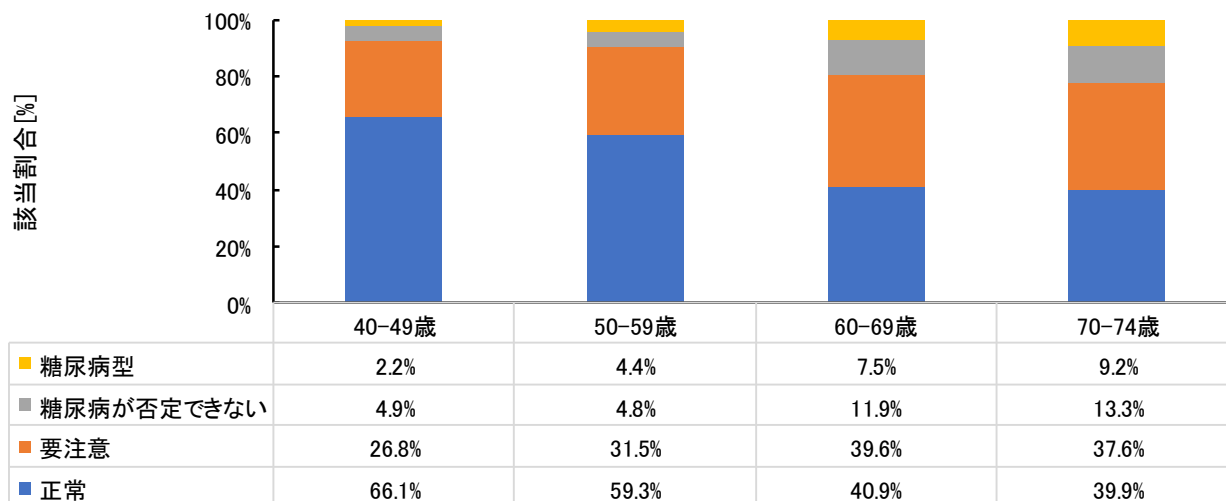


図 9-27 女性の年齢階級別の HbA1c 判定の結果

#### 4.7. 中性脂肪(TG:トリグリセリド)の状況

TGの判定は低中性脂肪血症群(29mg/dl以下), 正常群(30-149mg/dl), 軽度高中性脂肪血症群(150-299mg/dl), 中等度高中性脂肪血症群(300-749mg/dl), 高度高中性脂肪血症群(750mg/dl以上)と定義した。

図9-28にTGの度数分布を性別に示した。男性は150~209mg/dlにピーク, 女性は90~149mg/dlにピークがある分布であり, 30~750mg/dlまでの幅広い分布であった。150mg/dl以上の人数は男性は57人(5%), 女性は38人(2%)であった。

図9-29に令和2年度を基準に令和元年度からのTGの変化を性別に示した。令和元年度と令和2年度を比較した結果, 0~49mg/dl, 50~99mg/dl増加した割合が男性は73%, 女性は84%であった。100mg/dl以上増加したのは男性は13%, 女性は8%であった。100mg/dl以上減少したのは男性は5%, 女性は2%であった。

図9-30に男性, 図9-31に女性の令和2年度を基準に令和元年度からのTGの変化を散布図に示した。縦の破線はTG判定の中等度高中性脂肪血症群のTG300mg/dlのラインに引いている。男女ともに令和2年度にTGが300mg/dl以上の該当者は令和元年度からTGが増加傾向にあった。

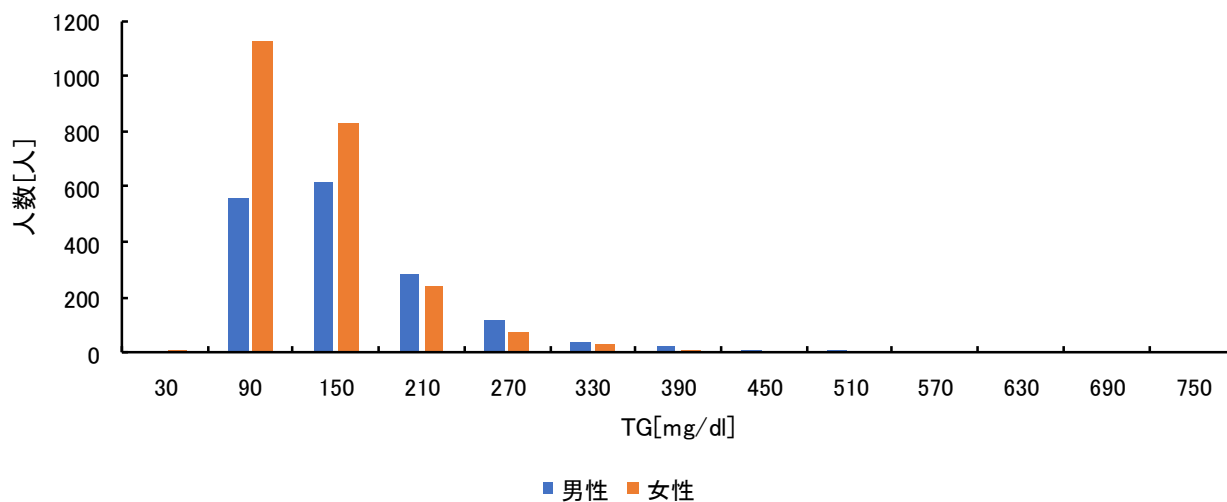


図9-28 TGの度数分布

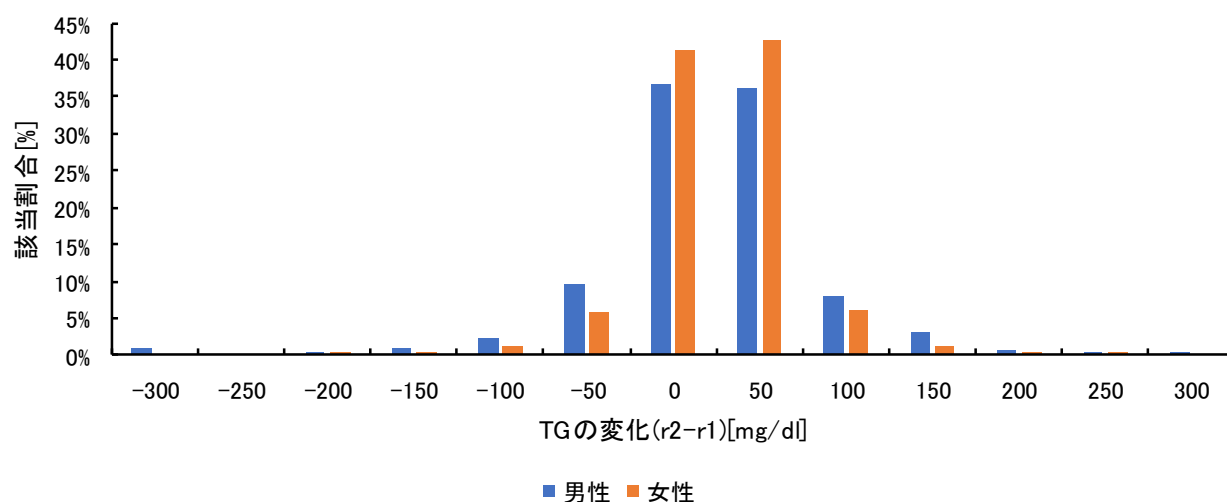


図9-29 TGの変化

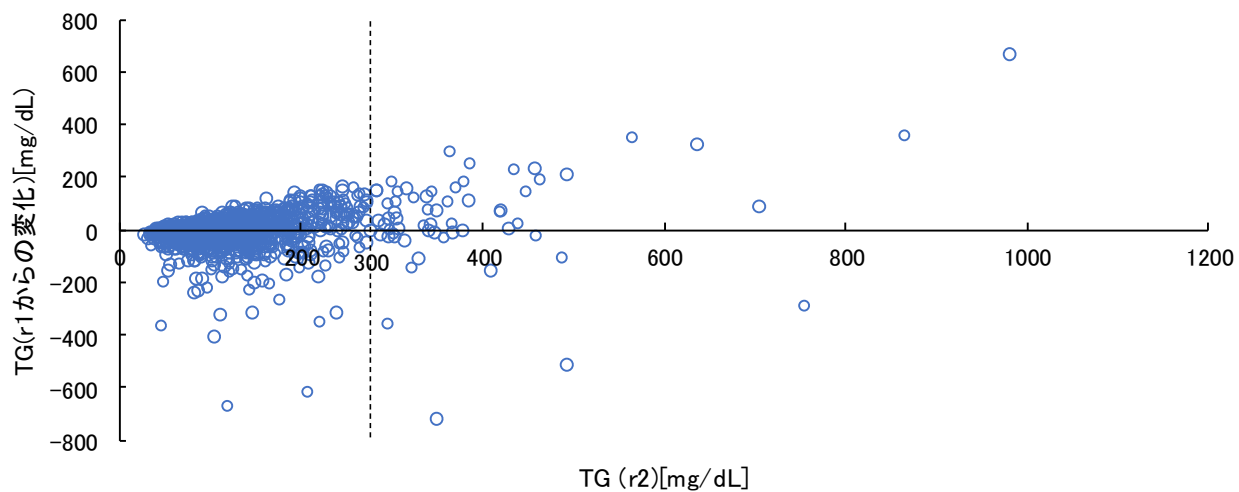


図 9-30 男性の TG の変化

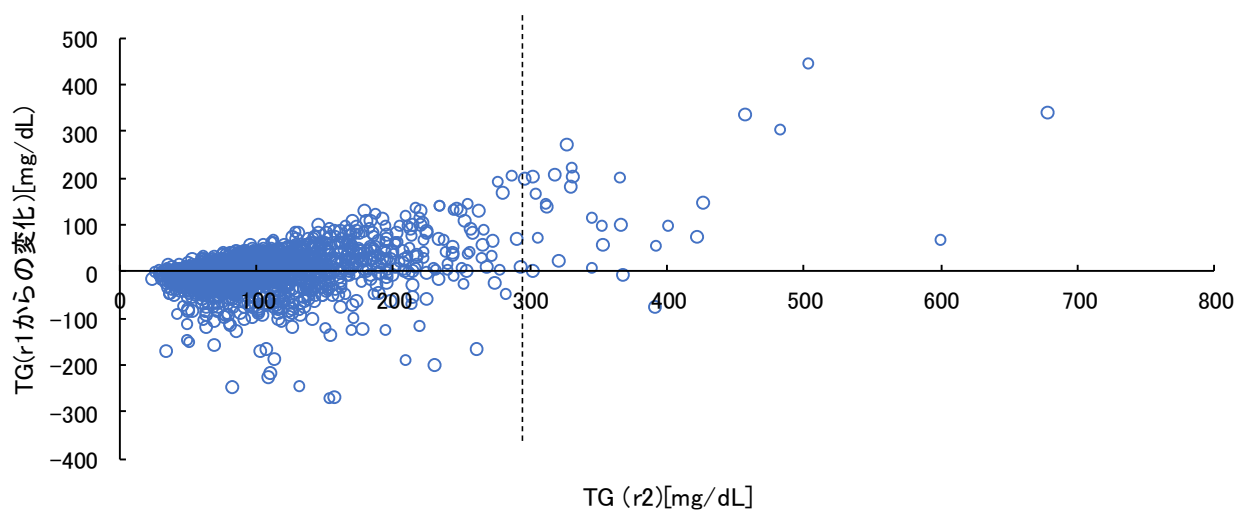


図 9-31 女性の TG の変化

図 9-32 に令和 2 年度の TG 判定結果の割合を性別に示した。令和 2 年度の正常群は男性で 70.0%，女性で 83.1%，軽度高中性脂肪血症群は男性で 25.6%，女性で 14.7%であった。TG 判定が中度～高度高中性脂肪血症群は男性で 4.2%，女性で 1.9%であった。

図 9-33 に男性，図 9-34 に女性の令和 2 年度の TG 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性は正常群の割合は 61～73%，女性は 81～87%であることがわかった。男性は中度～高度高中性脂肪血症群の割合は年齢とともに減少していたが，女性は増加していた。

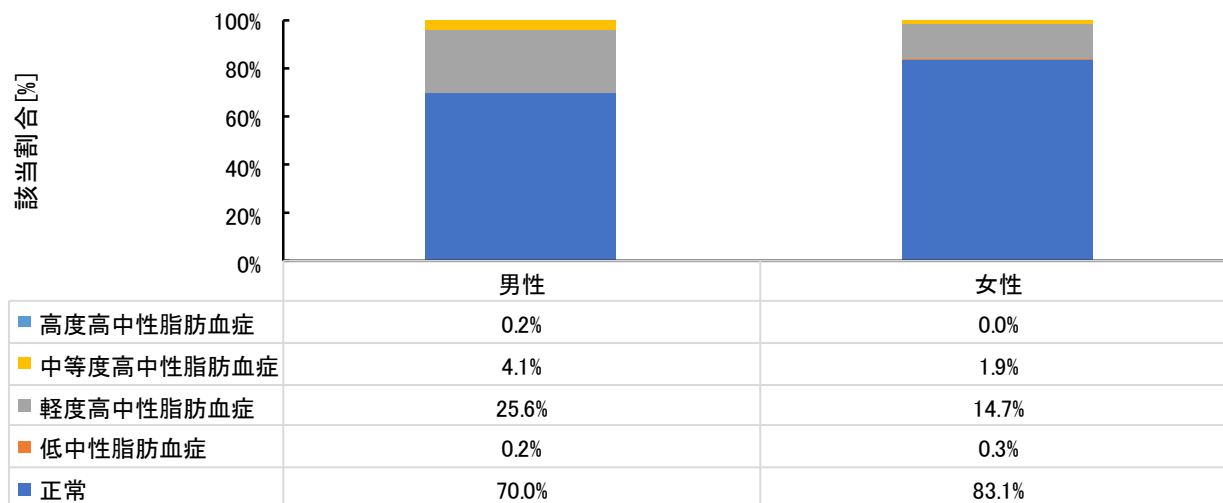


図 9-32 TG 判定の結果

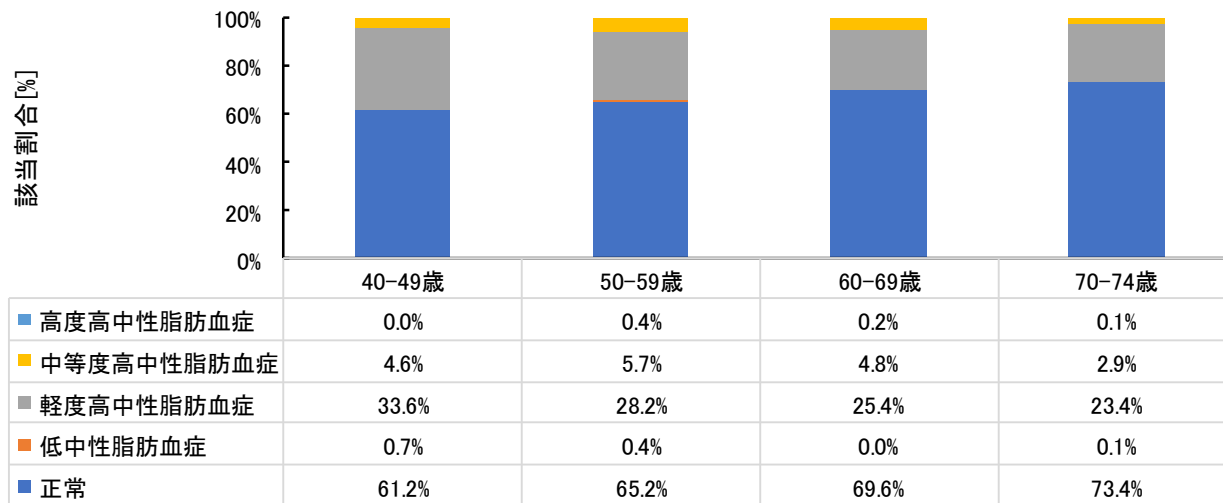


図 9-33 男性の年齢階級別の TG 判定の結果



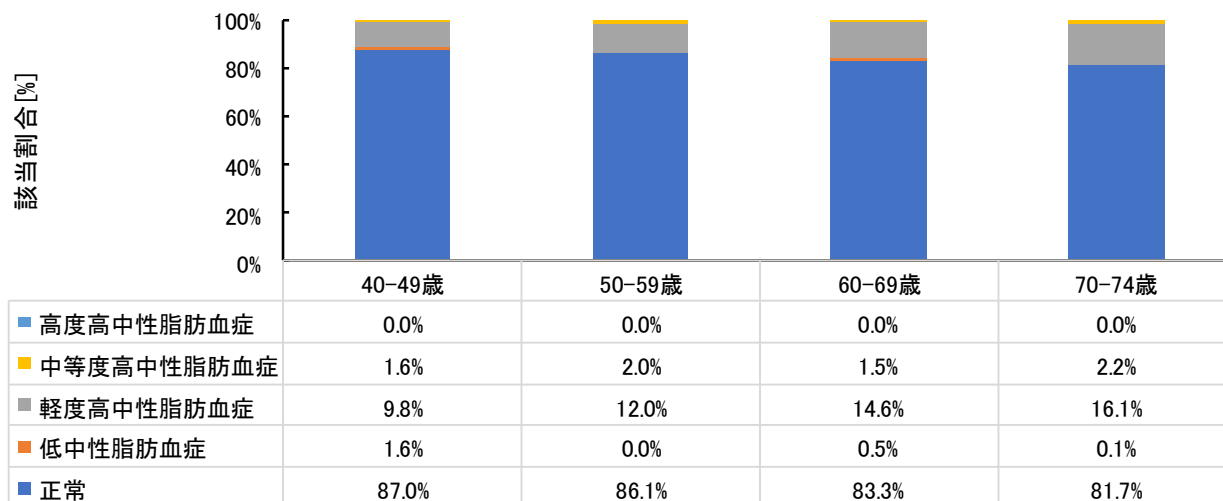


図 9-34 女性の年齢階級別の TG 判定の結果

#### 4.8. HDL コレステロールの状況

HDL コレステロールの判定は正常群(40-99mg/dl), 要注意群(20-39mg/dl), 異常群(19mg/dl 以下または 100mg/dl 以上)と定義した。

図 9-35 に HDL コレステロールの度数分布を性別に示した。男性は 60~69mg/dl にピーク, 女性は 70~79mg/dl にピークがある分布であった。100mg/dl 以上の人数は男性は 48 人(3%), 女性は 165 人(8%)であった。39mg/dl 以下の人数は男性は 7 名, 女性は 1 名であった。

図 9-36 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの HDL コレステロールの変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果,  $\pm 4$ mg/dl の割合が男性は 71%, 女性は 68%であった。15mg/dl 以上減少したのは男性は 8%, 女性は 9%であった。100mg/dl 以上増加したのは男女ともに 3%であった。

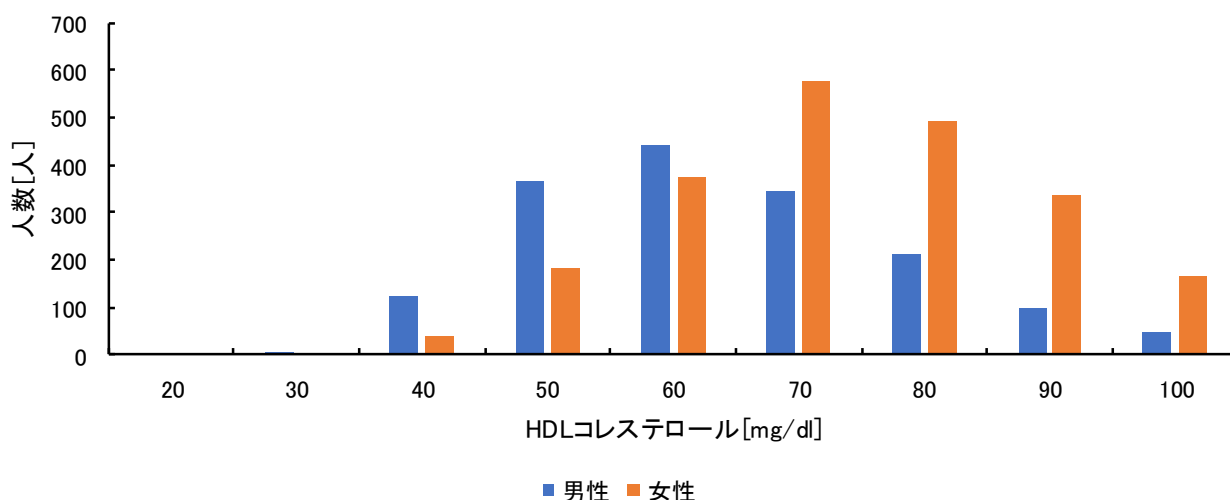


図 9-35 HDL コレステロールの度数分布

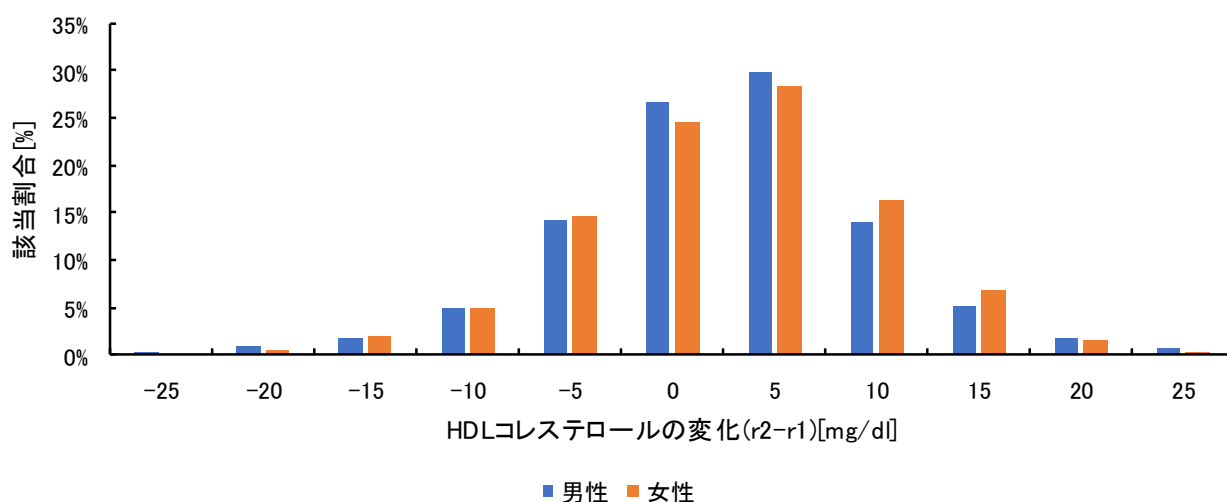


図 9-36 HDL コレステロールの変化

図 9-37 に令和 2 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を性別に示した。令和 2 年度の正常群は男性で 91.1%、女性で 91.1%、要注意群は男性で 6.0%、女性で 1.3%であった。異常群は男性で 3.0%、女性で 7.6%であった。

図 9-38 に男性、図 9-39 に女性の令和 2 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性は正常群の割合は 90~92%、女性は 86~92%であることがわかった。男性は女性と比べ、異常群ではなく、要注意群の割合が高い傾向にあったが、女性は異常群の割合が高いことがわかった。

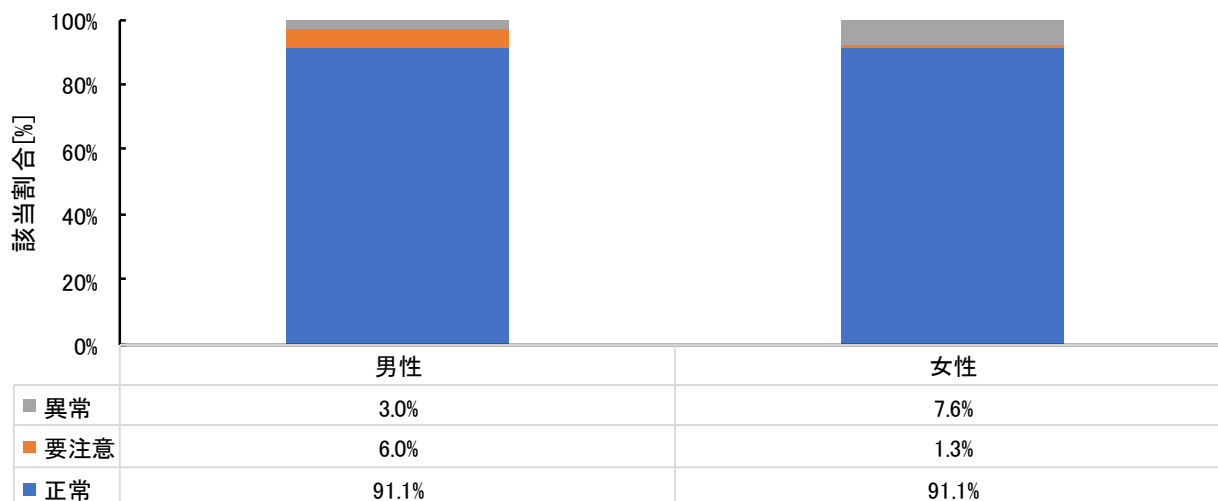


図 9-37 HDL コレステロール判定の結果

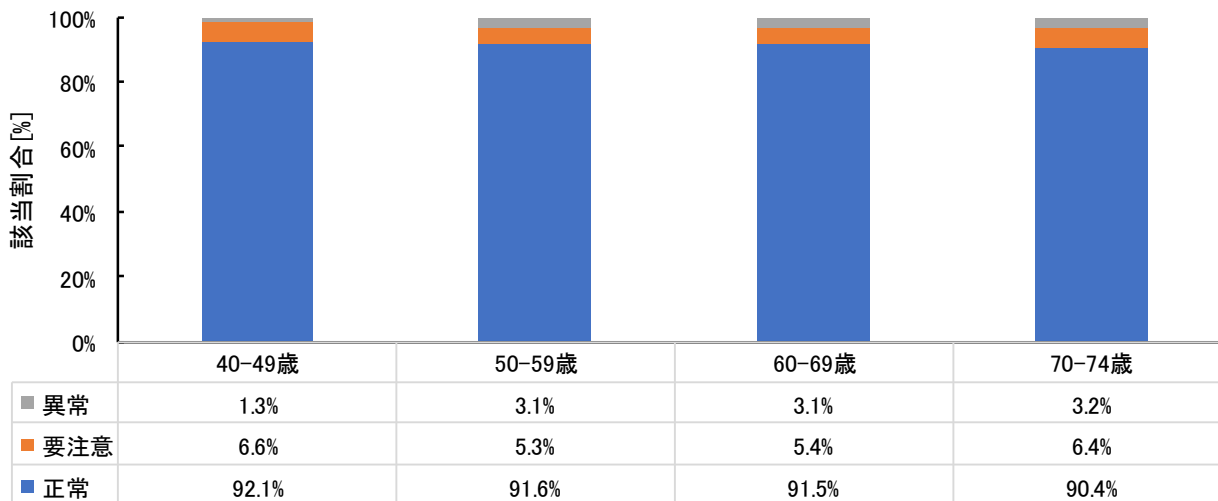


図 9-38 男性の年齢階級別の HDL コレステロール判定の結果

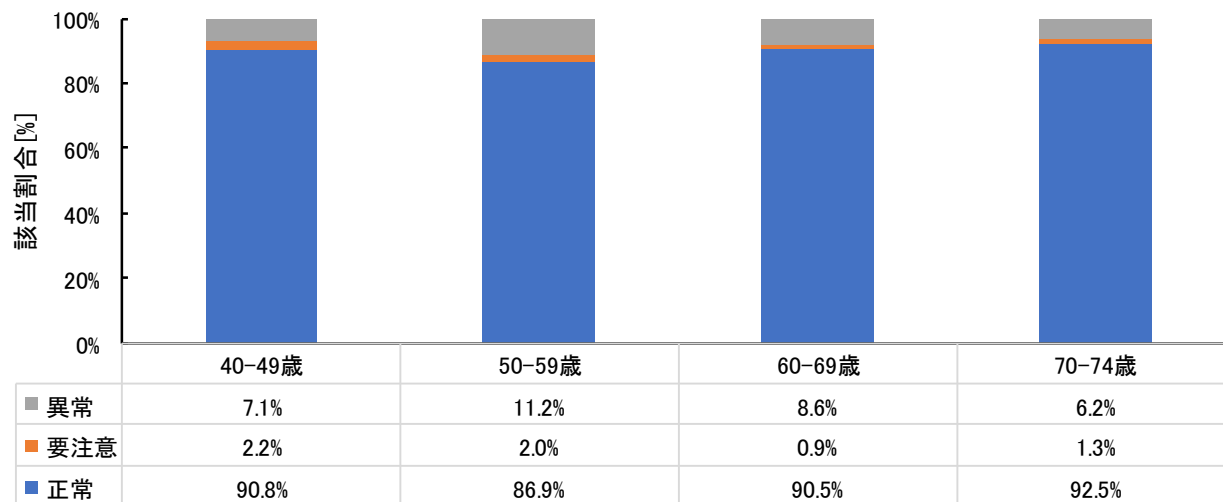


図 9-39 女性の年齢階級別の HDL コレステロール判定の結果

#### 4.9. LDL コレステロールの状況

LDL コレステロールの判定は正常群(60-119mg/dl), 要注意群(120-179mg/dl), 異常群(59mg/dl 以下または 180mg/dl 以上)と定義した。

図 9-40 に LDL コレステロールの度数分布を性別に示した。男性は 130~139mg/dl にピーク, 女性は 120~129mg/dl, 130~139mg/dl, 140~149mg/dl にピークがある分布であった。120mg/dl 以上の人数は男性は 1050 人(63%), 女性は 1715 人(75%)であった。180mg/dl 以上の人数は男性は 94 人(6%), 女性は 199 人(9%)であった。39mg/dl 以下の人数は男性は 10 名, 女性は 4 名であった。

図 9-41 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの LDL コレステロールの変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果,  $\pm 10$ mg/dl の割合が男女ともに 60%であった。40mg/dl 以上減少したのは男性は 5%, 女性は 4%であった。100mg/dl 以上増加したのは男性は 3%, 女性は 4%であった。

図 9-42 に男性, 図 9-43 に女性の令和 2 年度を基準に令和元年度からの LDL コレステロールの変化を散布図に示した。縦の破線は LDL コレステロール判定の異常群の LDL コレステロール 180mg/dl のラインに引いている。男女ともに令和 2 年度に LDL コレステロールが 180mg/dl 以上の該当者は令和元年度から LDL コレステロールが増加傾向にあった。正常群(60-119mg)は減少傾向であった。

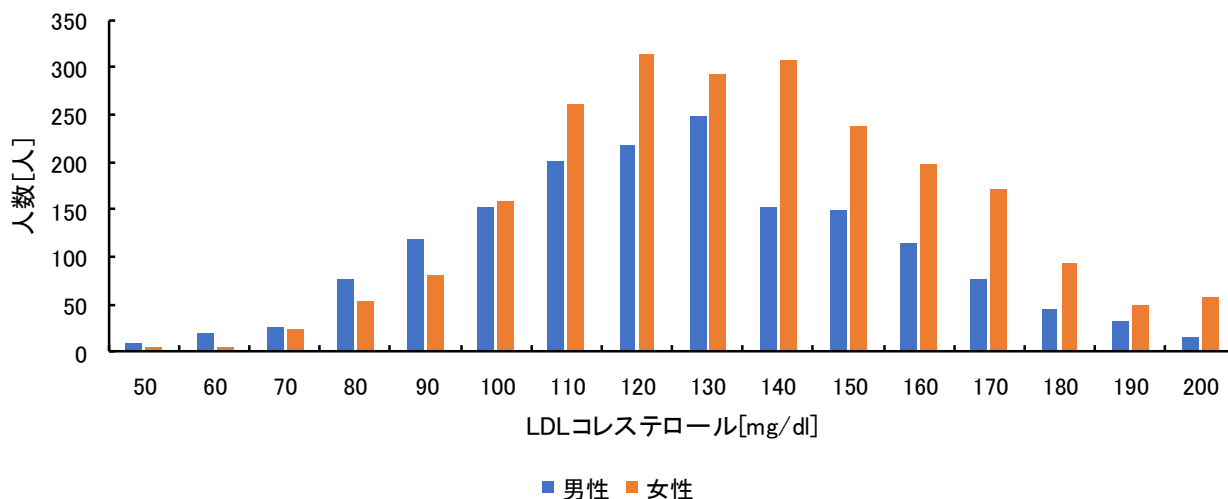


図 9-40 LDL コレステロールの度数分布

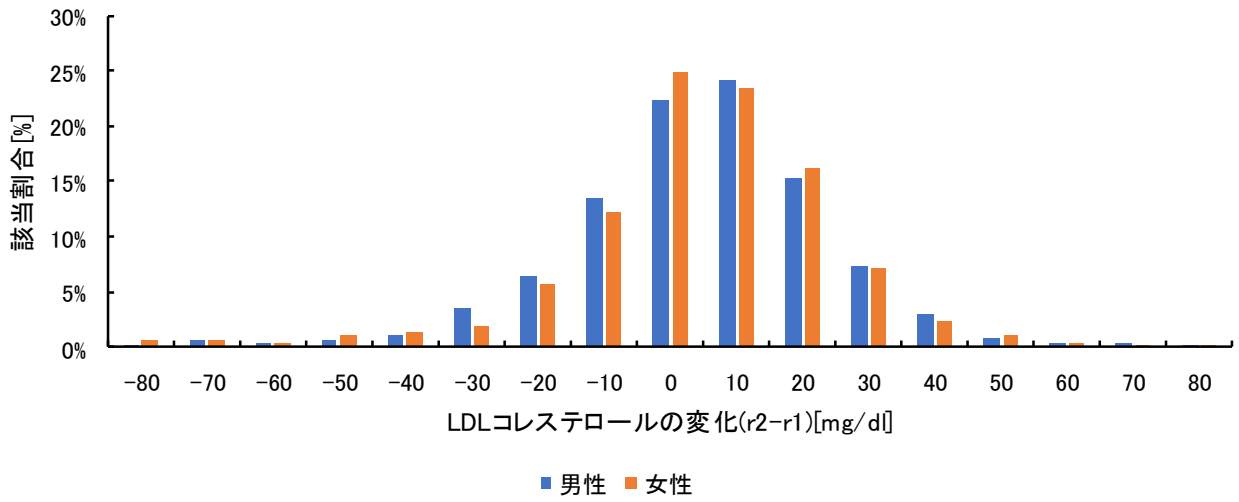


図 9-41 LDL コレステロールの変化

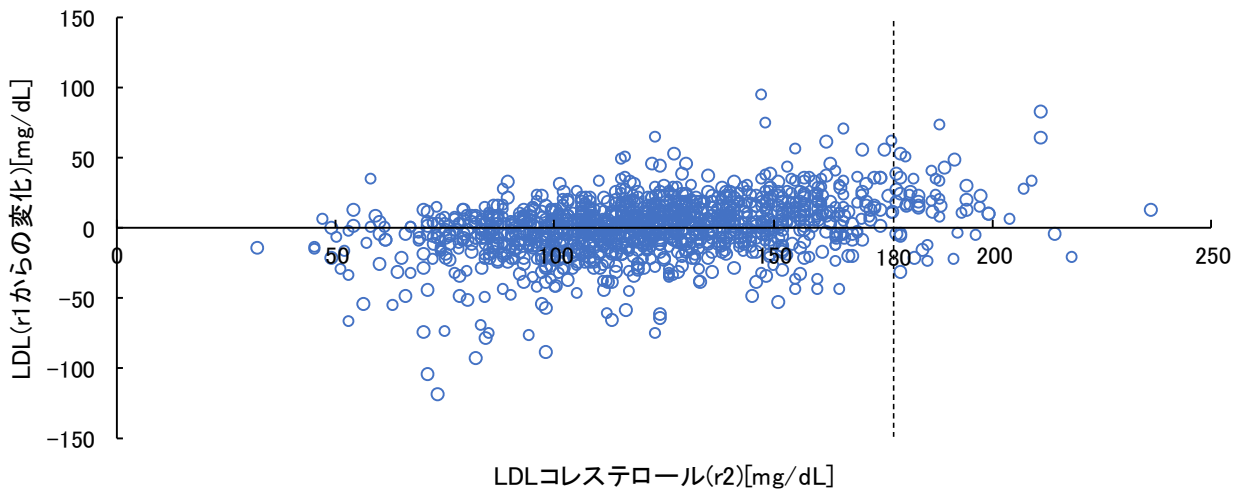


図 9-42 男性の LDL コレステロールの変化

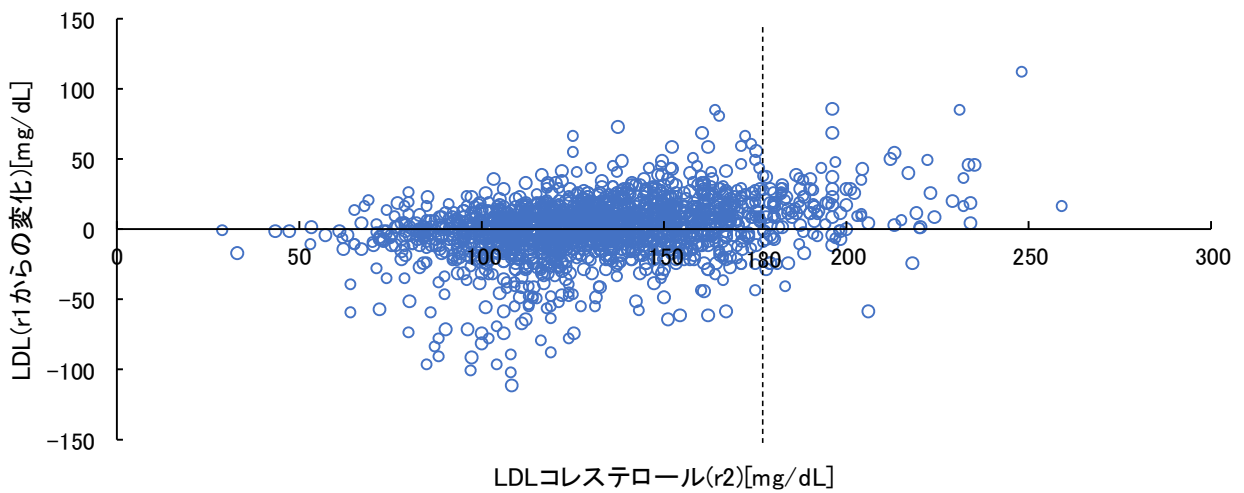


図 9-43 女性の LDL コレステロールの変化

図 9-44 に令和 2 年度の LDL コレステロール判定結果の割合を性別に示した。令和 2 年度の正常群は男性で 46.7%、女性で 36.3%、要注意群は男性で 47.4%、女性で 56.4%であった。異常群は男性で 6.0%、女性で 7.3%であった。

図 9-45 に男性、図 9-46 に女性の令和 2 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性は年齢に伴い正常群の割合が増加し、要注意群の割合は低下していることがわかった。女性は年齢に伴い正常群の割合は低下し、要注意群の割合が増加していた。

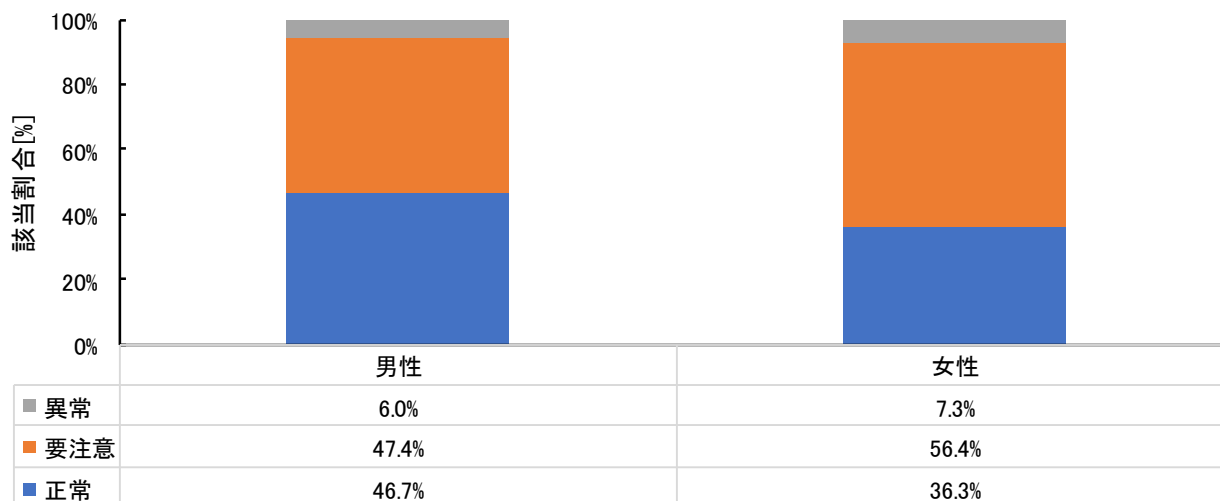


図 9-44 LDL コレステロール判定の結果

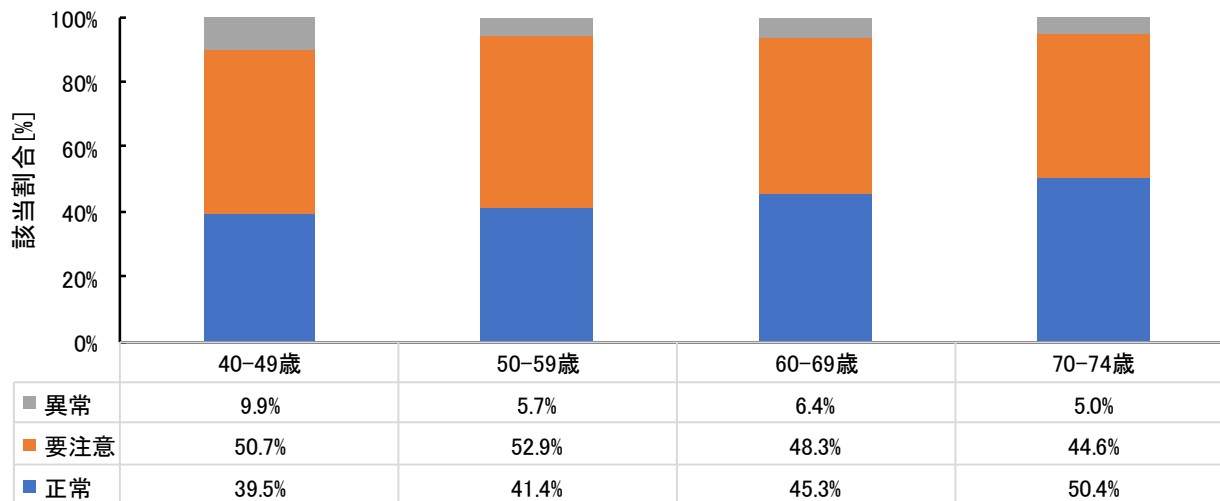


図 9-45 男性の年齢階級別の LDL コレステロール判定の結果

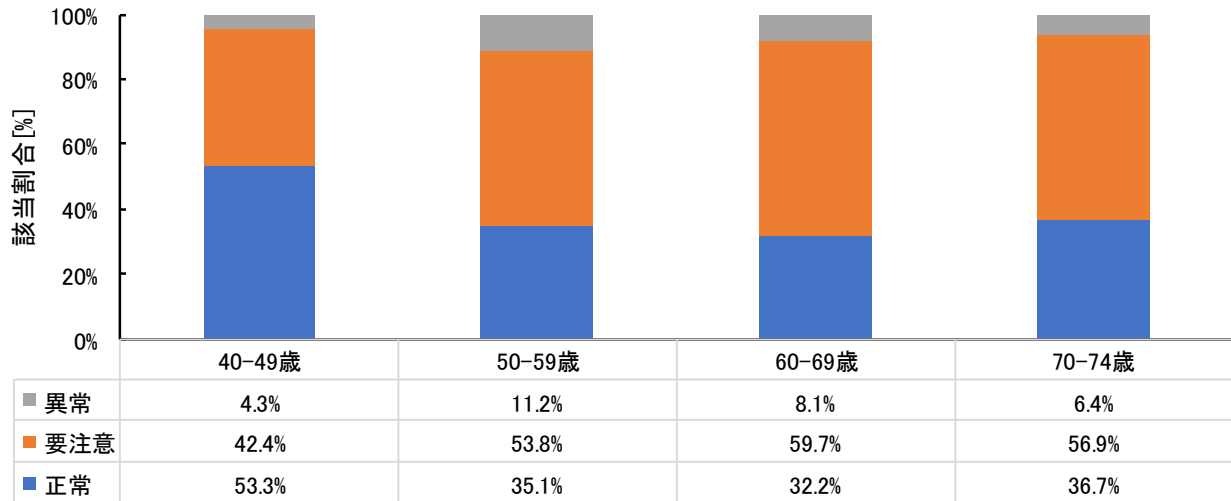


図 9-46 女性の年齢階級別の LDL コレステロール判定の結果



#### 4.10. GOT・GPT・ $\gamma$ -GTP の状況

図 9-47 に GOT, 9-48 に GPT, 9-49 に  $\gamma$ -GTP の度数分布を性別に示した。GOT は男女ともに 40~69IU/L, GPT は 45~84IU/L にピークがある分布であった。 $\gamma$ -GTP は男性は 40~59IU/L, 女性は 20~39IU/L にピークがある分布であった。

図 9-50 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの GOT の変化, 9-51 に GPT の変化, 9-52 に  $\gamma$ -GTP の変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果, 男女ともに 90%以上が GOT, GTP は  $\pm 10$ IU/L の変化であった。 $\gamma$ -GTP も男性は 97%, 女性は 99%が  $\pm 50$ IU/L の変化であった。

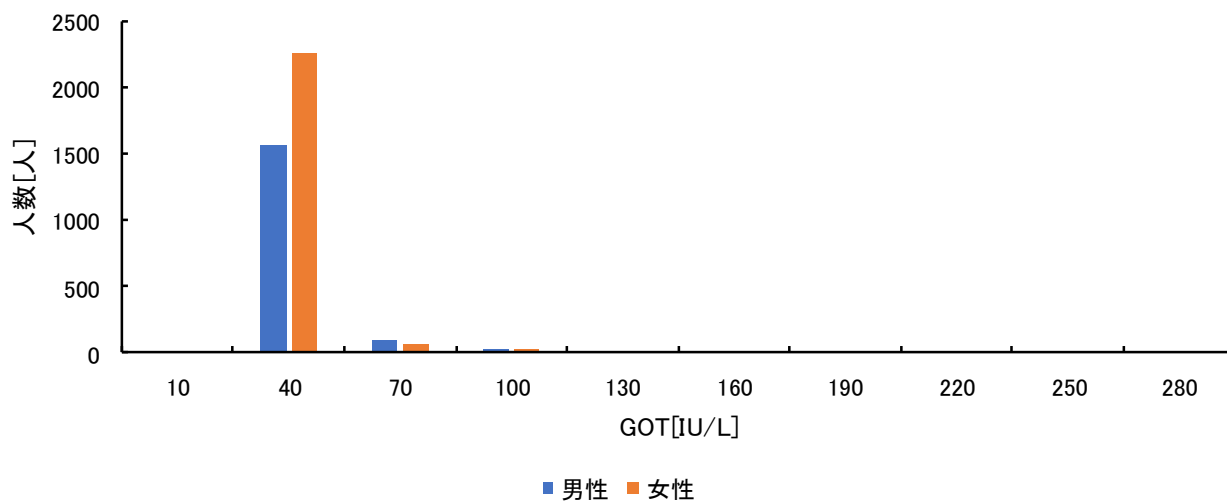


図 9-47 GOT の度数分布

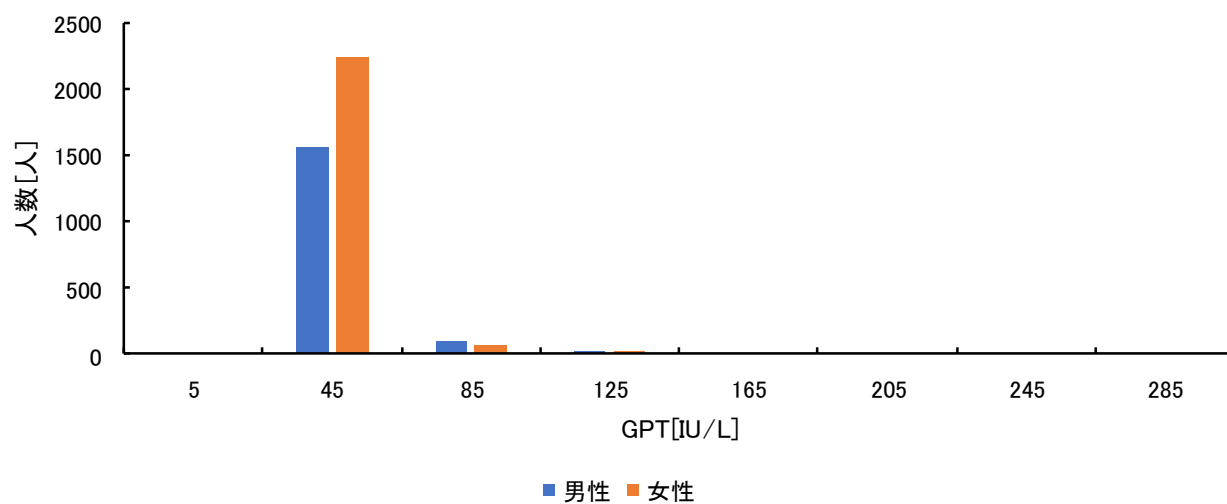


図 9-48 GPT の度数分布

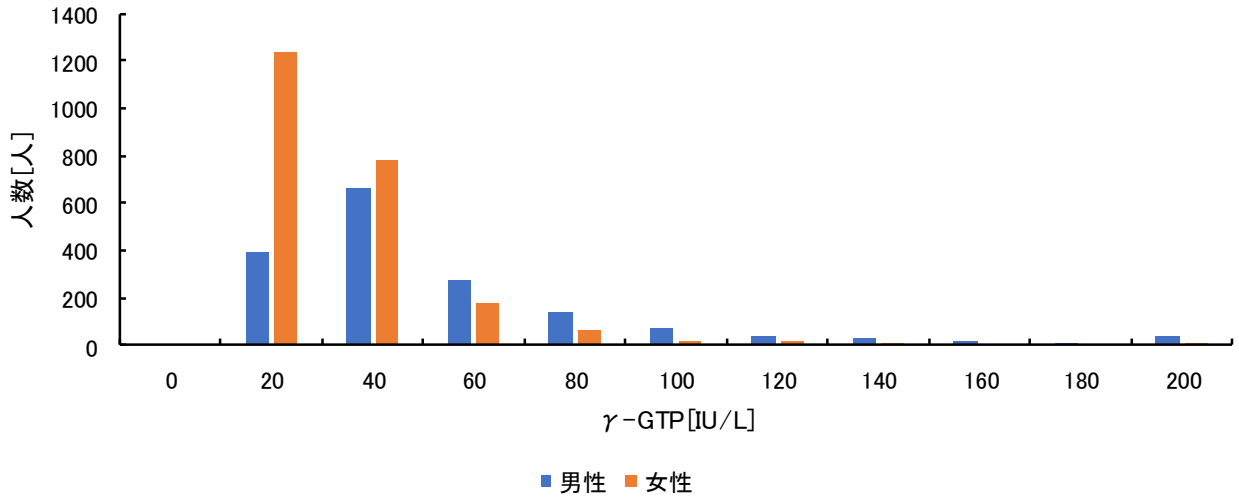


図 9-49 γ-GTP の度数分布

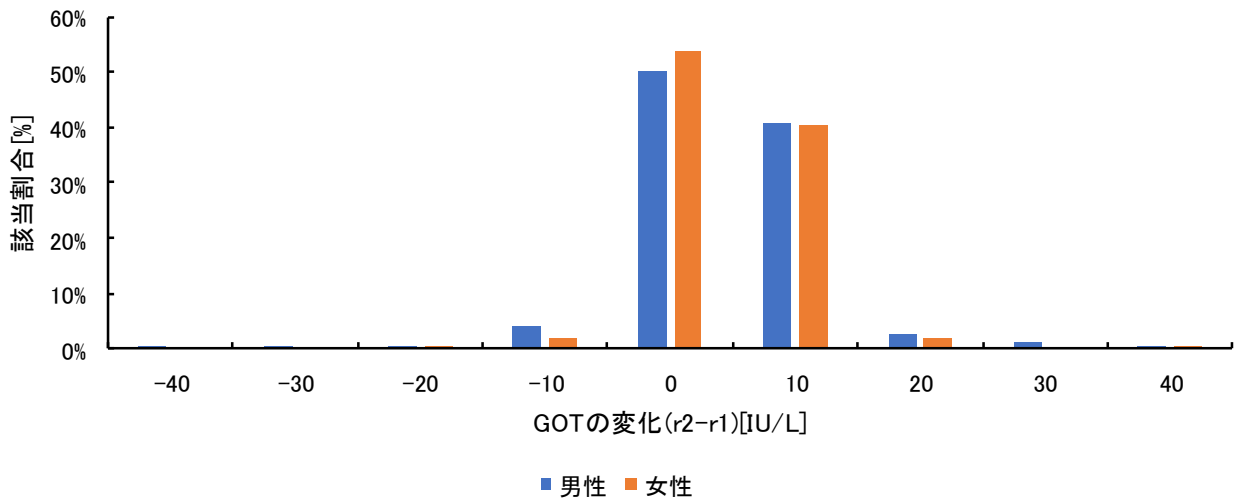


図 9-50 GOT の変化

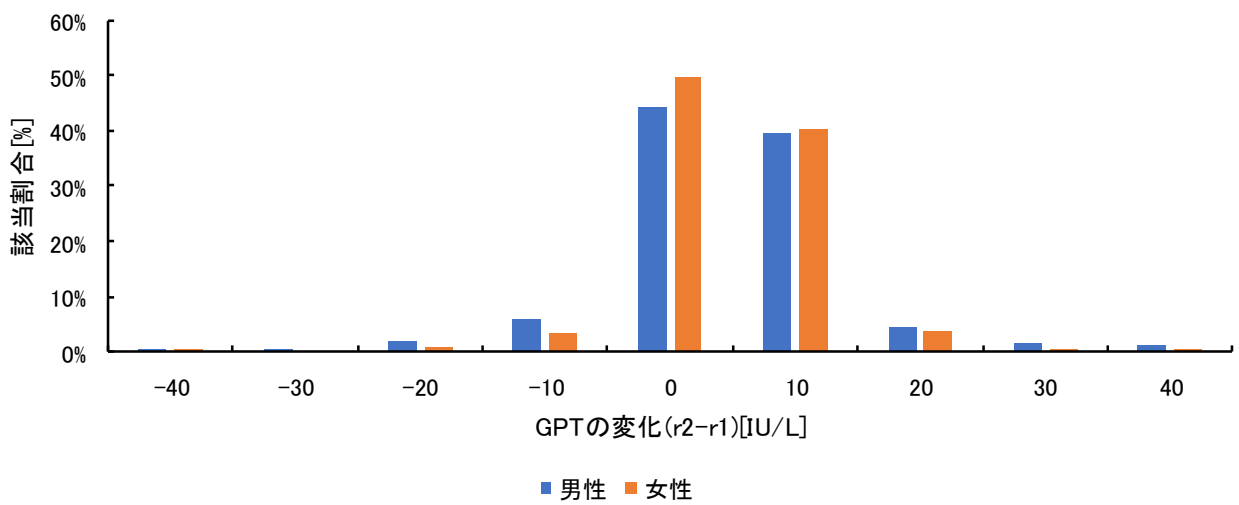


図 9-51 GPT の変化

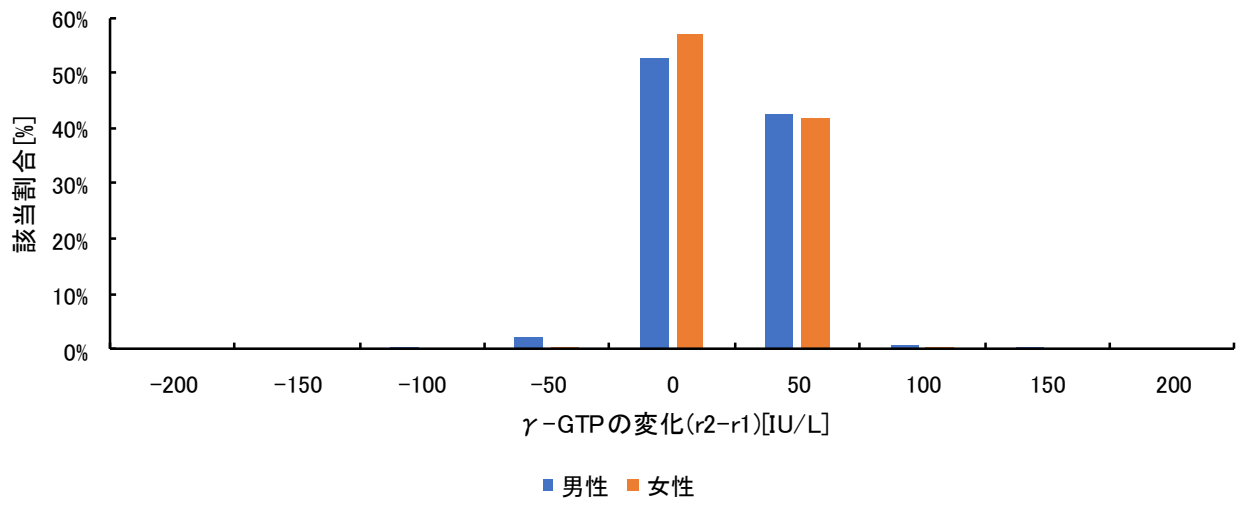


図 9-52 γ-GTP の変化

#### 4.11. 血清クレアチニンの状況

図 9-53 に血清クレアチニンの度数分布を性別に示した。男性は 0.9mg/dl にピーク、女性は 0.7mg/dl にピークがある分布であった。男性の 1.0mg/dl 以上の人数は 603 人 (37%)、女性の 0.7mg/dl 以上の人数は 1507 人 (65%) であった。

図 9-54 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの LDL コレステロールの変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果、 $\pm 0.1\text{mg/dl}$  の割合が男性は 66%、女性は 91% であった。

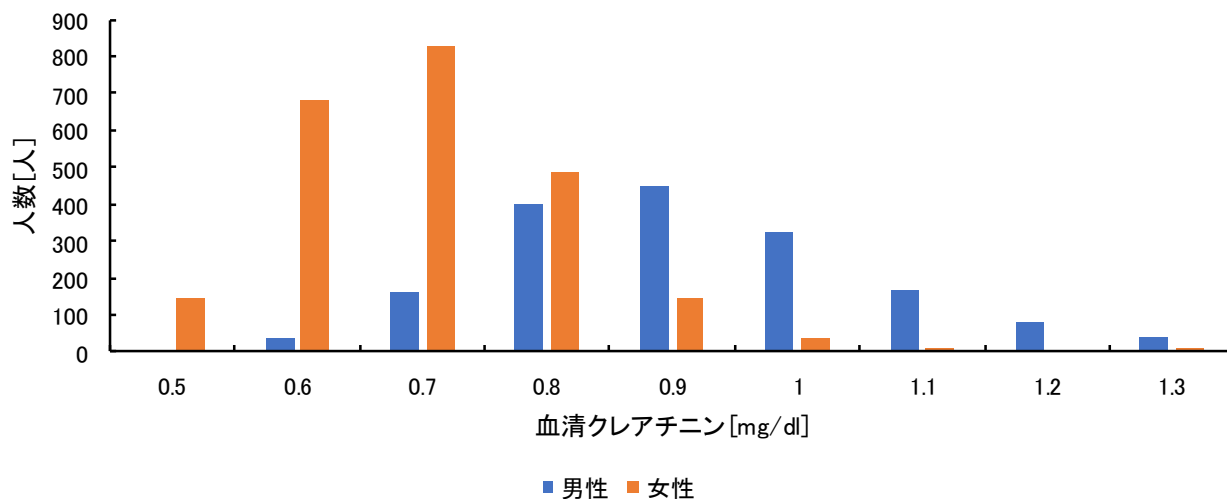


図 9-53 血清クレアチニンの度数分布

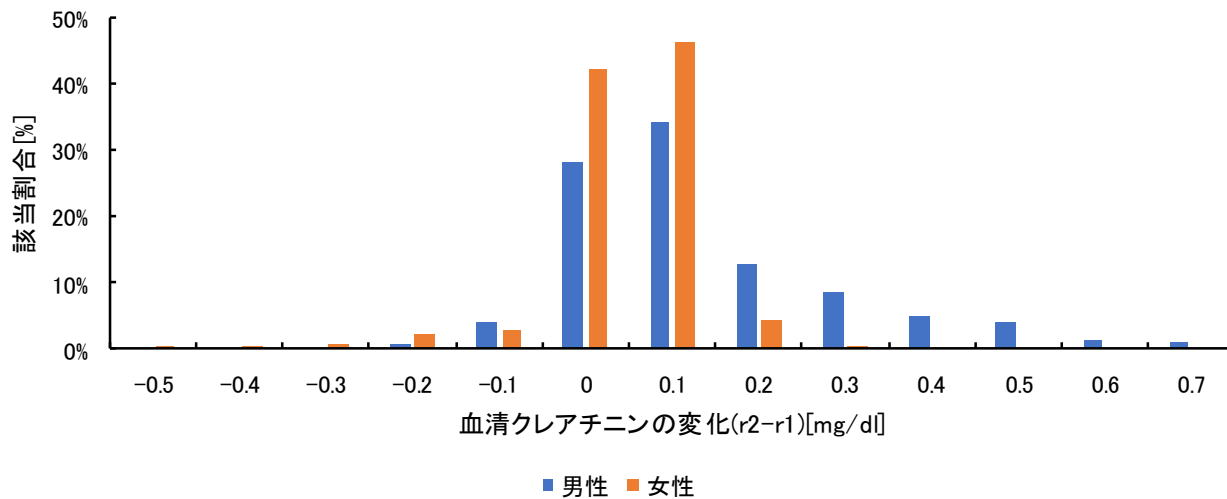


図 9-54 血清クレアチニンの変化

#### 4.12. eGFR の状況

eGFR 判定は正常群(90[ml/分/1.73 m<sup>2</sup>(以下単位 省略)]), 軽度腎機能低下群(60-89), 中等度腎機能低下群(30-59), 高度腎機能低下群(15-29), 末期腎不全群(15 未満)と定義した。

図 9-55 に eGFR の度数分布を性別に示した。eGFR は血清クレアチニンから算出し, 腎臓が老廃物を尿へ排出する能力がどの程度あるかを示している。腎臓における血液の濾過量のため, 値が小さくなるほど濾過機能が悪いことを意味する。男女ともに 75~89 ml/min/1.73m<sup>2</sup> にピークがある分布であり, 軽度腎機能低下群(60-89 ml/min/1.73m<sup>2</sup>)の人数が多いことがわかった。

図 9-56 に令和 2 年度を基準に令和元年度からの eGFR の変化を性別に示した。令和元年度と令和 2 年度を比較した結果, ±5ml/min/1.73m<sup>2</sup> の割合が男性は 77%, 女性は 76%であった。15 ml/min/1.73m<sup>2</sup> 以上減少したのは男性は 3%, 女性は 3%であった。15 ml/min/1.73m<sup>2</sup> 以上増加したのは男性は 3%, 女性は 3%であった。

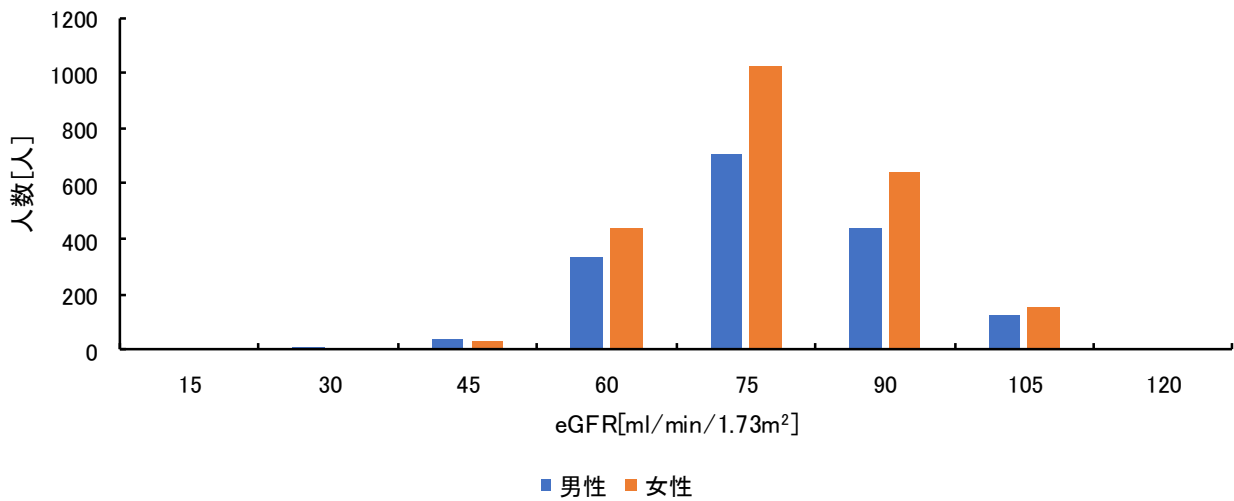


図 9-55 eGFR の度数分布

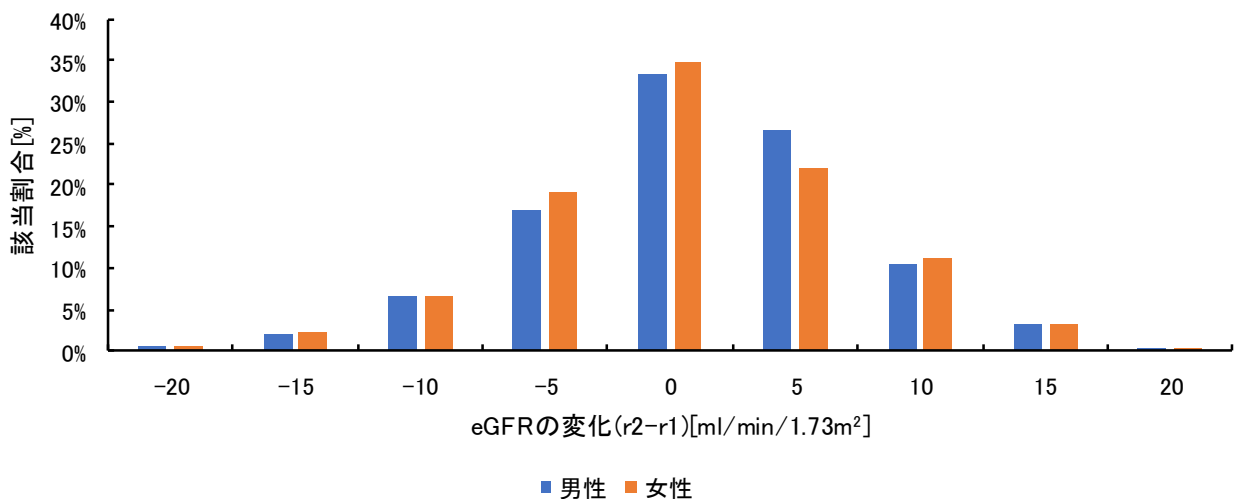


図 9-56 eGFR の変化

図 9-57 に令和 2 年度の eGFR 判定結果の割合を性別に示した。正常群は男性で 8.9%，女性で 8.1%，軽度腎機能低下群は男性で 68.2%，女性で 71.8%であった。eGFR 判定が中度～末期腎不全群は男性で 22.8%，女性で 20.1%であった。

図 9-58 に男性，図 9-59 に女性の令和 2 年度の eGFR 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性は 50-59 歳，女性は 60-69 歳で中等度腎機能低下群の割合が大きく増加していた。70-74 歳では男女ともに正常群の割合は約 5%であった。

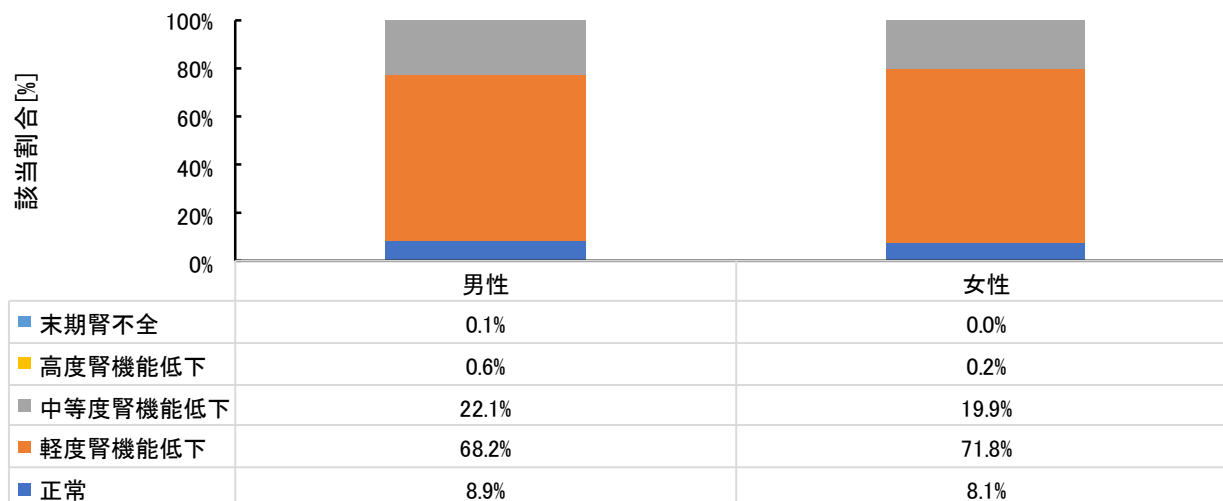


図 9-57 eGFR 判定の結果

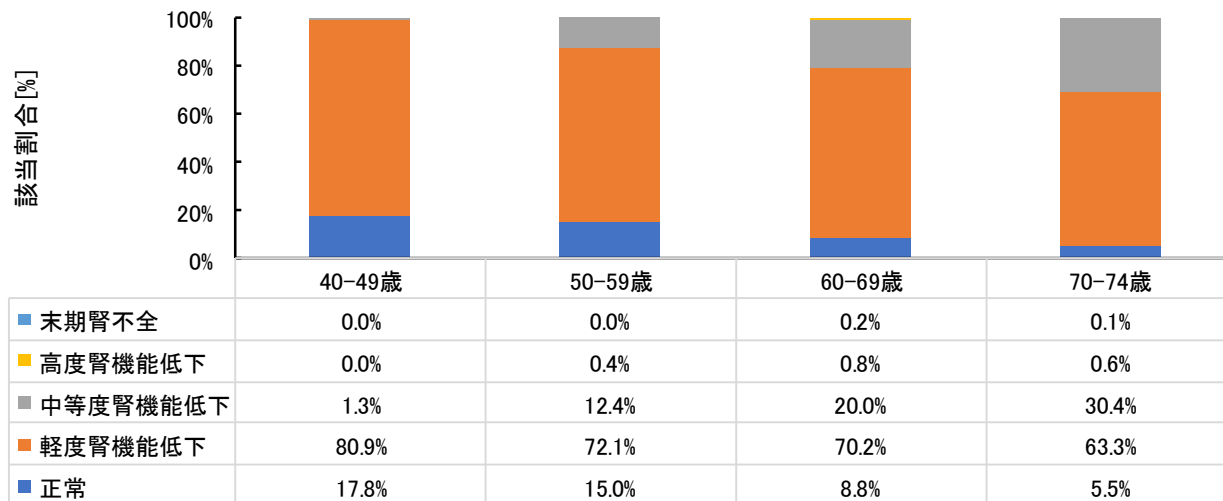


図 9-58 男性の年齢階級別の eGFR 判定の結果

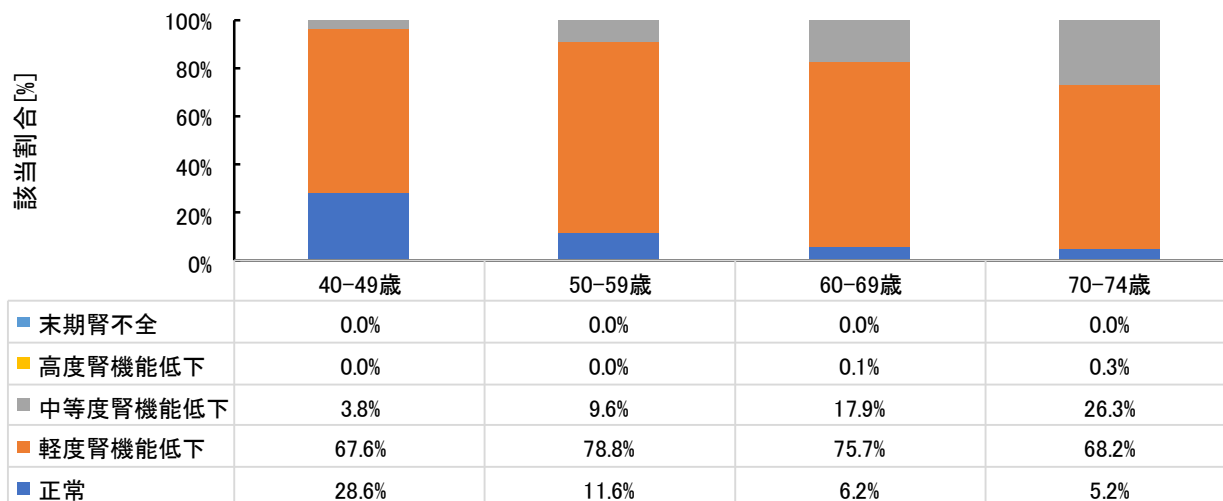


図 9-59 女性の年齢階級別の eGFR 判定の結果

## 第 10 章 まとめ

### 1. 国保医療費のまとめ

- 受療割合は子どもと高齢者で高い。特に、男性の 50 歳以降、女性の 30 歳以降では 50%を超え、高齢期になるほど受療割合、レセプト件数が増加した。受療割合について 60-64 歳では男性で 66.3%、女性で 76.2%、65-69 歳では男性で 78.6%、女性で 83.0%、70-74 歳では男性で 84.4%、女性で 87.6%であった。昨年よりも 60 歳以降の受療割合は低下していた。
- 入院外診療日数が年間 120 日を超える頻回受診者(予備群を含む)は、80 名(平均年齢 64.2 歳)が該当し、男性が 50 名(平均年齢 65.5 歳)、女性が 25 名(平均年齢 68.4 歳)であった。昨年よりも人数が減少した。背景疾患の観点から、精神及び行動の障害に着目すると、統合失調症、気分[感情]障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害の割合が高く、高血圧、腎不全、糖尿病、脂質異常症などの慢性疾患を高い割合で併発していることがわかった。つまり、頻回受診者の特性として、腎不全や慢性疾患に加えて精神及び行動の障害の受診者が多いことがわかった。
- 入院期間が 250 日を超える長期入院患者は、39 名(平均年齢 60.4 歳)が該当し、男性で 24 名(平均年齢 58.9 歳)、女性で 15 名(平均年齢 62.9 歳)であった。昨年よりも人数が減少した。このうち 84%が精神及び行動の障害、あるいは神経系の疾患を罹患していることがわかった。
- 総医療費について患者数が 50 人以上で、一人当たりの医療費が大きいのは、第 3 章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第 2 章 新生物、第 17 章 先天奇形、変形及び染色体異常、第 14 章 腎尿路生殖器系の疾患であった。この傾向は昨年と同様であった。
- 患者数が多く、医療費の総額が大きいのが、第 11 章 消化器、第 4 章 内分泌、栄養及び代謝疾患、第 9 章 循環器系、第 10 章 呼吸器、第 7 章 眼及び付属器の疾患、第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患であった。糖尿病と脂質異常症が含まれる第 4 章、高血圧などの循環器疾患が含まれる第 9 章の人数が昨年よりも増加傾向にある。
- 睡眠障害は 25-29 歳から発生し、40-44 歳で大きく増加した。精神および行動の障害の入院医療費、入院外医療費では、統合失調症、うつ病などの気分障害の医療費が 40~70 歳代まで幅広く大きな割合で発生していた。

#### 1.1. 幼児・若年期

- 幼児、若年層では、アトピーなどの皮膚及び皮下組織の疾患、ウイルス性胃腸炎などの感染症や結膜炎などの眼科、ぜんそくや喉の痛みなどの急性上気道感染症の呼吸器が多い。

#### 1.2. 青・壮年期

- 25~44 歳では、睡眠障害、自律神経発作、うつ病、社会不安障害などの精神及び行動の障害による疾病が増加している。ストレスに対する知識や行動、休養、相談できる環境の利用などの対応が求められる。
- 40 歳代から糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患の割合が急速に増加する。さらに、腎疾患の割合が増加しており、長期に影響する疾病構造が構成されていることから、40 歳からの対策は大きな影響を与えられと考えられる。
- 50 歳代から脳血管疾患、脳出血、脳梗塞の割合が増加する。60 歳代からは脳血管系の入院医療費が大きくなった。脳出血は死亡リスクを高めるだけでなく、麻痺などの生活に大きな影響を与えることから、糖



尿病、脂質異常症などの慢性疾患対策、喫煙、ストレスなどの対応が求められ、適切な食事と運動による予防活動が重要である。

- 心疾患は入院外では 35 歳から、入院では 60 歳代から増加している。脳出血と同様に対策が求められる。

### 1.3. 高齢期

- 高齢期では、糖尿病、脂質異常症等の内分泌、栄養及び代謝疾患、(睡眠障害、多発性ニューロパチー、末梢神経障害性疼痛等の神経系の疾患、高血圧性疾患、心房細動、不整脈、心不全等の循環器系疾患、痛風、関節炎、股関節症、膝関節症、脊柱管狭窄症の筋骨格及び結合組織の疾患が増加していた。特に、ニューロパチーは糖尿病、アルコール、薬剤性が要因として考えられるため、日常生活機能の活動を阻害しないという観点から、正しい知識を持つことと、生活習慣の改善が必要だと考えられる。
- 65 歳から 2 型糖尿病性眼科疾患の医療費が増加している。糖尿病は合併症として神経障害、失明、腎機能障害を引き起こし、医療費を高めるだけではなく、本人の QOL も大幅に低下させる。そのため、中年期以降の正しい知識と行動が求められる。これらの意識喚起が必要である。
- 高齢期では呼吸器系の疾患医療費、患者割合が高い。その中で、急性上気道感染症などが含まれる。一般的に高齢者では鼻水が減少する傾向にある。鼻水が出ている人の中には薬剤性鼻炎など薬に由来するものも少なくない。花粉症やアレルギーだと考えて抗コリン系薬剤などを服用すると認知症リスクを高めることとなる。風邪や急性上気道感染症などの知識を正しく持つことが重要である。
- 60 歳代から脳血管疾患が増加している。合わせてアテローム粥状硬化症(動脈硬化)が増加している。アテローム粥状硬化症は、大動脈や脳動脈、冠動脈などの太い動脈に起こる動脈硬化症である。原因として、動脈の内側の膜(血管内膜)にコレステロールなどの脂肪からなるドロドロした物質がたまり、そして、傷がつくことでアテローム(粥状硬化巣)ができ、時間の経過とともに厚くなることで、動脈の内腔が狭くなることで、脳血管疾患や心疾患につながる。血管の石灰化なども引き起こすことから、心疾患、脳血管治療の困難度を高めるため、予後不良となるため注意が必要である。
- 膝関節症は入院外では 40 歳以降、入院では 60 歳以降で受療割合が増加し、医療費が高まっている。関節疾患は下肢筋力の向上、歩行、靴の対策などにより予防ができるため、早期の対策が必要である。
- 肺炎の入院受療割合は 65-69 歳から大きく増加していた。肺炎は死亡リスクを高めるだけではなく、要介護要因にもなることから口腔衛生や入れ歯の対策が求められる。

## 2. 特定健診のまとめ

- 男性のメタボ基準該当者は 34.8%が該当していた。女性のメタボ基準該当者は 10.6%が該当していた。男性の割合が高いことがわかった。
- BMI 判定結果の状況は、男性の肥満該当者(BMI25 以上)は 32.3%、やせ型(BMI18.5 未満)は 3.3%であった。女性の肥満該当者は 19.9%、やせ型は 13.6%であった。やせ型はサルコペニアや体力の低下を起しやすく、特に注意が必要である。合わせて肥満対策も糖尿病などの慢性疾患対策を合わせて必要な状況にある。さらに、前年度との比較を行ったところ、男性のやせ型でさらに体重が減少したのが 62.2%、肥満型でさらに体重が増加したのが 63.9%であった。女性ではやせ型でさらに体重が減少したのは 59.3%、肥満型でさらに体重が増加したのは 56.7%であった。
- HbA1c 判定結果より、男性の正常群は 42.4%、要注意群は 31.5%、糖尿病が否定できない群は 13.0%、糖尿

病型群は 13.0%であった。女性の正常群は 44.3%、要注意群は 36.8%、糖尿病が否定できない群は 11.3%、糖尿病型群は 7.6%であった。

- 令和元年と令和 2 年の両方の特定健診を受診した人のうち、HbA1c が正常から糖尿病が否定できない、糖尿病型に悪化したのは男性で 0.4%、女性で 0.5%であった。要注意から悪化したのは男性で 9.8%、女性で 8.1%、改善したのは男性で 20.8%、女性で 23.9%であった。糖尿病が否定できないから悪化したのは男性で 15.6%、女性で 5.3%、改善したのは男性で 31.1%、女性で 30.5%であった。糖尿病型から改善したのは男性で 30.5%、女性で 26.1%であった。特定健診を継続して受診することで改善効果が認められる。
- BMI25 以上の肥満型には、HbA1c の高値が多く、糖尿病リスクが高いことがわかった。糖尿病が否定できない、糖尿病型を合わせた割合は、36.9%であり、やせ型に比べ、男性は 2.3 倍、女性は 4.2 倍高かった。
- さらに BMI25 以上かつ腹囲が男性で 85cm、女性で 90cm 以上に該当した人は、糖尿病が否定できない、糖尿病型を合わせた割合は、男性で 37.2%、女性で 38.2%であり、非該当者に比べて、男性で 1.7 倍、女性で 2.3 倍高い状況にあった。
- 腎機能に関連する eGFR は加齢とともに判定が悪化する傾向にあった。中等度以上に該当したのは、男性では、40 歳代の 1.3%から 60 歳代には急激に増加(21.0%)し、70 歳代には 31.1%に増加した。女性では、40 歳代で 3.8%であったのに対し、60 歳代には 18.0%、70 歳代には 26.6%に増加した。これら対象者は腎機能低下による人工透析のリスクも考えられることから、直接的な指導による改善が求められる。

### 3. 今後の方向性

- 志木市では ICT を活用した歩行の見える化活動を継続的に実施し、参加者も多く、市民が楽しんで活動している。継続率も高く、中長期的な実施が健康づくりに直接的に効果を高めている。これは運動習慣の定着に有効であり、睡眠障害の割合低下などに寄与していると推察する。
- 特定健診で課題がある対象者は、見える化できるインフラを利用し、糖尿病などの慢性疾患、心疾患などの対策に有用な可能性がある。
- 心疾患、脳血管疾患等のリハビリ後の日常生活機能の評価、うつ病などの精神および行動の障害、関節症の予防・改善につながる疾病対策の見える化につなげたい。
- 運動習慣は仲間づくりやサークルなどの集まる場所があることで楽しく身に着けることができる。これらの人との交流が精神的安定性などを高めることにつながる。運動習慣は疾病管理に有用であるが、これが目的ではなく、人生の質や充実した日常生活を継続するための手段であり、ツールである。これらのツールを効果的に取り入れ、国保医療費や特定健診の結果が改善できるよう取り組みを進めるべきである。

以上